

「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」 整備基本計画



札幌市

目次

第1章	事業の目的	1
第2章	事業の位置付けと計画策定の経緯	2
1	事業の位置付け	
2	基本計画の策定に至る経緯	
第3章	周辺地域の環境	5
1	札幌の縄文遺跡	
2	遺跡の位置と周辺の環境	
第4章	丘珠縄文遺跡の概要	13
1	調査の経緯	
2	確認調査の方針と方法	
3	遺跡の概要	
第5章	基本方針	25
1	整備の意義	
2	遺跡公園の位置付け	
3	遺跡公園のテーマ	
4	整備の基本方針	
5	整備の方向性	
第6章	整備計画	29
1	ゾーニング	
2	遺跡の保存と整備・活用	
3	調査・研究	
4	体験活動	
5	ガイダンス施設・体験施設	
6	便益施設	
7	植栽等	
8	公開・活用計画	
9	管理・運営計画	
第7章	事業スケジュール	59
資料編		60
1	検討委員会の設置・運営	
2	市民意見の集約	
3	市民との情報共有	
4	意見交換会の結果	
5	アンケート調査の結果	
6	パブリックコメント手続	
附編	「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本計画概要版	

第1章 事業の目的

近年、歴史や文化を尊重し、環境に配慮した生活空間を希求する社会的要請を背景に、遺跡を活用した歴史学習、体験学習、環境学習の場として、「遺跡公園」の設置に対する要望が高まり、全国的にその整備が進んでいます。

このような社会的要請を受けて、文化庁では、平成19年に「埋蔵文化財行政の推進による地域づくり・ひとづくり」という新たな方向性を提示する報告書^{※1}をまとめ、地方公共団体に対し、埋蔵文化財の公開・活用に重点をおいた施策を積極的に進めるよう求めています。

このような社会的な気運の高まりを踏まえた上で、本市では、札幌の特色ある文化財を積極的に活用していく方針のもと、札幌市農業体験交流施設サッポロさとらんど内に保存されている縄文文化の遺跡、H508遺跡^{※2}を活用して、市内初の遺跡公園を整備することを計画しています。

H508遺跡は、サッポロさとらんど^{※3}の造成に先立ち、平成4・5年に実施した試掘調査によって発見され、その後、現地の地下に保存されてきた、市内でも有数の広がりをもつ縄文晩期^{※3}の遺跡です。縄文文化の遺跡は、市内各所に分布していますが、このH508遺跡は、札幌の低地部に広がった環境に適応した人々のくらしの原形を表す遺跡と評価されています。

本事業は、札幌の縄文文化の魅力を発信するために、H508遺跡を適切に保存し、地域の歴史資源、文化資源、教育資源として、市民の皆様とともに、その価値を将来へと伝えていくことを目的としています。

この基本計画（案）は、以上の目的を踏まえて、平成26年8月に策定した基本構想に基づき、遺跡公園の整備に向けた基本的な考え方と具体的な整備方針をまとめたものです。

なお、基本構想と基本計画の策定に向けて、遺跡の内容をわかりやすく発信することを目指して、平成26年度から、H508遺跡を通称「丘珠縄文遺跡」^{※4}と呼ぶこととし、この基本計画の名称を『「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本計画』とします。

※1 『埋蔵文化財の保存と活用（報告）～地域づくり・ひとづくりを目指す埋蔵文化財保護行政～』（平成19年2月1日 埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会 文化庁）

※2 「H508」（えっちごひやくはち）とは、遺跡が所在する東区（「HIGASHIKU」）の頭文字である「H」と、札幌市内で508番目に遺跡として登載されたことを示す番号とを組み合わせた遺跡の名称です。

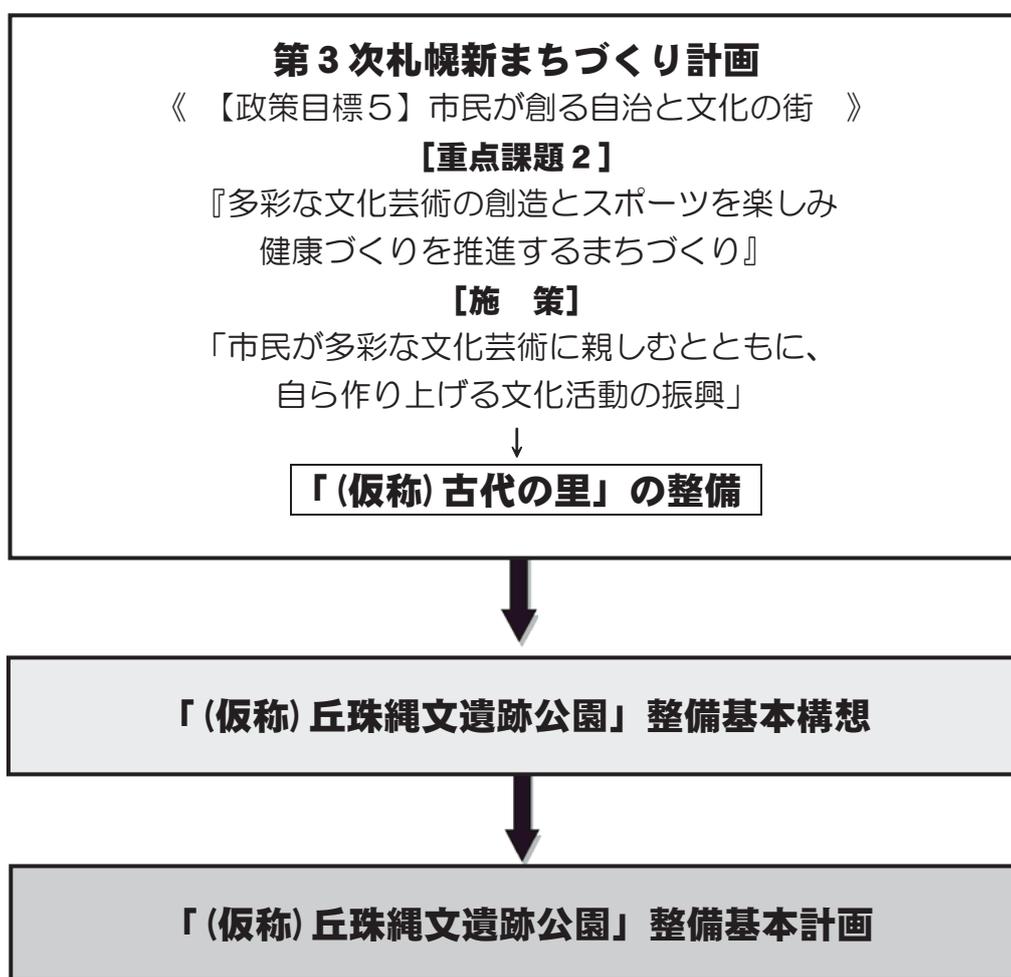
※3 縄文文化は、草創期、早期、前期、中期、後期、晩期の6期に区分されており、市内では早期～晩期の遺跡が見つかっています。以下、「縄文早期」、「縄文晩期」等と略して表記します。

※4 H508遺跡の通称名は、アイヌ語に由来し、町名として親しまれている「丘珠」に、縄文文化の遺跡であることを示す「縄文」を付けて、「丘珠縄文遺跡」とします。

第2章 事業の位置付けと計画策定の経緯

1 事業の位置付け

遺跡公園の整備事業は、「第3次札幌新まちづくり計画（計画期間：平成23～26年度）」^{※5}において、「(仮称)古代の里」の整備事業として、政策目標「市民が創る自治と文化の街」、重点課題「多彩な文化芸術の創造とスポーツを楽しむ健康づくりを推進するまちづくり」を進める施策の一つに位置付けられました。



※5)「第3次札幌新まちづくり計画」は、まちづくりの長期的な総合計画（「第4次札幌市長期総合計画（計画期間：平成12～32年度）」）に基づき、札幌市を取り巻く社会的情勢の変化を受け今後10年間の新たなまちづくりの指針として平成25年度に策定された「札幌市まちづくり戦略ビジョン（計画期間：平成25～34年度）」の方向性を踏まえ、施政方針「さっぽろ元気ビジョン第3ステージ」（平成23年6月策定）に掲げられた「まちづくりの基本的な方向」を実行に移すために、平成23～26年度を計画期間として、優先的・重点的に実施する施策・事業を定めたものです。

2 基本計画の策定に至る経緯

(1) 基本計画策定の流れ

平成24年度に、(仮称)古代の里整備基本構想検討委員会(平成26年度から『(仮称)丘珠縄文遺跡公園』整備基本構想・計画検討委員会』に名称変更；以下「検討委員会」)を設置し、平成24～25年度に、整備の方向性について検討を進め、平成26年8月に『(仮称)丘珠縄文遺跡公園』整備基本構想』を策定し、平成26年度には、基本構想に基づき、整備の具体的な方針について検討を進めました。

また、平成24～26年度には、遺跡範囲の測量調査を行い、平成25・26年度には、遺跡の具体的な内容を把握するための部分的な発掘調査(確認調査：以下「確認調査」)を市民ボランティア参加のもと実施し、確認調査の成果に基づき、検討委員会の専門部会(調査・整備委員会)で遺跡の評価を検討しました。

さらに、平成25・26年度には、市民の声を活かした基本構想・基本計画づくりを目指し、確認調査に参加した市民ボランティアの意見交換会を開催するなど、市民意見の集約を行っています。

その他にも、遺跡公園の整備事業と縄文遺跡の魅力について市民の皆様と情報を共有するために、平成23年度以降、シンポジウム、講演会、出前展示、企画展、遺跡見学会等を開催しています。

この基本計画は、確認調査の成果に基づく遺跡の評価を踏まえ、市民意見を参考に、検討委員会での意見交換に基づき作成したものです。

(2) 検討委員会の設置・運営

サッポロさとらんど内に保存されている丘珠縄文遺跡を活用した遺跡公園の整備・活用に向けた基本構想・基本計画を策定するにあたり、専門的な立場及び市民の立場からの意見を聴くために、検討委員会(『(仮称)古代の里整備基本構想検討委員会』)を設置しました(平成26年度『(仮称)丘珠縄文遺跡公園』整備基本構想・計画検討委員会』に名称変更)。

また、確認調査の方法と遺跡の評価について専門的な意見交換を行い、整備の方向性を検討するために、検討委員会の中に、考古学を中心とした学識経験者からなる専門部会「調査・整備委員会」(以下「専門部会」)を設置しました。

なお、検討委員会及び専門部会は、市民の皆様と情報を共有するために、すべて

公開で開催しました。詳細については、巻末の『資料編』をご覧ください。

(3) 市民意見の集約

整備事業を市民の皆様とともに進めていくために、丘珠縄文遺跡の確認調査を市民参加で実施するとともに、市民の声を基本構想・基本計画の検討に活かすために、市民意見の集約を行いました。詳細については、巻末の『資料編』をご覧ください。

(4) 市民との情報共有

事業を進めるにあたり、市民の皆様と情報を共有するために、丘珠縄文遺跡見学会、中高生体験発掘、さとらんどにおける出前展示、シンポジウム、講演会等を開催しました。詳細については、巻末の『資料編』をご覧ください。

第3章 周辺地域の環境

1 札幌の縄文遺跡

札幌市は、北海道の中央部と西南部とを地形的に隔てる低地帯（石狩低地）の日本海側に位置し、南北 45.4km、東西 42.3km、面積 1,121.26km²の広さを有しています。札幌市内の地形は多様で、中心市街地は豊平川や発寒川により形成された扇状地上に広がり、北西～南西部は山地で、東部には丘陵地や台地が続きます。一方、北部には沖積平野（石狩平野）が広がり、その北西側の発寒川沿いには、紅葉山砂丘とよばれる古砂丘が南西から北東方向に延びています。

このように多様な地形を有する札幌市内では、これまでの調査で 500 カ所以上の遺跡が発見されています。そのうち 265 カ所の遺跡で、縄文文化の早期から晩期にかけての遺構や遺物が発見されています。これらの縄文遺跡は、比較的標高の高い東部の台地や丘陵地に最も多く分布し、次いで、その北西側に広がる札幌扇状地や発寒川扇状地に多くみられます。一方、北部に広がる沖積平野では、やや標高の高い紅葉山砂丘を除き、縄文文化の遺跡は数カ所しか発見されていません。

時期的な移り変わりをみると、縄文早期には東部の台地や丘陵地でのみ遺跡がみられ、次の縄文前期になると発寒川扇状地にも遺跡が残されるようになります。縄文前期は、縄文早期の頃はじまった地球規模の温暖化現象の最盛期にあたり、海面が上昇して内陸部まで海水が入り込んだことが知られています（縄文海進^{※6}）。市内でも北部に内湾が成立し、内湾と外海を隔てる紅葉山砂丘も、この頃より形成されたものと考えられています。この時期には、日本各地で貝塚が形成されますが、今のところ札幌市内では見つかっていません。

次の縄文中期になると、全国的な傾向と同様に、札幌市内でも遺跡数が増加し、東部の台地・丘陵地や発寒川扇状地に加え、標高 5m 前後の紅葉山砂丘まで活動の領域が広がっていきます。さらに、縄文中期後半から後期になると、それまでほとんど遺跡が残されることのなかった札幌扇状地や沖積平野の低地部にも、少数ながら遺跡が残されるようになります。この傾向は縄文晩期にも引き継がれ、次の続縄文文化へと続いていきました。

※6) 約 8000～6000 年前頃に、日本近海で現在に比べて海面が 2～3m 高くなり、日本各地で海水が陸地奥深くに浸入した現象。

第1表 さとらんの遺跡年表

おもなできごと (日本列島)	本州の時代区分	年代	北海道の時代区分 [※]	おもなできごと (北海道)	
槍の使用がはじまる 土器の使用がはじまる 竪穴住居がはじまる 弓矢の使用がはじまる 土偶がはじまる 気候の温暖化 縄文海進 大規模な貝塚が形成される 東日本に亀ヶ岡文化が広がる	旧石器文化	20000年前	旧石器文化	北海道に人が住みはじめる 細石刃文化が広がる	
	縄文文化	草創期	16000～15000年前	草創期	北海道で土器の使用がはじまる
		早期	10000年前	早期	竪穴住居がはじまる 石刃鏃文化が波及する 札幌北部の低地が内湾となる
		前期	7000年前	前期	大規模な貝塚が形成される
		中期	5500年前	中期	紅葉山砂丘に人が住みはじめる
		後期	4500年前	後期	ストーンサークルがはじまる 周堤墓がはじまる 亀ヶ岡文化の影響を受ける
		晩期	3000年前	晩期	H508遺跡(丘珠縄文遺跡) H317遺跡(下層)
	弥生文化	2300年前	続縄文文化	H509遺跡	
	古墳文化	1300年前	オホーツク文化	オホーツク海沿岸に北方系のオホーツク文化が広がる	
	飛鳥時代			擦文文化	カマド付の竪穴住居がはじまる 鉄製品が一般化する 穀類が普及する H317遺跡(上層)
奈良時代	アイヌ文化期				土器にかわり鉄鍋が普及する 平地式住居がはじまる
平安時代					チャシが築造される
鎌倉時代	800年前				
室町時代					
戦国時代					
江戸幕府がはじまる	江戸時代				

※北海道の時代区分は、考古学における一般的な時代区分を示しています。

このような分布の移り変わりを示す市内の縄文文化の遺跡からは、当時の生活の拠点である竪穴住居、お墓や貯蔵穴、動物を狩るための落とし穴などが見つかっています。ただし、数十～数百軒の竪穴住居跡が残されるような、長期間にわたって繰り返し人々が生活したことを示す大規模なムラ（集落）の跡は、市内では見つかりません。これまでの調査では、お墓と考えられる土坑が数十～数百基残された遺跡は見つかりっていますが、それ以外は数軒～十数軒の竪穴住居跡や数カ所～数十カ所の落とし穴が見つかる程度の、規模が小さな遺跡です。古くからの開発で、すでに破壊されてしまった可能性もありますが、小規模な遺跡が多いことも、札幌市内の縄文遺跡の特徴と言えます。

2 遺跡の位置と周辺の環境

(1) 地理的環境

丘珠縄文遺跡は、札幌市の北部に広がる沖積平野（石狩平野）に立地する縄文晩期の遺跡です。遺跡付近における現在の地表面の標高は5m前後、縄文晩期の旧地表面の標高は3m前後と、低い土地に残された遺跡です。

石狩平野は、縄文早期の後半から前期頃の「縄文海進」により内湾が形成されていたと考えられており、丘珠縄文遺跡の付近も、その頃は湾奥の環境だったと推定されます。その後、海水準がわずかに低下するとともに、河川からの土砂による埋積が進み、内湾域は徐々に平野となっていきます。蛇行する河川が氾濫を繰り返しながら土砂を堆積させることで、平野部に氾濫原^{はんらんげん}が発達し、微高地（自然堤防）が形成されました。縄文晩期には、この平野部に人々が進出し、河川に沿った微高地を活動領域としました。こうして、丘珠縄文遺跡は形成されたものと考えられます。

遺跡の北東側に位置するモエレ沼は、「縄文海進」後の氾濫原を蛇行した河川の名残^{みかづきこ}（三日月湖）です。最近の札幌市博物館活動センターによるボーリング調査の結果などから、この三日月湖は石狩川により形成されたと考えられています。すなわち、石狩川の本流ないし支流が、縄文晩期頃に、遺跡の近くを流れていた可能性があり、丘珠縄文遺跡がのる微高地の形成にも関わったものと推測されます。

(2) 歴史的環境

北海道には、25000年前頃には北東アジアや東アジアから人々^{※7}が渡来し、旧石

器文化が広がります。その後、15000年前頃からはじまる気候の温暖化に伴い、北海道も本州と同じように、狩猟・漁撈・採集を生業とし竪穴住居で生活する縄文文化へと移り変わります。縄文文化のあと、本州では水稻耕作がはじまり弥生文化となりますが、北海道では稲作は広がらず、北海道の環境に適応した狩猟・漁撈・採集を中心とする続縄文文化に変わります。本州で奈良時代がはじまる頃、北海道では、土器のかたちや竪穴住居の作り方、鉄製品の製作や穀類の栽培等、本州の文化の影響を受けて、^{さつもんぶんか}擦文文化がはじまります。本州で平安時代が終わり鎌倉時代になる頃、北海道では、土器が作られなくなり、擦文文化が終わります。これ以降の本州の中世から近世に相当する時期を、北海道ではアイヌ文化期^{※8}と呼び、この時期を通して、アイヌ文化^{※9}が形成されていったと考えられています。

江戸時代になると、文献記録の中にアイヌ文化期の札幌に関する記述が認められるようになります。アイヌ語に由来する「札幌」^{※10}の名称は、17世紀後半に弘前藩の関係者により記録された『津軽一統志』^{つがるいっとうし}の中に、「さつほろ」として認められ、『津軽一統志』や同じく弘前藩の記録である『寛文拾年狄蜂起集書』^{かんぶんじゅうねんえびすほうきしゅうしょ}には、「さつほろ」(札幌)や「はつしやふ」(発寒)にコタンがあったことが記されています。

丘珠地区では、縄文文化のあと、丘珠縄文遺跡に近接するH317遺跡の調査等で、続縄文文化初頭の炉跡や土器・石器、また、擦文文化のムラ(集落)の跡が見つかっています。アイヌ文化期の丘珠地区の様子については、今のところよくわかっていませんが、文献記録では、『津軽一統志』の中に「さつほろの枝川に縦横半里計の沼御座候由」との記載があり、丘珠地区の北東に位置するモエレ沼を指すものと考えられています。北海道の他の地域と同じように、「丘珠」^{※11}や「モエレ」^{※12}をはじめとしたアイヌ語に由来する地名があることから、丘珠周辺でも、アイヌの人々^{※13}が活動していたものと考えられます。

近世末になると、慶応2年(1866年)に、徳川幕府の命を受けた大友亀太郎が伏籠川のほとり(現在の東区北13条東16丁目付近)に入植し、「御手作場」^{おてさくば}(模範農場)を開いて大友堀を開削するなど、丘珠地区のある東区では、明治時代以降の札幌の基礎が形づくられていきます。

大友亀太郎の入植にはじまる元村の北東に位置する丘珠地区は、明治3(1870)年の酒田県(現在の山形県の一部)からの入植にはじまり、明治4(1871)年に「丘珠村」という村号が定められ、明治35(1902)年には元村、苗穂村、雁来村とともに「札幌村」として統合されます。

明治時代以降、牧草地、畑地、水田として土地利用がはかられ、大正時代を経て、札幌を代表するタマネギの優良産地となりました。また、昭和17(1942)年に旧日本軍により丘珠飛行場(現在の丘珠空港)が開設され、昭和30(1955)年には札幌市に合併、昭和47(1972)年に札幌市が政令指定都市となり東区が設置されると、農村地帯であった丘珠地区にも市街化の波が押し寄せ、宅地化が進行していきます。

平成に入ると、サッポロさとらんどやモエレ沼公園、丘珠空港周辺の緑地など、大規模な施設・公園・緑地が整備され、札幌の都市型農業の拠点として、また、みどり豊かな施設が集積する交流拠点として位置付けられています。現在の丘珠地区は、札幌駅を中心とした5~10km圏内に位置し、札幌の市街地に隣接して、農地や緑地、川辺など、平地のみどりが広がる自然豊かな地域です。

※7) 近年のミトコンドリアDNA分析では、「北海道の縄文人が保持していたのは、より北方の沿海州の旧石器時代人につながると考えられるDNA」であり、日本列島への人類の渡来は「従来いわれてきた南方ルートだけではなく、多様なルートを想定する必要がある」とされています(篠田謙一・安達登 2010「DNAが語る「日本人への旅」の複眼的視点」『科学』vol.80 No.4 岩波書店)。

※8) 考古学では、北海道で擦文文化が終わったあと、本州の中世・近世に相当する時期を「アイヌ文化期」と呼んでいます。

※9) 現在アイヌ文化として捉えられている文化は、「近世に松前藩や本州の役人・旅行家が残した記録や近代から現代にかけて行われた民族学的調査によって明らかになっている」文化であると考えられています。なお、「縄文文化・続縄文文化に後続する擦文文化からアイヌ文化への移行については、その担い手に大きな変化がないとの見解から、北海道の縄文時代・旧石器時代までもアイヌ文化とすればいいと主張する方も」いますが、「各文化期の内容の差は大きく、縄文土器を使用し、竪穴住居に住むアイヌ文化といった表現は、現在の『アイヌ文化』の概念とは大きくかけ離れてしま」います(長沼孝・越田賢一郎 2011「時代の概観」『I 考古学から見た北海道』『新版 北海道の歴史 上』北海道新聞社)。

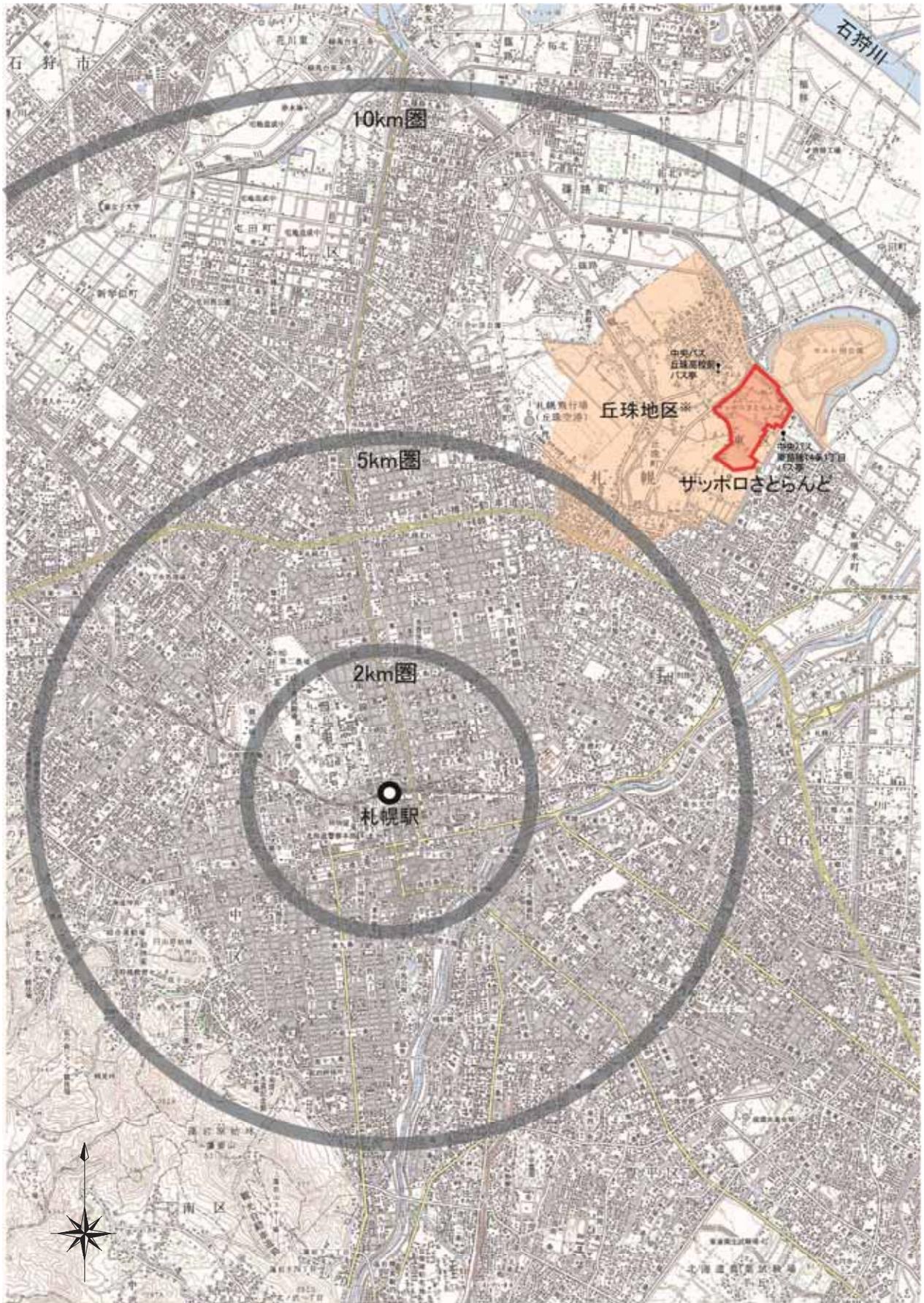
※10) 諸説ありますが、松浦武四郎の記録にあるように、「サツ・ポロ・ペツ (sato-poro-pet 乾く・大きい・川) ぐらいに解するのが自然」(山田秀三 1984『北海道の地名』北海道新聞社)。

※11) 「オッカイ・タム・チャラパ。男の・刀を・落としたる所。川名。」(永田地名解)。

「この地名の前段の「オッカイタム」が和人に継承されて「丘珠」になったものらしい」(山田秀三 1965『札幌のアイヌ語地名を尋ねて』楡書房)。

※12) 「モイレ・ペツかおんというのは、川の曲がった処等で、ゆっくりと水が流れている川の事」。「モイレが普通で、モエレは訛音か、或いは方言」(山田秀三 1965『札幌のアイヌ語地名を尋ねて』楡書房)。

※13) アイヌの人々は、「日本列島北部周辺、とりわけ北海道の先住民族であり、独自の言語や文化を育んできました」(札幌市 2010「第1-1 アイヌ民族の先住民族としての歴史」『札幌市アイヌ施策推進計画』)。なお、形質人類学の研究では、「日本列島に住むようになった東南アジア系集団と、主として弥生時代以後に渡来した北アジア系集団との混合によって日本人集団が形成された」とする「二重構造モデル」に基づき、アイヌの人々は「縄文人の伝統を最も濃厚に受けついで人たち」だと考えられてきました(埴原和郎編 1994『日本人の起源(増補)』朝日選書)。一方で、最新の研究では、「北海道アイヌの祖先集団とオホーツク人は、これまで想定されていた以上に、活発な文化的・遺伝的交流を行っていたのではないか」との見解が提示されています(百々幸雄、川久保善智、澤田純明、石田肇 2013「頭蓋の形態小変異からみたアイヌとその隣人たち III. 隣接集団との親疎関係」『Anthropological Science Vol. 121(1)』日本人類学会)。また、最新のDNA分析でも、北海道の「基層集団が歴史時代を通じてオホーツク文化人や本土の日本人との交流を経てアイヌ集団へと変貌していった経緯を読み取ることができる」と言われています(篠田謙一・安達登 2010「DNAが語る「日本人への旅」の複眼的視点」『科学』vol.80 No.4 岩波書店)。



※丘珠地区網掛け範囲: 丘珠連合町内会の区域

0 1:80000 5km

第2図 丘珠地区と「サッポロさとらんど」の位置

(3) 社会的環境

丘珠縄文遺跡が所在するサッポロさとらんどは、「人と農業・自然とのふれあい」、「都市と農業の共存」をテーマとする農業体験交流施設であり、市民が農業や自然とふれ親しみ、体験しながら憩い、楽しむことができる田園空間と本市の都市型農業を総合的に支援する拠点を一体的に創出することを目的とした施設です。

また、サッポロさとらんどの周辺には、イサム・ノグチの設計によるモエレ沼公園をはじめとして、丘珠緑地、丘珠空港緑地、札幌コミュニティドーム「つどーむ」など、文化施設や緑地が多く整備されています。

この他に、昭和 49 年に本市の無形文化財第一号に指定された丘珠獅子舞は、毎年丘珠神社の例祭で奉納されています。

【札幌市農業体験交流施設サッポロさとらんど】

- ・所在地：東区丘珠町 584-2 ほか
- ・管理：指定管理者（平成 18 年度～）
- ・面積：約 102ha（施工済約 74.3ha）
- ・オープン：平成 7 年 7 月
- ・営業日：4/29～11/3（無休）、11/4～4/28（月曜日、年末年始休園）
- ・入園者数：674,780 人（平成 25 年度実績^{※14}）
- ・主要施設：さとらんどセンター、レストハウスみのりの家、レストハウスまきばの家、風のはらっぱ、市民農園、体験農園、ふれあい牧場、さとらんどガーデン、炊事広場、さとの池、パークゴルフ場、さとらんど交流館など
- ・駐車場：7 カ所（1,800 台収容）
- ・交通：市営地下鉄南北線北 34 条駅、市営地下鉄東豊線環状通東駅、新道東駅→中央バス→丘珠高校前バス停（約 15～20 分）→徒歩（約 10 分）
※都心（大通り）から車で約 30 分

【周辺の文化施設等】

- ・モエレ沼公園：総面積 170ha の市内最大規模の総合公園
入園者数 728,280 人（平成 25 年度実績^{※15}）
- ・丘珠緑地：伏籠川の遊水地を活用した都市緑地
- ・丘珠空港緑地：緩衝機能、スポーツ空間機能、雨水調節機能を持つ都市緑地
- ・札幌コミュニティドーム「つどーむ」：全天候型の多目的施設
- ・丘珠獅子舞：札幌市指定無形文化財（昭和 49 年 10 月指定）

※14) 札幌市の主な観光施設利用者数の第 3 位（『平成 26 年度版 札幌の観光』平成 27 年 1 月）

※15) 札幌市の主な観光施設利用者数の第 2 位（『平成 26 年度版 札幌の観光』平成 27 年 1 月）

第4章 丘珠縄文遺跡の概要

1 調査の経緯

サッポロさとらんどでは、これまでの調査で3カ所の遺跡が見つっています。一つ目は、現在の「ミルクの郷」(サツラク農業協同組合牛乳工場)付近から見つかった擦文文化(約1000年前)と続縄文文化(約2000年前)の遺跡(H317遺跡)です。この遺跡からは、工場の建設に先立って平成4・5年に実施した発掘調査で、擦文文化の竪穴住居跡12軒や、続縄文文化の炉跡93カ所が発見され、当時の生活の様子が明らかになっています。遺跡は現地に残っていませんが、発掘調査で見つかった土器や石器は埋蔵文化財センターに収蔵し、その一部はさとらんどセンターに展示しています。なお、発掘調査の記録は報告書(『H317遺跡』札幌市文化財調査報告書46)としてまとめており、札幌市中央図書館で閲覧することができます。

二つ目は、現在の「風のはらっぱ」の南側から見つかった縄文晩期(約2300年前)の遺跡(H508遺跡:丘珠縄文遺跡)です。この遺跡からは、平成4・5年に実施した遺跡の有無を調べる予備的な調査(試掘調査)で、広い範囲から土器や石器が見つかり、市内でも有数の広がりを持つ縄文文化の遺跡であることが明らかになっています。H508遺跡は、上述したとおり、現在、盛土されて地下に保存されています。

三つ目は、現在の農業支援センターの^{ほじょう}圃場付近から見つかった続縄文文化(約2000年前)の小規模な遺跡(H509遺跡)で、この遺跡も地下に現状のまま保存されています。

この3カ所の遺跡のうち、市内でも有数の広がりを持つ縄文文化の遺跡である丘珠縄文遺跡を活用して、遺跡公園を整備する事業が、「第3次札幌新まちづくり計画」に位置づけられ、平成25・26年度には、遺跡公園の整備に向けて、丘珠縄文遺跡の確認調査を実施しています。

2 確認調査の方針と方法

(1) 調査方針

丘珠縄文遺跡を活用した遺跡公園の整備に向けて、遺跡の具体的な内容を把握す



第3図 「サッポロさとらんど」と遺跡の位置

S≒1/8000

第2表 さとらんだの遺跡の沿革

年度	項目	概要
昭和49年3月	H317 遺跡登載	H317 遺跡が周知の埋蔵文化財包蔵地として遺跡台帳に登載される。
平成4年5月	「(仮称)札幌里づくり事業基本計画」策定	農業公園構想が具体化し、都市と農業の共存、人と自然とのふれあいをテーマとした事業計画が策定される。
平成4年6～7月	試掘調査 (さとらんどⅠ期工事範囲)	試掘調査の結果、H317 遺跡の範囲から擦文時代の遺構・遺物が発見される。
平成4年8～11月 平成5年5～10月	H317 遺跡発掘調査	発掘調査の結果、擦文時代の竪穴住居跡12軒、続縄文時代の炉跡93カ所などが検出される。
平成5年7月	試掘調査 (現H508 遺跡周囲)	現在の「風のはらっぱ」の南側付近(C・D地区：現H508 遺跡)から縄文時代晩期の土器・石器が発見され、約25,000㎡の範囲に縄文時代晩期の遺跡が広がることが確認される。
平成5年	H317 遺跡 C・D地区盛土保存	H317 遺跡C・D地区(現H508 遺跡)が、盛土により現状保存される。
平成6～7年	試掘調査 (さとらんどⅡ期工事範囲)	現在の農業支援センター圃場付近で、続縄文時代の遺物が発見され、盛土により現状保存される(現H509 遺跡)。
平成7年	「サッポロさとらんど」(第Ⅰ期エリア)オープン	「サッポロさとらんど」第Ⅰ期エリアの供用が開始される。
平成12年9月	H508 遺跡、H509 遺跡登載	H317 遺跡C・D地区が、H317 遺跡とは別の遺跡であるH508 遺跡として遺跡台帳に登載される。H509 遺跡が周知の埋蔵文化財包蔵地として遺跡台帳に登載される。
平成16年	「サッポロさとらんど」(第Ⅱ期エリア)オープン	「サッポロさとらんど」第Ⅱ期エリアの供用が開始される。

るための確認調査は、遺跡が沖積平野の低地部に所在することを踏まえ、次の方針のもと実施しました。

- ・遺跡全体を対象にトレンチ調査^{※16}を行い、地層の連続性を把握し、当時の地形や遺物包含層^{ほうがんそう}^{※17}の状態を確認します。
- ・遺構の有無を確認し、その内容・分布状況の把握に努め、確認した一部の遺構については、保存を前提とした部分的な調査を行い、動植物遺存体の回収等を通して、遺構の性格を把握します。

※16) トレンチ (trench) とは堀や溝のことで、考古学の発掘調査では、細長い溝を掘って行う調査を「トレンチ調査」と呼びます。

※17) 土器や石器等の遺物が出土する地層。

(2) 調査方法

確認調査は、平成25年6月24日～9月19日、平成26年6月23日～10月10日に実施しました。このうち、平成25年7月24日～8月11日、平成26年7月23日～8月10日に、市民ボランティアの参加のもと、集中的に作業を進めています。

確認調査では、まず、丘珠縄文遺跡の試掘調査やH317遺跡の発掘調査の成果等から想定される埋没河川^{※18}の流路を踏まえ、トレンチ調査により微地形を把握する目的で、遺跡範囲の南辺をY軸方向の基線とするX軸とY軸とからなる発掘区を設定しました。X軸とY軸との関係は数学系座標と同様であり、発掘区方眼は10m×10mを基本単位とします^{※19}。

次に、平成25年度は、発掘区方眼のX軸10区の西壁沿いに4カ所、X軸14区の西壁沿いに2カ所、Y軸09区の北壁沿いに4カ所、合計10カ所で幅2～3m程の調査区(調査区001～010)を設定し、さらに、発掘区方眼の軸線に沿って、調査区内に幅1mのトレンチを設定しました。平成26年度は、発掘区方眼のX軸06区の西壁沿いに1箇所、X軸18区の西壁沿いに1箇所、合計2カ所で幅3m程の調査区(調査区011・012)を設定し、発掘区方眼の軸線に沿って、調査区内に幅1mのトレンチを設定しました。また、11-08区(X軸11区、Y軸08区)を中心に方形の調査区(調査区013)を設定し、11-08区の西壁及び北壁に沿って幅3～4m程のL字状のトレンチを設定しました。

平成25・26年度ともに、調査区の盛土を重機で除去した後、人力で自然堆積層の上面を精査し、トレンチを掘削しました。トレンチ掘削後、土層堆積状況の観察

※18) 土砂が堆積して埋まってしまった河川の跡。

※19) 発掘調査では、一般的に、遺跡全体に方眼紙をかぶせるように格子目の地割りを行って、発掘区を設定します。発掘区のひとつひとつの区画(発掘区方眼)は、数学のグラフと同じように横軸(X軸)の番号と縦軸(Y軸)の番号の組み合わせで呼称します。

結果に基づき、出土した遺物は、層毎にトータルステーション^{※20}を用いて座標点を記録して取り上げました。検出した遺構は、炉跡(HE^{※21})、焼土粒集中(DB^{※22})、炭化物集中(DC^{※23})に分け、トータルステーションを用いて平面外形を記録後、一部の遺構について、部分的な土壌のサンプリングを行いました。炉跡の一部については、火床^{※24}上に堆積する土壌をサンプリングし、火床を検出した段階で調査を終了しています。

なお、遺構・遺物の分布が疎な範囲については、包含層を掘削し、下位の土層の確認を行いました。遺構・遺物の分布が密な範囲については、複数枚の包含層のうち、上部の包含層のみを調査して作業を終了しています。

※20) 距離と角度を同時に計測することができる測量機械で、一般的に狭い範囲での高精度な測量に利用されます。

※21) 「HE」は、炉跡の英語表記である「Hearth」の略語です。

※22) 「DB」は、焼土粒集中の英語表記である「Dense Burned Soils」の略語です。

※23) 「DC」は、炭化物集中の英語表記である「Dense Charcoal」の略語です。

※24) 「ひどこ」ないしは「かしょう」と読みます。火を焚いて地面が赤く焼けたところ。赤く焼けた土を「焼土」(しょうど)と呼びます。

3 遺跡の概要

(1) 地層と地形

丘珠縄文遺跡を構成する土壌は、主に河川堆積物で、粘土、粘土質シルト、砂質シルト、細砂から構成されています。これらの自然堆積層のうち、確認調査では、連続して堆積する5枚の層から、土器や石器など縄文晩期の遺物が出土しました。また、5枚の包含層のうち、下位の3枚の包含層で、炉跡(HE)、焼土粒集中(DB)、炭化物集中(DC)を検出しました。

トレンチの土層断面を記録し、13カ所の調査区において縄文晩期の包含層の標高を比較した結果、調査区001、002、003、004、005(北端)、009、013が他の調査区よりも数十cm高いことが判明しました。また、調査区005及び調査区012の南端における細砂の堆積状況から、縄文晩期頃の河川の流路は、想定されたとおり、遺跡の南側に存在した可能性が高いことがわかりました。

したがって、縄文晩期には、調査区001、002、003、004、005(北端)、009、013を囲った範囲を中心に微高地が広がっていたものと考えられ、この微高地は、調査区の南側を流れていたと推測される当時の河川により形成された自然堤防の高まりに相当するものと考えられます。

(2) 遺構と遺物

遺構は、3枚の包含層から、炉跡（HE）26カ所、焼土粒集中（DB）8カ所、炭化物集中（DC）4カ所を検出しました。

遺物は、5枚の包含層から、座標点で合計6,800点程が出土しました。多量の土器や石器とともに、装身具であるコハク（琥珀）製の平玉も数点見つっています。

これらの遺構と遺物は、調査区001、002、003、004、005、013から集中的に検出されており、その分布範囲は、上述した自然堤防の高まりと一致しています。

また、遺構から採取した土壌サンプルについて、フローテーション法^{※25}を用い選別した結果、現在までの作業で、黒曜石等の石器碎片やクルミ属内果皮片^{※26}といった微細遺物が比較的多く含まれ、その他にも、サケ科を主体とした魚骨片やチョウザメ科の鱗板片^{※27}、植物の種子等が含まれていることが判明しています。

なお、植物の種子としては、市内の縄文文化の遺跡ではじめてヒエ属の種子が発見されました。

※25) 浮遊選別法。土壌を水で溶き、比重の軽い遺物を浮遊させて回収する方法。

※26) 内果皮とは、果実の内部の種子を直接包んでいる部分のこと。クルミの硬い殻の部分。

※27) 鱗板とは、チョウザメ科の体の表面にみられる硬い鱗のこと。「硬鱗」（こうりん）とも呼びます。

(3) 遺跡の概要

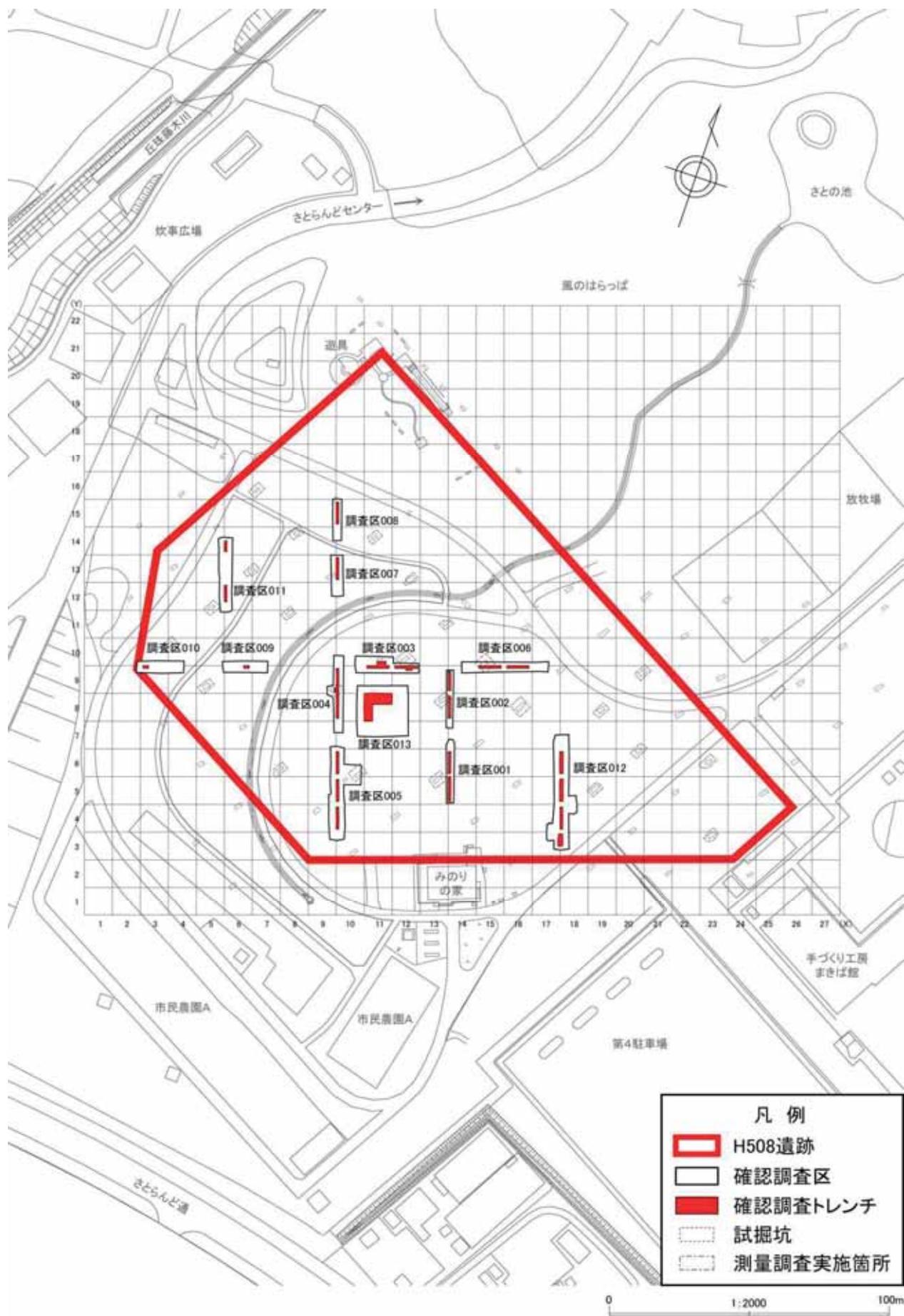
平成25・26年度の確認調査の結果、丘珠縄文遺跡は、少なくとも5枚の包含層からなる縄文晩期の多層遺跡であり、遺跡内南半の中央付近に広がる自然堤防と考えられる地形の高まりに、炉跡等の遺構や土器・石器等の遺物が集中して分布していることがわかりました。

炉跡周囲の土壌には、石器の碎片、クルミ属内果皮片、サケ科を主体とした魚骨片やチョウザメ科の鱗板片、植物の種子等が含まれており、炉を中心とした生産活動の一端を確認することができました。市内の縄文文化の遺跡ではじめて見つかったヒエ属の種子は、近接するH317遺跡の続縄文文化初頭のヒエ属種子と合わせて、ヒエ属の栽培化や利用方法を検討する上で、たいへん貴重な資料と言えます。

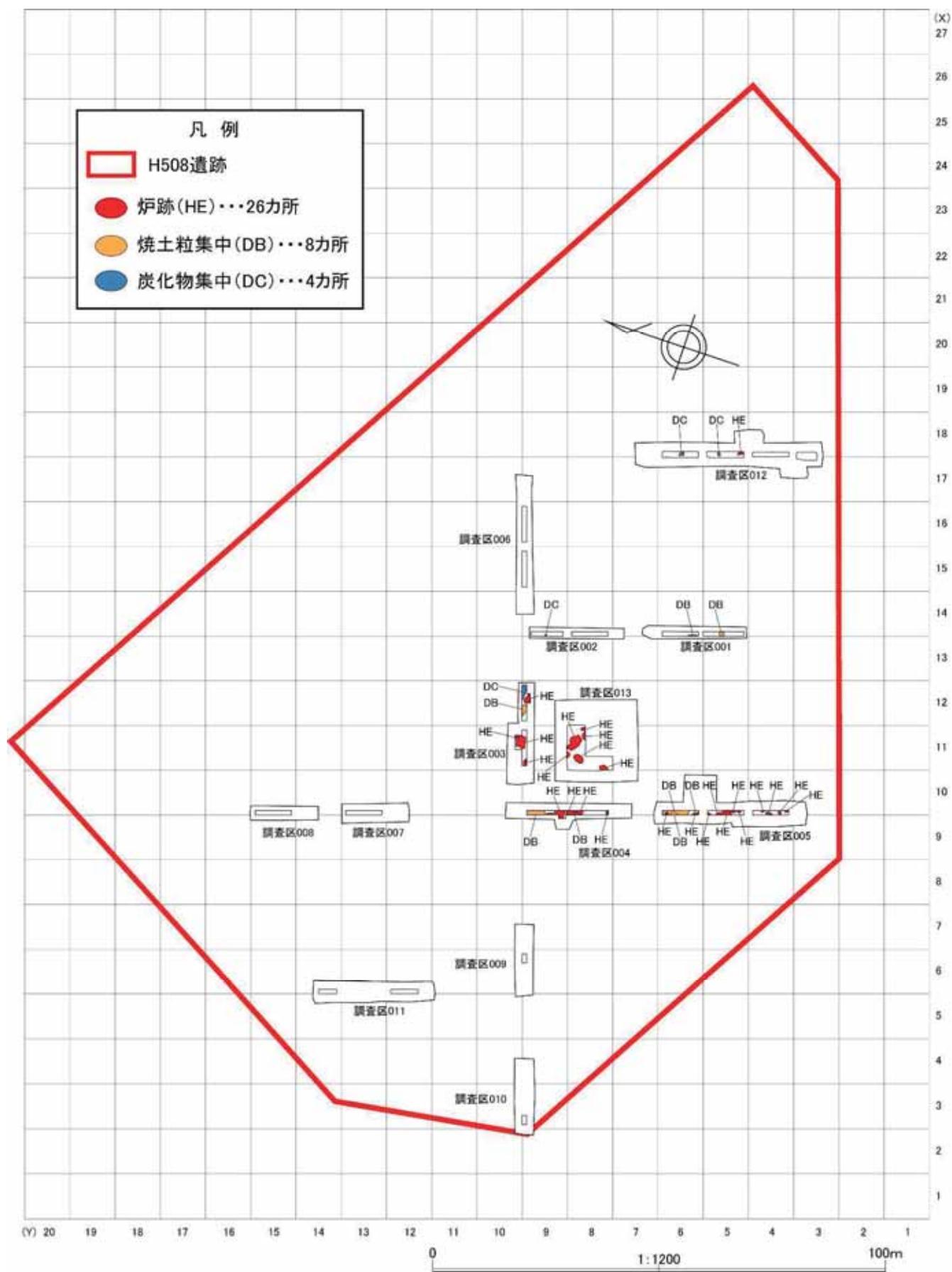
包含層が累積している状態から、丘珠縄文遺跡は、季節的に集中する生業活動に伴い形成された遺跡と推測されます。

なお、現在も整理作業を進めているため、以上の概要は、中間報告的な位置付けとなります。最終的には、平成27年度に、放射性炭素年代測定^{※28}の結果などを含めて、詳細な内容を報告する予定です。

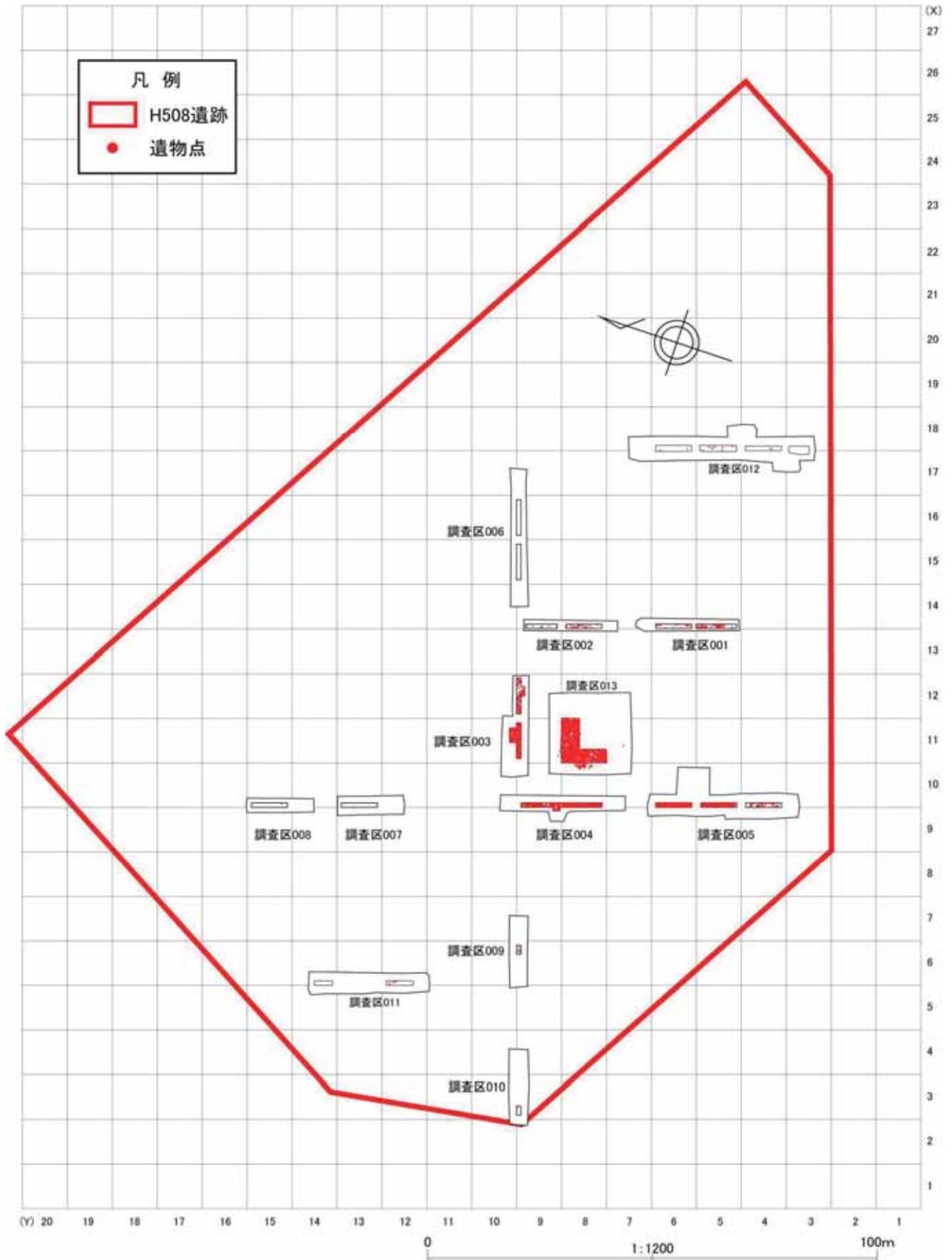
※28) 最も普及している理化学的な年代測定法の一つで、自然界に存在する炭素同位体「炭素14」（¹⁴C）が、放射線を出して崩壊し「窒素14」（¹⁴N）に変化する半減期を利用して年代を測定する方法。



第4図 確認調査区配置



第5図 遺構配置



第6図 遺物分布



写真図版1 クルミ属内果皮片（丘珠縄文遺跡焼土粒集中から回収）



写真図版2 ヒエ属種子（丘珠縄文遺跡炉跡から回収）



調査区004遺物出土状況（南から）



調査区005遺物出土状況（北から）



調査区003炉跡調査状況（北から）



調査区004炉跡調査状況（東から）



調査区004一括土器出土状況（西から）



調査区003一括土器出土状況（西から）

写真図版3 確認調査実施状況



調査区012炉跡・遺物検出状況（北から）



調査区012炉跡火床検出状況（西から）



調査区013遺物検出状況（南から）



調査区013炉跡検出状況（北から）



調査区013土器出土状況（北から）



調査区013コハク製平玉出土状況（西から）

写真図版4 確認調査実施状況

第5章 基本方針

1 整備の意義

丘珠縄文遺跡は、約 25,000 m²と市内最大級の広がりを持ち、札幌の低地部に立地する縄文晩期の多層遺跡であり、広い範囲で良好に保存されている遺跡からは、当時の河川によって形成されたと考えられる自然堤防上から、炉跡や土器・石器などが集中して発見され、炉跡の土壌からは、サケ科を主体とした魚骨片、チョウザメ科の鱗板片、動物（哺乳綱）の骨片、クルミ属の内果皮片、ヒエ属の種子等、当時の生業や食生活を考える上で貴重な資料が見つかっています。

このような内容を示す丘珠縄文遺跡は、札幌の低地部を利用した狩猟・漁撈・採集等の季節的な生業活動が繰り返されることによって形成された遺跡と考えられ、縄文晩期から続縄文文化、擦文文化へと展開する札幌低地における生業形態の原形を示し、縄文文化から続く札幌の歴史を示す象徴的な遺跡のひとつと評価されます。

また、丘珠縄文遺跡からは、炉跡が重なるように発見され、炉跡の周囲から遺物が累積して出土していることから、細かい時期的な変遷を捉え、低地部の微高地上で繰り返された具体的な土地利用のあり方を解明し得る、学術的にも魅力的な遺跡と言えます。

この遺跡を活用して、豊かな地形環境に適応していった札幌の縄文文化の魅力を発信し、「食文化」をはじめとする縄文文化を体感できる場を創出します。

2 遺跡公園の位置付け

札幌市では、埋蔵文化財の調査・研究、資料の収集・整理・保存・活用、知識の普及等を行う拠点施設として埋蔵文化財センターを設置していることから、整備する遺跡公園については、丘珠縄文遺跡を活かして札幌の縄文遺跡の魅力を発信する活用機能に特化した体験型の施設を目指します。

また、札幌市の公共施設として、幅広い世代や立場の方々が利用しやすい遺跡公園を目指すとともに、市内外の小中学生の校外学習や高校生・大学生の学習等に利用できる遺跡公園、サッポロさとらんど等との連携により観光客が札幌の魅力にふれることができる遺跡公園を目指していきます。

主な利用者像：市民、市内外の小中学生（校外学習等）、観光客

3 遺跡公園のテーマ

札幌には豊かな地形環境に適応した縄文遺跡が残されています。その中でも、川辺に広がる微高地上に形成された丘珠縄文遺跡は、周辺の豊かな環境を活かした縄文の「食文化」を感じることができる遺跡であり、札幌の低地部における縄文晩期から続縄文文化、擦文文化へと展開する生業形態の原形を示す、象徴的な遺跡と言えます。

そこで、丘珠縄文遺跡を活用した遺跡公園のテーマは、次のとおりとします。

『川辺に広がる札幌の縄文、その「食文化」をはじめとする縄文の体感』

4 整備の基本方針

上記のテーマに基づき、歴史的・文化的・教育的資産として遺跡を有効に活用することで、市民自らが作り上げる多彩な文化活動を振興していくために、次の4つの方針に則った整備を目指します。

なお、整備にあたっては、サッポロさとらんど内の施設と連携し、サッポロさとらんど全体の魅力アップを目指していきます。

- (1) 札幌の縄文遺跡の魅力発信に向けた丘珠縄文遺跡の整備
- (2) 縄文文化の体験と学びの展開
- (3) 市民との協働による遺跡の活用
- (4) 「学び」のネットワークづくりと市民交流の場の創出

5 整備の方向性

基本方針に基づく整備の方向性は、次のとおりとします。

(1) 札幌の縄文遺跡の魅力発信に向けた丘珠縄文遺跡の整備

① 「札幌の縄文」を発信します

縄文文化からアイヌ文化期を通じ、札幌の歴史のつながりを踏まえ、縄文文化の魅力を感じることができるよう、札幌の縄文遺跡の情報を発信します。

② 縄文遺跡である丘珠縄文遺跡を適切に保存するとともに、遺跡の価値を継続的に探求・発信します

発掘調査の成果を踏まえ、縄文遺跡である丘珠縄文遺跡を適切に保存するとともに、市民との協働により継続的な調査・研究を行い、遺跡の価値を探求し、発信していきます。

(2) 縄文文化の体験と学びの展開

① 縄文文化を体験できる活動を展開します

子どもから大人まで楽しみながら参加できる丘珠縄文遺跡を活かした縄文の「食文化」をはじめとする縄文体験活動を展開し、市民との協働で発展させていきます。

② 縄文文化の学びの導入としてガイダンス施設を設置します

発掘調査の成果に基づき、丘珠縄文遺跡を活用して、札幌の縄文遺跡を学ぶ導入として、ガイダンス施設を設置します。

(3) 市民との協働による遺跡の活用

① 遺跡の整備と活用・運営を市民との協働で進めます

市民参加による整備を進めるとともに、ガイダンス施設を拠点とした体験・学びなど、活用・運営を市民ボランティアとともに考えていきます。

② 地域に根ざした施設づくりを目指します

地域の歴史的・文化的資産として、地域の方々と連携し、施設の活用を考えていきます。

(4) 「学び」のネットワークづくりと市民交流の場の創出

① 「学び」のネットワークづくりを進めます

サッポロさとらんどやモエレ沼公園など、近隣の文化施設と連携し、地域の歴史や文化にふれることができるネットワークづくりを進めるとともに、縄文文化を中心に札幌の遺跡を学ぶことができるネットワークづくりも目指していきます。

② 市民交流の場を創出します

サッポロさとらんどと連携し、市内中心部からのアクセス等の利便性を検討し、市民交流の場を創出するとともに、体験活動ができる観光資源としての活用も目指していきます。

第6章 整備計画

1 ゾーニング

(1) ゾーニング全体計画

遺跡公園は、第5章で示した基本方針を実現していくために、「保存整備ゾーン」、「ガイダンス施設・体験施設ゾーン」、「エントランスゾーン」、「バッファゾーン」^{※29}の4つのゾーンから構成するものとします。

丘珠縄文遺跡の範囲を「保存整備ゾーン」とし、「ガイダンス施設・体験施設ゾーン」及び「エントランスゾーン」は、遺跡の南側、遺跡とサッポロさとらんど第4駐車場との間に設定します。また、遺跡の周囲には、サッポロさとらんど内にある施設として、全体の景観との調和をはかるとともに、遺跡を保護する緩衝帯として「バッファゾーン」を設けます（第7図）。

(2) 整備の考え方

「(仮称) 丘珠縄文遺跡公園」は、札幌の縄文遺跡の魅力を発信していくために、市民と協働で継続的な調査・研究を行い、遺跡の価値を探求・発信していくことをとおして、市民とともに遺跡の整備と活用・運営を考えていくことを目指しています。

したがって、今回の整備で遺跡公園として完成するわけではなく、今後も市民との協働で整備を継続していく「未完成の遺跡公園」という姿が、「(仮称) 丘珠縄文遺跡公園」に求められる整備像と言えます。

そこで、今回の整備では、今後の市民の手による調査・研究・検討の積み重ねが、将来的に「札幌の縄文」や「縄文文化のたたずまい」を感じられる空間の創出につながっていく、「市民が育てる成長する遺跡公園」の実現に向けて、市民参加による継続的な発掘調査を核として、ガイダンス施設等における展示機能の充実などハード面の整備と、体験活動メニューの充実や「学び」のネットワークづくりの推進など、市民との協働による多様なソフト面の展開を中心に、「縄文文化を体感できる場」の創出に努めていくものとします。

※29) 文化遺産や自然遺産の保護に係る「バッファゾーン」(buffer zone)とは、保護すべき資産(property)やコアゾーン(core zone)を取り囲んで、保護地域外からの影響を緩和するための緩衝地域・地区を意味します。

訪れた方が、地下に眠る縄文の息吹にふれ、縄文の暮らしを学び、体感することができるように、「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」では、「調査・研究」、「展示・公開」、「体験活動」という3つの機能を展開し、札幌の縄文文化の魅力を伝える遺跡公園としての使命を追究していきます。

なお、遺跡の復元整備^{※30}については、今後の市民との協働による継続的な調査・研究の成果に基づき、長期的な視野に立ち検討を進めていく方針とします。

また、「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」は、サッポロさとらんどと連携した活用・運営をとおして、教育・文化・観光資源として、さとらんど全体の魅力を高めていくことも目指しています。

そこで、今回の整備では、サッポロさとらんど全体の空間利用との調和を図るとともに、サッポロさとらんどの現状の機能や利便性を損なわないように、既存の園路・樹木・設備等を最大限活かした整備を進める方針とします。

さらに、さとらんど既存施設の有効活用についても検討していく方針とします。

(3) 個別ゾーニング計画

全体ゾーニング計画及び整備の考え方に基づき、各ゾーンの現状、各ゾーンにおける支障物撤去の方針、さらに、各ゾーンにおける整備方針及び整備内容を、第3表として示します。

また、第3表で示した整備方針・整備内容に基づき、ゾーニング施設配置を第8図として示します。

※30) 遺跡復元展示施設(炉跡等の遺構と土器・石器等の遺物を発見した状態や地層の状態を現地に復元し展示する施設)を遺跡内に設置したり、丘珠縄文遺跡が形成された縄文晩期の地形や植生を復元したりする(地形復元、植生復元)こと。



市民参加の発掘調査



市民参加の発掘調査

**市民参加による
継続的な発掘調査**

「地下をのぞき、遺跡を体感する」機会を広く市民に提供していくことにより、復元整備やレプリカ等の展示では伝えきれない「本物の魅力」を発信。



展示解説



土器づくり

調査
・
研究

丘珠縄文遺跡

展示
・
公開

体験
活動

展示機能の充実

- ・ 縄文文化の「学び」の導入
- ・ 継続的な調査・研究による最新成果の発信
- ・ 見学者を惹き付ける展示解説

体験活動

メニューの充実

- ・ 食文化をはじめとした縄文体験
- ・ サッポロさとらんととの連携
- ・ 市民と協働でのメニュー開発

札幌の縄文の体感



展示見学



土器づくり

第3表 各ゾーンの整備方針と整備内容

ゾーン名		ゾーンの現状	支障物撤去の方針
保存整備ゾーン	発掘調査ゾーン	<p>埋蔵文化財包蔵地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺跡の北側を東西に、西側・東側を南北に通過するアスファルト舗装の園路が敷設されている。 ・平成23年度まで「体験農園」・「市民農園」として利用されており、遺跡中央部には農園管理用にアスファルト舗装の通路が敷設されている。 ・遺跡の北端には、木製遊具等が設置されている。 ・「さとの池」に注ぐ「さとの小川」が中央部を南北に縦断している。「さとの小川」は、地下水をポンプアップしている「井戸」を水源とする。 ・旧農園範囲には、部分的に散水栓の管や雨水浸透枡が埋設されている。 ・北側・西側・東側には樹木が分布する。 ・遺跡の北側を東西に横断する園路より北側は、丘珠藤木川の調整池に該当する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の園路、「さとの小川」、樹木などは、遺跡への影響を考慮しつつ、可能な限り現状を維持する。 ・旧農園範囲の埋設管・雨水浸透枡等は、継続的な発掘調査の実施に合わせ撤去を検討する。 ・遺跡中央部の旧農園の管理用通路は撤去する。
	遺跡保全ゾーン		
ガイダンス施設 ・体験施設ゾーン	ガイダンス施設ゾーン	<p>埋蔵文化財包蔵地外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みのりの家」（建築面積200.07㎡）が所在する。 ・「みのりの家」の南側にアスファルト舗装の園路が巡っている。 ・「みのりの家」の周囲に樹木が点在する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の園路は、可能な限り現状を維持する。 ・「みのりの家」の機能をガイダンス施設に付設することを検討する。 ・整備に支障を及ぼす樹木は、移植を含めて撤去を検討する。
	屋外体験学習ゾーン		
エントランスゾーン		<p>埋蔵文化財包蔵地外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「展示農園」が所在する。 	
バッファゾーン		<p>埋蔵文化財包蔵地外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北側は「風のはらっぱ」の南端にあたり、芝貼りされ樹木が点在し、木製遊具等が設置されている。丘珠藤木川の調整池に該当する。 ・西側から南側には、樹木（高木）が点在する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り現状を維持する。

整備方針	整備内容	
<p>「市民が育てる成長する遺跡公園」の実現に向けて、市民参加による継続的な発掘調査を実施できる空間・環境を確保するとともに、縄文体験活動の実施や各種イベントの開催など、市民が遺跡を感じながら活動できる多目的な空間として整備する。</p> <p>なお、整備にあたっては、サッポロさとらんど内にある施設として、既存の園路、小川、樹木など、現状の景観・機能を可能な限り維持する。</p>	修景	市民参加による継続的な発掘調査を実施する空間として、また、市民が多目的に利用できる空間として、現状の景観を活かしつつ、必要に応じて、地表面を整地するとともに、復旧しやすい芝張り整備を行う。
	遺跡解説サイン	確認調査を実施した遺跡中央部に、調査の実施状況や遺構・遺物の検出状況などを表現するサインを設置する。
	植栽	既存の盛土を活かし、遺跡を恒久的に保存するとともに、バッファゾーンと一体的に、既存の樹木を活かした緩衝帯として位置付ける。
	園路修景	さとらんど全体の導線に配慮し、遺跡北側を東西に横断する既存園路、遺跡西側と東側を南北に縦断する既存園路を活かし、来園者を誘導する案内サイン等を設置する。
<p>市民ボランティアが継続的な調査・研究を行うことができるとともに、訪れた方が札幌の縄文文化と丘珠縄文遺跡を学び、縄文文化のくらしを体験することができるガイダンス施設を整備する。</p> <p>なお、ガイダンス機能については、サッポロさとらんど内の既存施設の有効活用も検討していく。</p>	ガイダンス施設	ガイダンス施設は、展示・情報発信機能、体験学習機能、整理・研究機能、管理・運営機能、収蔵・保管機能、便益機能を有する施設を想定する。 なお、一部の機能については、サッポロさとらんど内の既存施設の有効活用を念頭に検討していく。
	管理ヤード	ガイダンス施設の東側に管理ヤードを設置する。管理ヤードは、管理車両の乗り入れが可能なアスファルト舗装とし、駐車スペースや機材の積み卸しスペースを備えるものとする。
	体験広場	火おこし体験や土器の野焼きなどを行うことができる体験広場を整備する。
<p>エントランス空間を演出する修景を行い、利用者を誘導する案内サイン等を整備する。</p>	エントランス広場	施設の正面入口として、エントランス空間を演出する修景・植栽を行う。
	サイン・インフォメーションコーナー	総合案内サインを設置するとともに、イベント情報等を発信するインフォメーション機能を持たせた案内板等を設置する。
<p>サッポロさとらんど全体の景観と調和した、遺跡を保護する緩衝帯として、可能な限り現状を維持する。</p>	植栽	可能な限り既存の樹木を維持・活用する。



第7図 ゾーニング計画図



ゾーニング表示凡例

ゾーン名	線種等
保存整備ゾーン	——
発掘調査ゾーン	- - - -
遺跡保全ゾーン	— · — ·
ガイダンス施設・体験施設ゾーン	——
ガイダンス施設ゾーン	——
屋外体験学習ゾーン	——
エントランスゾーン	——
バッファゾーン	——

サイン凡例

記号	名称
■	総合案内サイン
↑	誘導サイン
↑	遺跡解説サイン

第4駐車場

ガイダンス施設ゾーン

管理ヤード
(管理用駐車場・作業場)

ガイダンス施設

整備対象面積約30,000㎡ (バッファゾーン含む)

第8図 ゾーニング施設配置図

2 遺跡の保存と整備・活用

(1) 盛土保存

丘珠縄文遺跡の範囲（保存整備ゾーン）は、現状で厚さ 1.5m 前後の盛土で覆われており、盛土の下に遺跡が良好に保存されています。そこで、現状の盛土を活かし、今後も遺跡を適切に保存していく方針とします。

なお、発掘調査ゾーンについては、今後の継続的な発掘調査の実施にあわせて、調査に伴う安全確保にも考慮しながら、埋設物の撤去や土壌改良の実施について検討していきます。

(2) 発掘調査ゾーンの整備

整備の考え方に基づき、「市民が育てる成長する遺跡公園」として、市民参加による継続的な調査・研究の進展により、将来的に遺跡の内容がより具体的に把握された段階で、発掘調査ゾーンにおける遺跡の復元整備について、長期的な視野に立ち検討を進めていく方針とします。

この方針に基づき、現時点では、発掘調査ゾーンを、市民参加により継続的な発掘調査を実施する空間として、また、縄文体験活動や各種イベントの開催など、市民が多目的に利用できる空間として位置付け、現状の景観を最大限活かしつつ、利用者の安全を確保し、周囲の景観との調和をはかるために、必要に応じて地表面を整地するとともに、調査後の復旧の簡便性を考慮した芝張り処理を行う方針とします。

なお、遺跡公園を訪れた利用者が、遺跡のある現地で、地下に広がる縄文遺跡を感じることができるよう、必要最小限の範囲で、遺跡内に確認調査の成果を示すサインの設置を検討します。

(3) 発掘調査ゾーンの活用

市民参加による継続的な発掘調査を活用の核とし、「地下をのぞき、遺跡を体感する」機会を広く市民に提供していくことにより、復元整備やレプリカ等の展示では伝えきれない「本物の魅力」を発信していきます。

また、発掘調査を実施しない期間については、サッポロさとらんど「風のはらっぱ」等の広場と同じように、市民が多目的に利用できる空間として、発掘調査ゾーンを広く市民に開放し、丘珠縄文遺跡を身近に感じてもらうことができるように努めていきます。

3 調査・研究

(1) 市民参加による継続的な発掘調査

市民ボランティアの参加のもと、継続的な発掘調査を行います。

市民参加による発掘調査は、小規模な面積の調査を毎年継続していく方針とします。

なお、調査の目的や方法は、参加する市民ボランティアと協働で検討していくことを目指していきます。

(2) 市民参加による整理作業・研究活動

発掘調査後の整理作業も、市民ボランティアと協働で行います。また、整理作業に合わせ、文化財調査員や外部講師による講座・学習会等を適時開催し、市民による縄文文化の学習・研究活動をサポートします。

(3) 発掘調査成果の発信

発掘調査の成果を、随時、市民に発信していくとともに、展示や体験学習に活かしていきます。市民ボランティアとの協働による発信を目指し、市民ボランティアによる学習成果の発表をサポートしていきます。

なお、調査の進展に伴い、将来的に遺跡の内容に関する研究が進んだ段階で、遺跡の整備内容について、長期的な視野に立ち検討を進める方針とします。



市民参加による継続的な調査・研究サイクル

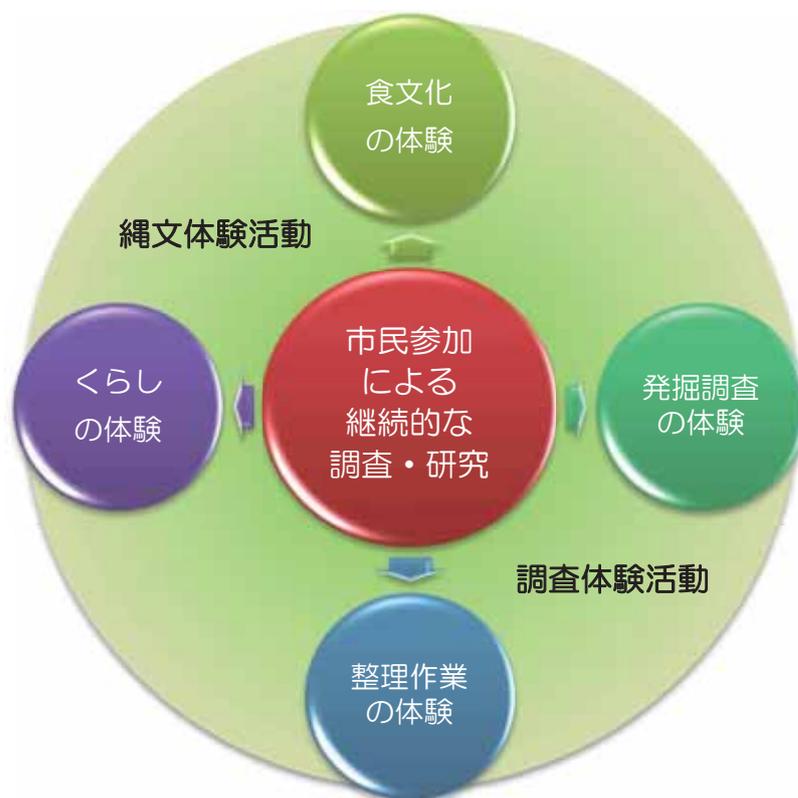
4 体験活動

(1) 活動方針

丘珠縄文遺跡の調査成果を活かし、子どもから大人まで楽しみながら参加できる「食文化」をはじめとした縄文体験活動を展開します。

また、発掘調査や出土品の整理作業を通して、幅広い市民が丘珠縄文遺跡の価値を感じることができるよう、発掘調査や整理作業を体験できる調査体験活動を展開します。

なお、体験活動は固定化せず、市民参加による継続的な調査・研究の成果に基づき、市民と協働で定期的に見直しを行い、活動の活性化と内容の充実に努めていきます。



(2) 縄文体験活動

1) 食文化の体験

丘珠縄文遺跡の調査成果を活かし、縄文の食文化にふれることができる体験活動を展開します。

活動にあたっては、サッポロさとらんどと連携し、参加者が縄文の食文化と

- 素材・・・サケ、ウグイ、チョウザメ、クルマ、ヒエなど
- 活動例・・・栽培体験、収穫体験、調理体験など

現在の食文化を比較することができるように、体験内容を工夫していきます。

2) 暮らしの体験

縄文の暮らしを感じることができる体験活動を展開します。

なお、宿泊を伴う体験活動については、参加者の安全面や施設の管理面等の諸条件の整理を進めるとともに、市内の他団体との連携の可能性についても検討していきます。

- 素材・・・炉跡、土器、石器、土製品、装飾品など
- 活動例・・・火おこし、土器づくり、石器づくりなど

(3) 調査体験活動

1) 発掘調査の体験

市民ボランティアの参加による発掘調査の実施に伴い、子どもや大人が発掘調査の様子を見学できるようにするとともに、発掘調査に実際に参加できる体験活動を展開します。なお、発掘調査に実際に参加する体験活動は、少人数の参加を基本とします。

- 素材・・・発掘調査
- 活動例・・・発掘調査の見学、発掘調査体験（少人数・短時間の体験）

2) 整理作業の体験

子どもや大人が、出土した遺物の整理作業に参加できる体験活動を展開します。

- 素材・・・整理作業
- 活動例・・・整理作業の見学、遺物洗い体験、接合体験^{※31}、拓本体験^{※32}など

※31) 遺跡から出土した土器や石器などの破片を接合し、元の状態に復元する作業の体験。

※32) 墨を使って土器や土製品などの文様を紙に写し取る作業の体験。

(4) 展開方法

体験活動は、年齢や人数、知識や経験の程度など、利用者の多様なニーズに対応できるように、階層的なメニューづくりを進めていきます。また、小中学校の校外学習に対応できるメニュー設定も工夫していきます。

活動にあたっては、体験の効果を最大限高めるために、体験の導入として、ガイダンス施設を活用した遺跡や縄文文化に関する事前学習を取り入れます。また、縄文文化のくらしを現代の我々のくらしと比較して理解できるように、サッポロさとらんどと連携し、縄文文化の体験と現代の「食」や「農」の体験とを組み合わせた複合的な体験メニューの構築を検討していきます。

コラム1 子どもたちと体験活動

現代社会でくらす子どもたちにとって、縄文文化は未知の世界です。様々な体験を通じて、子どもたちと縄文との出会いを演出していきます。



火おこし体験



土器の復元体験



石器づくり体験



発掘調査の体験

5 ガイダンス施設・体験施設

(1) ガイダンス施設の位置付け

「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」は、「市民が育てる成長する遺跡公園」として、市民ボランティアと協働で、「調査・研究」、「展示・公開」、「体験活動」という3つの機能を展開し、札幌の縄文文化の魅力を伝えていくことを目指しています。

調査・研究により得られた最新の成果を常に展示と体験活動に活かし、地下に眠る遺跡を直接感じることができる場所で、遺跡のガイダンスと体験活動を一つのセットとして展開していくことが、丘珠縄文遺跡に対する深い理解と縄文文化の効果的な学びに繋がっていきます。

したがって、市民ボランティアが発掘調査と整理作業・研究活動を継続し、また、遺跡公園を訪れた方が、丘珠縄文遺跡の発掘調査の成果を見学し、縄文のくらしを学び・体験できる施設を、遺跡を臨む空間に整備する必要があります。

(2) ガイダンス施設の機能

ガイダンス施設は、下記の6つの機能を有する施設を想定します。

なお、一部の機能については、サッポロさとらんど既存施設の有効活用を念頭に検討していきます。

- | | |
|--------------|------------|
| 1) 展示・情報発信機能 | 2) 体験学習機能 |
| 3) 整理・研究機能 | 4) 管理・運営機能 |
| 5) 収蔵・保管機能 | 6) 便益機能 |

1) 展示・情報発信機能

学びの導入として、札幌の縄文文化の魅力を感じることができるよう、丘珠縄文遺跡と札幌の縄文文化の概要をガイダンスします。

丘珠縄文遺跡の継続的な調査・研究に基づく積極的な情報発信と市内縄文遺跡のこれまでの調査成果の紹介のために、十分なスペースを確保するとともに、可変展示の手法も採用することを検討します。また、企画展のスペースや体験学習に関わる市民の作品を展示できるスペースも考慮します。

展示解説については、校外学習等での利用が想定される小学校高学年の児童生徒が理解できる内容とします。

2) 体験学習機能

縄文土器づくり等の縄文体験活動を行うことができる機能を設けます。体験活動の機能は、小中学生の校外学習等による団体利用を想定し、十分なスペースの確保を検討します。

また、利用者の規模等に応じ空間を簡便に仕切ることができる機能や、小規模な講演会や学習会の開催に対応できる機能の導入も検討するとともに、雨天時に団体利用者が休憩や昼食など多目的に利用することも想定します。手洗いや土器等の乾燥機能の付設も検討します。

なお、食材調理を伴う縄文の食文化体験については、サッポロさとらんどとの連携による体験メニューとして検討していきます。

また、屋外体験学習ゾーンに面した空間に、火おこし体験等を実施できる機能を設け、継続的な発掘調査により遺跡から出土した遺物の一次的な洗浄や土壌サンプルのフローテーション法^{※33}による選別等を実施できる設備の付設を検討します。

※33) 18 ページの注釈※25 を参照願います。

3) 整理・研究機能

市民ボランティアと協働で、基礎的な整理作業を実施できる整理機能、撮影機能、水洗機能を設けることを検討します。

4) 管理・運営機能

施設の管理・運営を行うための事務室窓口機能や、市民ボランティアの活動拠点としての機能を設けることを検討します。市民ボランティアの活動拠点には、更衣機能の付設を検討します。

5) 収蔵・保管機能

継続的な発掘調査の実施に伴い出土した文化財等を収蔵する収蔵機能と発掘調査や体験活動で使用する道具等を収納する保管機能を設けます。

6) 便益機能

利用者の利便性に供するため、トイレ等を設置します。

(3) ガイダンス施設の規模

ガイダンス施設については、サッポロさとらんどの既存施設の有効活用や多目的な空間利用など、費用対効果を考慮し、必要な規模を検討していきます。

なお、「市民が育てる成長する遺跡公園」として、市民参加の発掘調査の成果を継続的に発信していく必要があるとともに、体験型の施設として、縄文文化を体験できる様々な体験メニューを提供していく必要があることから、展示・情報発信機能及び体験学習機能に配慮した空間利用を検討します。

(4) ガイダンス施設の構造

ガイダンス施設は、文化財の展示・収蔵・保管施設として、耐火性・耐震性を有する構造と適切な防火設備・防犯設備の設置が求められます^{※34}。

また、ガイダンス施設の整備にあたっては、サッポロさとらんどの景観と調和したデザインを検討するとともに、多様な利用者に対応できるように、ユニバーサルデザインにも配慮します。

※34 『文化財公開施設の計画に関する指針』平成7年8月 文化庁。

(5) 屋外体験学習ゾーン

ガイダンス施設に近接した屋外に、火おこし体験や土器の野焼き体験などができる屋外体験学習ゾーン（体験広場）を整備します。屋外で行う体験活動は、必要に応じて、発掘調査ゾーンの多目的広場も活用していく方針とします。

なお、ガイダンス施設の屋外に、屋外体験学習ゾーンの利用者が使用できる手洗いの付設を検討します。

6 便益施設

(1) トイレ・手洗い

トイレはガイダンス施設内に、手洗いはガイダンス施設の内外に設置します。その他のゾーンについては、サッポロさとらんど内の既設のトイレ・手洗いを利用することから、新たにトイレ・手洗いは設置しないものとします。

(2) 園路

サッポロさとらんど内の主要施設からの導線については、可能な限り既設の園路を活用することとし、さとらんどセンターやさとらんど交流館等から利用者を遺跡公園に誘導する誘導板の設置など、利用者の移動の利便性を検討していきます。

(3) 駐車場

東側に近接するサッポロさとらんど内の既設の第4駐車場を、最寄りの駐車場として利用します。

なお、ガイダンス施設には、管理用車両の駐車や機材の搬入等に利用できるアスファルト舗装の管理ヤードを付設します。

(4) 休養施設

遺跡の景観を保護するため、保存整備ゾーンに、あずま屋・ベンチ等は基本的に設置しない方針とします。

7 植栽等

(1) 方針

縄文の植生を活かした植栽による縄文の景観を感じることができる空間づくりを検討していくとともに、サッポロさとらんど周辺の既存の周辺環境と調和した空間づくりを目指していきます。

なお、縄文の植生復元は、花粉分析^{※35}や珪藻分析^{※36}等の積み重ねによる古植生の復元にに基づき進めていく必要があるため、当面は、既存樹木を活用しながら、整備後の古植生に関する継続的な調査・研究の成果に基づき、植栽計画を検討しながら、市民参加により縄文の植生復元を進めていく方針とします。

(2) 既存樹木の取り扱い

整備対象範囲には、バッファゾーンも含めて、約450本の樹木が植えられています。これらの既存樹木については、可能な限り活用する方針とし、整備に支障がある場合は、ゾーン毎にその取り扱いを判断します。

1) 保存整備ゾーン

保存整備ゾーンについては、現状で1.5m前後の盛土が施されており、樹木の垂下根による遺跡への影響は軽微なものと考えられることから、可能な限り、既存の樹木を活用していくこととします。

2) ガイダンス施設・体験施設ゾーン

ガイダンス施設の建設及び屋外の体験広場の整備に支障を来す樹木については、移植を含めて撤去を検討します。

3) エントランスゾーン

エントランスゾーンには、該当する樹木はありません。

4) バッファゾーン

バッファゾーンについては、既存の樹木を活用していくこととします。

※35) 遺跡の地層から植物の花粉化石を取り出し、顕微鏡で植物の種類を調べ、古植生や古環境を推定する方法。

※36) 遺跡の地層から藻類の仲間である珪藻の化石を取り出し、顕微鏡で珪藻の種類を調べ、古環境を推定する方法。

(3) 各ゾーンにおける植栽計画

1) 保存整備ゾーン

発掘調査ゾーンについては、サッポロさとらんど全体の景観に溶け込む空間づくりの観点や、整備後の継続的な調査に伴う復旧の簡便性の観点から、芝張り整備を行います。

また、遺跡保全ゾーンについては、将来的に遺跡を保全していく必要があることから、遺跡への影響を考慮した上で、既存樹木と現状の芝張りないし草地を活用しながら、植生復元について検討していきます。

2) ガイダンス施設・体験施設ゾーン

ガイダンス施設ゾーンについては、管理ヤードを除く建物周囲について芝張り整備を行います。屋外体験学習ゾーンについては、火を使用した体験を行う観点から、植栽は行わず、地表面はクレイ舗装などを検討します。

3) エントランスゾーン

エントランスゾーンは、周囲の景観に溶け込む空間づくりの観点から、既存の園路を除き、地表面をインターロッキング舗装で処理し、エントランス空間を演出するために、必要に応じて修景を目的とした花木等の部分的な植栽を検討します。

4) バッファゾーン

バッファゾーンは、既存樹木を活用していきます。

8 公開・活用計画

(1) 展示計画

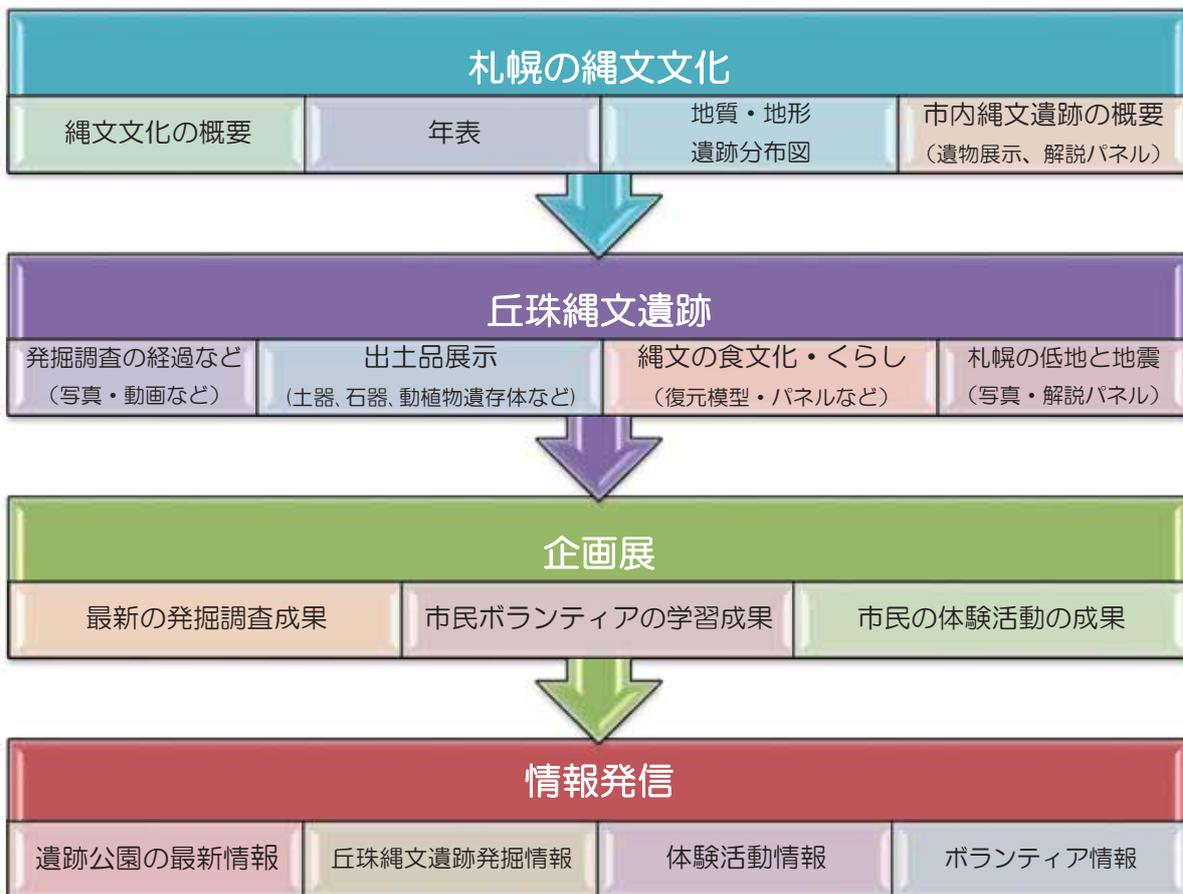
1) 展示方針

展示機能は、遺跡公園を訪れた利用者が、継続的な発掘調査や体験活動への参加に向けて、丘珠縄文遺跡と札幌の縄文文化について事前学習を行う、公開・活用の導入施設として重要な役割を担います。

このことを踏まえ、展示では、丘珠縄文遺跡の特徴や価値を発信するとともに、これまで蓄積してきた発掘調査の成果を活用して、市内の他の縄文遺跡についてガイダンス展示を行い、札幌の縄文文化の魅力を発信していきます。発信にあたっては、遺跡公園のテーマである『川辺に広がる札幌の縄文、その「食文化」をはじめとする縄文の体感』を柱とし、札幌の縄文文化の魅力を効果的に伝えることができる展示シナリオについて、市民ボランティアと協働で検討します。

なお、丘珠縄文遺跡で確認された地震による液状化現象の痕跡などをもとに、「防災教育」の視点を展示に盛り込むことも検討していきます。

2) 展示計画（参考）



3) 展示手法

継続的な調査・研究に基づく積極的な情報発信に向けて、展示替えを容易に行うことができる自由度の高い可変展示の手法を検討します。また、利用者の理解を深めるために、ハンズオン展示^{※37}の手法や、グラフィック機器などの効果的な導入について検討していくとともに、定期的な展示替えについては、展示シナリオに基づき、市民ボランティアと協働で実施していきます。

なお、海外からの観光客の利用も視野に入れ、外国語表記の導入を検討していきます。

※37) ハンズオン (hands-on) 展示とは、利用者が直に展示物や展示装置に触れたり利用したりすることができる、楽しみながら学ぶことができる展示です。

(2) 公開方法

1) 開園日・開園時間

サッポロさとらんど内にある施設として、原則としてサッポロさとらんどの開園日・開園時間に準じます。

【参 考】サッポロさとらんど開園日と開園時間

- 開園日 4月29日～11月3日 無休
11月4日～4月28日 月曜日^{※1}、年末年始^{※2} 休園
※1) 祝日の場合は開園し、その翌日休園。 ※2) 12月29日～1月3日
- 開園時間 4月29日～9月30日 9:00～18:00
10月1日～4月28日 9:00～17:00

2) 利用料金の設定

サッポロさとらんどは入園及び各施設の入館がいずれも無料であることから、ガイダンス施設は、無料とします。ただし、体験活動については、利用者の人数に比例して人件費・消耗品等の費用がかかり、施設の適切な運営の支障とな

【参 考】サッポロさとらんどの体験メニュー、講座等の料金設定

- ・手づくり体験 (個人) バター30分 350円、ソーセージ60分 900円、アイスクリーム 30分 450円、味噌づくり 60分 2,200円、とうふ 90分 700円、生キャラメル 60分 500円など
- ・収穫体験 アスパラ 1g1円、ミニトマト 1カップ 250円、きゅうり・えだまめ各 2本 100円、とうきび 1本 120円、タマネギ 1袋 150円、ジャガイモ バケツ小 200円など
- ・栽培収穫体験 サツモイモ 15株コース 4日間 3,100円、ジャガイモ 40株コース 3日間 2,100円、タマネギ 50本コース 3日間 1,100円など
- ・栽培収穫加工体験 野菜コース 10日間 3,600円、ソバコース 5日間 3,100円など
- ・さっぽろ農学校入門コース 40講義 8,000円 当日 2講義のみ 500円

ることから、サッポロさとらんどでの体験メニューや講座料金に準じ、各体験活動に係る教材分等の費用を有料とします。

(3) 活用計画

ガイダンス施設を学びの導入とし、札幌の縄文文化と丘珠縄文遺跡を発信していくとともに、市民参加による継続的な発掘調査をとおして、「地下をのぞき、遺跡を体感する」機会を提供し、「本物の魅力」を広く市民に伝えていくことを目指します。

また、札幌の縄文文化を体感できる遺跡公園として、学校教育と連携した小中学校の校外学習としての活用も目指し、実物にふれ、体験を行うことによって、縄文文化の知恵や技術に気づき、現代のくらしと縄文文化を比較することができるようなプログラムを検討していきます。

さらに、観光資源としての活用も目指し、例えば体験型の観光ツアーなど、観光客の集客に向けた取組を、サッポロさとらんどと連携し、検討していきます。

以上のような活用をとおして、利用者のリピート率を上げ、サッポロさとらんど内にある施設として、全体の魅力を高めていくことにより、年間およそ 60,000 人の方々が遺跡公園を訪れることを想定しています。

なお、活用においては、利用者の中から市民ボランティアとして、丘珠縄文遺跡の継続的な調査・研究や体験活動に主体的に取り組んでいく人材が育成できるような取組についても検討していきます。



遺跡公園の活用イメージ

活用計画（参考）

項目	内容	対象 [※]			
		ボランティア	市民	小中学生団体	観光客
ガイダンス	札幌の縄文文化と丘珠縄文遺跡の発信	◎	●	●	●
	施設情報・イベント情報等の発信		●	●	●
発掘調査	市民参加による継続的な発掘調査	◎	●		
	遺跡見学会などイベントの開催		●	●	●
整理作業	遺物の基礎整理	◎	●		
	調査情報の基礎整理	◎	●		
研究活動	ボランティア研修会、学習会の開催	●			
	講座、講演会の開催		●	●	●
縄文体験活動	食文化の体験	◎	●	●	●
	くらしの体験	◎	●	●	●
調査体験活動	発掘調査の体験	◎	●	●	●
	整理作業の体験、バックヤードツアー	◎	●	●	●
活動成果の発信	学習・研究成果の発表	◎	●	●	●
	展示の更新、企画展の開催		●	●	●

※「対象」欄の「◎」は、ガイドや発表者としての参加を意味する。

コラム2 本物の魅力

発掘調査は地下に眠る縄文遺跡との出会いであり、縄文の暮らしに思いをはせることができる貴重な機会です。

また、出土した遺物を見れば、縄文の知恵や技術に思いが至ります。遺跡公園では、発掘調査、出土品の展示、体験活動などをおして、「本物」にふれる機会を提供していきます。



縄文土器が出土した状況



市民ボランティアによる調査の様子



丘珠縄文遺跡見学会の様子



縄文土器にふれる

(4) 情報計画

1) サイン計画

サッポロさとらんどに至るまでの既設の誘導情報（案内板、標識）に、遺跡公園の案内を追加することを検討します。

また、サッポロさとらんど内の既設の誘導情報（案内板、標識）に、遺跡公園の案内を追加するとともに、必要に応じて、既設園路による導線の交差部分に新たな誘導板の設置を検討します。

最寄りの駐車場として利用予定の第4駐車場西側には、エントランスゾーンへと通じる遺跡公園の入口表示を行うとともに、エントランスゾーンには、計画内容・利用方法・利用マナーを表示する遺跡公園の総合案内板を設置します。

さらに、遺跡公園の各ゾーン・施設に名称表示を設置するとともに、発掘調査ゾーンに、遺跡の概要を説明する解説・学習サインを、必要最小限の範囲で設置します。

なお、解説・学習サインには、モバイル型のVR^{※38}やAR^{※39}など、最新のIT技術を活用した手法の導入を検討していきます。

2) 広報計画

リーフレットの作成、ホームページの開設・更新等により、施設の情報を随時発信していきます。また、各種イベントの開催時には、ホームページ、広報紙等を活用するとともに、チラシ・ポスター等を作成し、関連施設での配布を働きかけることにより、活動内容を市内外に広く周知し、集客を促していきます。

※38) VR (Virtual Reality : 仮想現実) とは、コンピュータグラフィックスや音響効果などを組み合わせて、人工的に現実感を作り出す技術です。

※39) AR (Augmented Reality : 拡張現実) とは、現実世界から得られた画像・映像・音声などに加工を施して、肉眼では見えない部分を見えるようにしたり、関連情報を提供したりする技術です。

(5) 「学び」のネットワーク計画

1) サッポロさとらんど

さとらんどセンター、さとらんど交流館、体験農園などと連携し、利用者の多様なニーズに対応する主に「食文化」をテーマとした体験活動のメニューを検討していきます。

2) モエレ沼公園

サッポロさとらんの北東側に位置するモエレ沼公園は、年間70万人を超える利用があり、年間60万人を超える利用者を集めるサッポロさとらんどを含め、この地域は「産業や観光、文化芸術、スポーツなど、国際的・広域的な広がりをもって利用され、札幌の魅力と活力の向上を先導する高次な都市機能が集積する拠点」（「高次機能交流拠点」）の一つとして位置づけられ、今後、「文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動など、市民や来訪者の創造性を刺激する多様な活動の拠点として、水辺や農地、埋蔵文化財などを生かした良好な空間の更なる活用を図」る方向性が示されています^{※40}。

この方向性に基づき、サッポロさとらんどと連携した学習メニューの提供や、モエレ沼公園と連携した情報提供を検討し、モエレ沼公園・サッポロさとらんど周辺の更なる魅力アップを目指していきます。

3) 埋蔵文化財センター

遺跡を通じた札幌の歴史学習の導入として、埋蔵文化財センター展示室と活用面などで連携し、縄文文化を中心とした市内の遺跡の情報を発信するとともに、札幌の遺跡を学ぶことができる学習メニューの提供を目指していきます。

※40) 『札幌市まちづくり戦略ビジョン 戦略編（対象年度：平成25～35年度）』平成25年10月。

9 管理・運営計画

(1) 管理・運営体制の基本的な考え方

遺跡公園では、遺跡を適切に保護しながら、市民と協働で遺跡を活用していく方針のもと、市民参加による継続的な調査・研究を推進し、その成果に基づき、札幌の縄文文化と丘珠縄文遺跡を発信していく必要があり、施設の管理・運営には、市民ボランティアや地域の方々との密接な連携と学術的な研究成果に基づいた継続性が求められます。この継続性を維持していくとともに、教育資源や観光資源として遺跡公園を有効に活用していくためには、行政が主体的に関わり、市民と連携した管理・運営体制を構築することが必要となります。

そのために、行政は、継続的な調査・研究を核とし、研修会・学習会や講座・講演会等の開催をとおして、市民ボランティアや地域の方々を恒常的に支援していくとともに、市民から市民へと発展的に活動が継承されていく体制の円滑な組織化をサポートしていきます。

一方で、多様な市民ニーズに、より効果的・効率的に対応するために、民間の自由な発想・能力を活用していくことが求められていることから、施設の管理・運営には、市民サービスの向上を図ることを目指して、指定管理者制度^{※41}の導入を検討していきます。

なお、指定管理者制度を導入する際には、遺跡公園としての活動理念を理解し、実践することができる専門性が求められます。

また、遺跡公園は、サッポロさとらんどの中にあることから、サッポロさとらんどとの一体的な管理運営など、できる限りコストを抑えた管理運営のあり方についても、検討していきます。

将来的には、行政・市民・指定管理者が連携し、それぞれの能力を最大限発揮することができる施設の管理・運営を目指していきます。

※41) 多様化する住民ニーズにより効果的、効率的に対応するため、「公の施設」(住民の福祉を増進する目的をもってその利用に供するための施設)の管理に、民間の能力を活用する制度。

(2) 管理計画

遺跡を適切に保存するとともに、利用者の利便性・安全性を確保することを目的とした管理を行います。

1) 保存整備ゾーン

●発掘調査ゾーンは、市民参加による継続的な調査を実施する空間として、また、サッポロさとらんだの「風のはらっぱ」等の広場と同じように、市民が憩う広場として、定期的に草刈りを行う等、環境保全に努めます。

●遺跡保全ゾーンは、将来的に遺跡を保全していく必要があることから、遺跡への影響を考慮した上で、植生復元について検討していきます。また、定期的に草刈りを行う等、環境保全に努めます。

2) ガイダンス施設・体験施設ゾーン

●ガイダンス施設は、利用者の活動拠点として、日常的な清掃や機器類の点検を徹底し、利用者の安全性・快適性の維持に努めます。

●屋外体験学習ゾーン（体験広場）は、火を使用した体験活動を実施することから、必要箇所に消火器具を設置するとともに、日常的な巡回を徹底し、火災発生未然の防止に努めます。

3) エントランスゾーン

●エントランス広場は、遺跡公園の正面として、日常的な清掃を徹底し、環境の美化に努めます。

●サイン・インフォメーションコーナーは、破損・汚れ等の日常の点検を徹底し、施設イメージの低下を防ぐとともに、適切な情報の更新に努めます。

4) バッファゾーン

●バッファゾーンに配置された樹木等の植栽については、利用者の安全性・快適性の観点から、サッポロさとらんだの他の地区と同様の管理を行っていきます。

(3) 運営計画

札幌の縄文文化の魅力を発信していくために、丘珠縄文遺跡を歴史資源、文化資源、教育資源として活用し、市民と協働で将来に継承していきます。また、サッポロさとらんだと一体的に体験できる施設として運営していくことによって、サッポロさとらんだの集客交流機能を高めていきます。

1) 解説

展示室の見学について、利用者のニーズに応じて、解説を行います。解説は、市民ボランティアによるガイドサービスの導入を検討します。

2) 縄文体験活動

市民ボランティアと協働で、体験内容や手順の検討、体験用具の整備等を行うとともに、利用者を市民ボランティアが主体的に指導できるような体制の導入を検討します。

3) 調査体験活動

発掘調査、整理作業の見学・体験について、利用者を市民ボランティアが主体的にサポートできるような体制の導入を検討します。

4) 調査・研究

市民ボランティアが調査・研究に関われる機会を提供し、自主的に取り組める環境を整備していきます。

5) 情報発信

発掘調査の成果に基づいた遺跡見学会の開催、展示内容の更新、企画展の開催、学習発表会の開催等に、市民ボランティアが主体的に関われる体制の導入を検討します。また、体験活動や各種イベントの広報活動についても、市民ボランティアが参画できる仕組みを検討します。

6) 集客活動

リーフレットの作成やホームページの開設・更新等による施設の宣伝、チラシ・ポスター等の作成・配布によるイベントの周知、小中学校の校外学習の誘致、観光資源としての施設活用のPR等については、指定管理業務に含めることを検討し、効率的・効果的な集客活動が展開される体制を整備します。

7) 清掃・点検・植栽管理

ガイダンス施設の日常的な清掃・点検、定期的な屋外の植栽管理については、指定管理業務に含めることを検討し、適切な管理が行われる体制を整備します。

なお、植栽管理については、定期的に地域住民や市民ボランティアの協力を得ながら実施する仕組みも検討していきます。

(4) 防災計画

サッポロさとらんどは、『札幌市避難場所基本計画』（平成25年3月）において、災害発生時の「広域避難場所」^{※42}の一つに定められており、また、平成26年には大規模な火事に対する「指定緊急避難場所」の一つに指定されています。

また、サッポロさとらんど付近は、『札幌市洪水ハザードマップ』^{※43}において、浸水深1.0～2.0m未満の浸水が想定される地域に指定されており、『札幌市地震防災マップ』^{※44}において、震度6強の地震の発生が予想される地域に指定されています。

これらのことを踏まえ、遺跡公園については、サッポロさとらんど内にある施設として、サッポロさとらンドの「消防計画」に準じた管理・運営を行ってまいります。

※42) 大規模火災が発生した場合、炎や煙から身を守り、安全を確保する場所。

※43) 150年に1回程度起こる大雨を想定し作られたハザードマップ（平成16年7月作成、平成24年3月一部改訂）。

※44) 札幌で発生する可能性があり、最大級の被害をもたらす地震を設定して、その地震から想定される被害の全体像を示す防災マップ（平成21年3月作成、平成25年6月一部改訂）。

第7章 事業スケジュール

○平成25年度

基本構想の検討

○平成26年度

基本計画の検討

○平成27～29年度

公開・活用及び管理・運営に関する検討、基本・実施設計、施設建築等

○平成30年度

オープン予定

資料編

1 検討委員会の設置・運営

【検討委員会の設置経過】

- ・委員会設置準備 平成 24 年 4～5 月
- ・公募委員募集 平成 24 年 6 月
- ・公募委員選定・委員委嘱 平成 24 年 7～10 月
- ・専門部会の設置 平成 24 年 11 月

【検討委員会の委員構成：平成 24～26 年度】

- ・座長 川名 広文 札幌大学 教授
- ・副座長 小杉 康 国立大学法人 北海道大学大学院 教授
- ・委員 阿部 一司 社団法人 北海道アイヌ協会 札幌支部長（平成 24～25 年度）
札幌アイヌ協会 会長（平成 26 年度）
- 石川 朗 釧路市埋蔵文化財調査センター 副主幹
- 大島 直行 伊達市噴火湾文化研究所 所長
- 川上 源太郎 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
環境・地質研究本部 地質研究所 研究主任
- 北島 英司 丘珠連合町内会 会長（平成 24～25 年度）
丘珠連合町内会 顧問（平成 26 年度）
- 鈴木 ゆか 公募委員
- 高瀬 克範 国立大学法人 北海道大学大学院 准教授
- 高橋 雅子 公募委員
- 椿坂 恭代 元札幌国際大学 客員研究員
- 富岡 直人 岡山理科大学 教授
- 平間 吉春 元北海道退職校長会 会長
- 吉田 恵介 公立大学法人 札幌市立大学 教授

【検討委員会のオブザーバー】

平成 24 年度

- ・長沼 孝 北海道教育庁生涯学習推進局 文化財・博物館課 主幹
- ・三部 英二 札幌市経済局農政部長
- ・大崎 茂己 札幌市東区市民部長

平成 25～26 年度

- ・長沼 孝 北海道教育庁生涯学習推進局 文化財・博物館課長
- ・三部 英二 札幌市経済局農政部長
- ・須貝 武美 札幌市東区市民部長

【基本構想検討委員会の運営経過】

第 1 回 検討委員会 (平成 24 年 11 月 7 日)

- ・議題 1 事業の位置づけと委員会の目的について
- ・議題 2 埋蔵文化財の保存と活用について
- ・議題 3 基本構想に盛り込むべき内容について
- ・議題 4 現状における遺跡公園のテーマについて
- ・議題 5 遺跡整備の意義と縄文時代の研究動向について

第 2 回 検討委員会 (平成 24 年 12 月 25 日)

- ・議題 1 市内遺跡の概況について
- ・議題 2 さとらんどの遺跡の概要について
- ・議題 3 H317 遺跡の調査成果と H508 遺跡の展望について
- ・議題 4 他都市における遺跡公園整備事例について

第 3 回 検討委員会 (平成 25 年 2 月 25 日)

- ・議題 1 動物利用からみた H317 遺跡の位置付け
- ・議題 2 モエレ沼周辺の環境変遷について
- ・議題 3 「サッポロさとらんど」と周辺地域の現状について
- ・議題 4 遺跡公園整備のテーマについて

第 4 回 検討委員会 (平成 25 年 3 月 26 日)

- ・報告 1 講演会の実施結果について
- ・報告 2 第 1 回調査・整備委員会について
- ・議題 1 遺跡周辺に係る法的規制と都市計画との関係について
- ・議題 2 平成 25 年度の事業計画について

第 5 回 検討委員会 (平成 25 年 7 月 23 日)

- ・報告 1 平成 24 年度の事業概要について
- ・報告 2 平成 25 年度の確認調査と市民参加事業について
- ・さとらんど施設見学
- ・H508 遺跡確認調査現地視察

第 6 回 検討委員会 (平成 25 年 12 月 16 日)

- ・報告 1 これまでの検討経過について
- ・議題 1 基本構想 (案) について

第 7 回 検討委員会 (平成 26 年 1 月 29 日)

- ・議題 1 基本構想 (案) について

第 8 回 検討委員会 (平成 26 年 3 月 24 日)

- ・議題 1 基本構想 (案) について
- ・報告 1 平成 26 年度の事業計画について

【基本計画検討委員会の運営経過】

- 第1回 検討委員会（平成26年11月6日）
- ・報告1 平成26年度の市民意見の集約状況について
 - ・議題1 整備基本計画の検討内容について
 - ・議題2 「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本計画(案)
- 第2回 検討委員会（平成26年11月26日）
- ・議題1 「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本計画(案)
- 第3回 検討委員会（平成26年12月17日）
- ・議題1 「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本計画(案)
- 第4回 検討委員会（平成27年1月13日）
- ・議題1 「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本計画(案)

【専門部会の委員構成：平成24～26年度】

- ・座長 川名 広文 札幌大学 教授
- ・副座長 小杉 康 国立大学法人 北海道大学大学院 教授
- ・委員 石川 朗 釧路市埋蔵文化財調査センター 副主幹
- 大島 直行 伊達市噴火湾文化研究所 所長
- 高瀬 克範 国立大学法人 北海道大学大学院 准教授
- 椿坂 恭代 元札幌国際大学 客員研究員
- 富岡 直人 岡山理科大学 教授

【専門部会の運営経過】

- 第1回 専門部会（平成25年2月25日）
- ・議題1 平成24年度の測量調査の結果について
 - ・議題2 平成25年度の確認調査の方針について
- 第2回 専門部会（平成25年10月8日）
- ・報告1 平成25年度の確認調査の結果について
 - ・報告2 遺跡公園整備事業への市民意見について
 - ・議題1 遺跡の評価と整備の方向性について
- 第3回 専門部会（平成25年11月13日）
- ・報告1 H508遺跡の評価について
 - ・議題1 整備の方向性について
- 第4回 専門部会（平成26年7月23日）
- ・報告1 平成26年度確認調査の市民ボランティア参加状況について
 - ・報告2 平成26年度の確認調査について

【委員会設置要綱】

「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本構想・計画検討委員会設置要綱

(目的)

第1条 サッポロさとらんど内に保存されている遺跡を活用した遺跡公園「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」の整備・活用に向けた基本構想・計画を策定するにあたり、遺跡公園としてのあり方や役割・機能について、専門的な立場及び市民の立場からの意見を聴くため、「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本構想・計画検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」の整備に関する基本構想・計画について、出席者が意見交換を行うものとする。

(構成)

第3条 委員会は、学識経験者その他文化部長が適当と認める者の中から、公募により選出された者2名を含む14名以内で構成するものとする。

(設置期間)

第4条 委員会の設置期間は、委員が協力依頼を受けた日から平成26年度中までとする。

2 委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(座長等)

第5条 委員会には、座長及び副座長を置くものとする。

2 座長及び副座長は、委員の互選により定める。

3 座長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるときにはその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、文化部長が必要に応じて招集する。

(オブザーバーの設置)

第7条 委員会には、数名のオブザーバーを置き、委員会の会議に出席を求め、意見を聴くことができる。

(意見の聴取)

第8条 座長が特に必要があると認めるときは、委員会の会議に、委員・オブザーバー以外の

者の出席を求め、資料の提出を受け、意見を聴くことができる。

(部会)

第9条 委員会は、その所掌事項に係る特定の事項について、専門的な意見交換を行うため、学識経験者からなる部会を置くことができる。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は、観光文化局文化部文化財課において処理する。

(その他)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、文化部長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成24年5月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年9月10日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年3月28日から施行する。

2 市民意見の集約

【発掘調査市民ボランティア（公募）】

- ・市民ボランティア参加期間
平成 25 年 7 月 24 日～8 月 11 日
平成 26 年 7 月 23 日～8 月 10 日
- ・市民ボランティア調査日数
平成 25 年度：期間中の 13 日間
平成 26 年度：期間中の 11 日間
- ・参加者数
平成 25 年度：49 名（女性 24 名、男性 25 名）
平成 26 年度：58 名（女性 20 名、男性 38 名）
- ・延べ参加者数
平成 25 年度：168 名
平成 26 年度：203 名

【発掘調査市民ボランティア意見交換会（ワークショップ：公開）】※

- ・平成 25 年度
開催日：平成 25 年 8 月 31 日
参加者数：15 名（女性 7 名、男性 8 名）
内容：A～C グループに分かれて遺跡公園について自由討論・発表
- ・平成 26 年度
開催日：平成 26 年 8 月 23 日
参加者数：29 名（女性 10 名、男性 19 名）
内容：A～D グループに分かれて遺跡公園について自由討論・発表

【遺跡公園の整備に関するアンケート】※

- ・発掘調査市民ボランティア
平成 25 年度：42 名回答（平成 25 年 7 月 24 日～8 月 11 日）
平成 26 年度：53 名回答（平成 26 年 7 月 23 日～8 月 10 日）
- ・丘珠縄文遺跡見学会参加者
平成 25 年度：83 名回答（平成 25 年 8 月 24 日）
平成 26 年度：106 名回答（平成 26 年 8 月 30 日）
- ・札幌市埋蔵文化財センター講演会参加者
平成 25 年度：21 名回答（平成 25 年 9 月 23 日）
平成 26 年度：100 名回答（平成 26 年 12 月 20 日）

※ 意見交換会及びアンケートの結果については、資料編「4 意見交換会の結果」（65 頁）、資料編「5 アンケートの結果」（69 頁）をご覧ください。なお、資料は札幌市ホームページでも公開しています（<http://www.city.sapporo.jp/kankobunka/maibun/>）。

3 市民との情報共有

【平成 23 年度】

- ・ 出前展示「さとらんどの遺跡展」
平成 23 年 9 月 10 日～11 日 さとらんど交流館
- ・ 公開シンポジウム「遺跡の保存と整備・活用 ～さとらんど遺跡公園整備に向けて～」
平成 24 年 3 月 3 日 札幌市中央図書館 講堂
- ・ 埋蔵文化財センター企画展「さとらんどの遺跡展」
平成 23 年 11 月 1 日～平成 24 年 3 月 30 日 埋蔵文化財センター展示室

【平成 24 年度】

- ・ 出前展示「さとらんどの遺跡展」
平成 24 年 9 月 8 日～9 日 さとらんど交流館
- ・ 講演会「縄文文化と札幌の遺跡」
平成 25 年 2 月 16 日 北海道立道民活動センター「かでの 2・7」
- ・ 埋蔵文化財センター企画展「さとらんどの遺跡展」
平成 24 年 11 月 1 日～平成 25 年 3 月 29 日 埋蔵文化財センター展示室

【平成 25 年度】

- ・ 確認調査現地見学
平成 25 年 7 月 24 日～8 月 11 日（確認調査実施日） 丘珠縄文遺跡（現地）
- ・ 中高生体験発掘
平成 25 年 8 月 6 日～9 日 丘珠縄文遺跡（現地）
- ・ 遺跡見学会
平成 25 年 8 月 24 日 丘珠縄文遺跡（現地）
- ・ 出前展示「さとらんどの遺跡展」
平成 25 年 8 月 24 日 丘珠縄文遺跡（現地）
- ・ 講演会「遺跡公園の活用を考える」
平成 25 年 9 月 23 日 北海道立道民活動センター「かでの 2・7」
- ・ 埋蔵文化財センター企画展「さとらんどの遺跡展」
平成 25 年 11 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日 埋蔵文化財センター展示室

【平成 26 年度】

- ・ 確認調査現地見学
平成 26 年 7 月 23 日～8 月 10 日（確認調査実施日） 丘珠縄文遺跡（現地）
- ・ 中高生体験発掘
平成 26 年 8 月 2 日～3 日、6 日～7 日 丘珠縄文遺跡（現地）

- ・遺跡見学会
平成 26 年 8 月 30 日 丘珠縄文遺跡（現地）
- ・出前展示「さとらんどの遺跡展」
平成 26 年 8 月 30 日 丘珠縄文遺跡（現地）
- ・公開シンポジウム《北の縄文世界》
「是川石器時代遺跡と丘珠縄文遺跡～遺跡公園の整備に向けて～」
平成 26 年 12 月 20 日 札幌市中央図書館 講堂
- ・埋蔵文化財センター企画展「さとらんどの遺跡展」
平成 26 年 11 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日 埋蔵文化財センター展示室

4 意見交換会の結果

(1) 平成25年度の意見交換会

発表された意見

Aグループの意見

●発掘調査を体験できる遺跡公園

- ・発掘しつづける遺跡公園(長く調査を続けてほしい)。
- ・親子、小・中・高生、一般を対象とした体験発掘を行う、毎年、発掘調査を体験してもらう。
- ・子どもに、竹ペラで発掘調査を体験させてあげたい。
- ・雨天時にも調査できるように、調査区にテントをかける(好天時は乾燥対策になるように)。
- ・発掘調査の疑似体験コーナーを設ける。
- ・遺跡を保存するため、一部は調査しないでほしい。

●遺跡の整備や展示の方法について

- ・発掘された遺物をそのまま展示する。石器群の一部を出土状態のまま展示してはどうか。
- ・発掘面を切り出して壁に展示する。
- ・出土状態が実感できるように、要所(トレンチ調査区)にドームをかける。
- ・縄文時代の地表面を露出しておく。その場に施設を建て、土にふられるようにしてはどうか。
- ・発掘調査の方法がわかるような整備・展示を行う。

●歴史の比較

- ・本州の歴史と対比できるようにする。
- ・縄文、続縄文、弥文の名時代を対比できるようにする。
- ・さくらんどの内にある縄文時代の遺跡と弥文時代の遺跡の違いがわかるような展示を行う。

●楽しい・親しみやすい施設

- ・子ども、親子が遊べる遺跡公園。
- ・クイズラリーができる展示(全問正解するとメッセージが！)。
- ・マスコットキャラクターをつくる。
- ・キャンプをして土器づくりや火おこし体験ができる施設。

●古代の生活を体感できる施設

- ・昔々(縄文時代)を思い浮かべることができる空間をつくる。
- ・昔々の生活体験ができる施設(火をおこして、火を使って！)
- ・土器づくりや石器づくり体験。
- ・縄文時代の地面の高さを感じることができる整備。
- ・竪穴住居を再現し、当時の生活がわかるようにする。
- ・縄文時代には、冬はどうやって生活していたのが再現してみる。

●学習ができる施設

- ・小・中学校と連携(総合学習)。
- ・もっと早く知りたかった(子どもの頃から学ぶことができるように！)。
- ・生涯学習。

●古代の食・農業

- ・古代に栽培されていた作物の栽培体験。ヒエを育てて(作る)・食べる。
- ・古代の農具を再現して、農業体験に用いる。

●施設の利便性

- ・札幌の中心部から直通バスを出す。
- ・冬の寒い時にも来てもらえるようする(通年型の施設)。
- ・健常者だけでなく、障がいのある方も気楽に参加・見学することができる施設。

Bグループの意見

●主な利用者

- ・主な利用者を絞ることが大切ではないか。
- 施設のターゲットを市民、地域住民、子どもに絞る。

施設のターゲット

- ・子どもがメイン
- ・大人も行きたくなる公園
- ・町内会(中高年層)も来てくれる公園
- ・中高生(女子)→パワースポットがあれば来てくれるのではないかな？

「これをやったら来る!!」

●五感で感じる体験型

- ・もぐる、のぞく → 地層を見せる。

●つくる

- ・火おこし体験、土器づくり体験など。

●時間を感じる

- ・完成させない、つくり続ける。
- ・発掘調査 → 少しずつ掘っていく(調査を少しずつ継続していく)。

●宿泊できる

- ・キャンプ。

●「かたち」に残る体験学習

- ・チケットや記念品を工夫する。

●博物館をつくる

- ・遺跡と隣接して博物館をつくる。

●食べる

- ・石器で料理。
- ・縄文料理(縄文時代に食べていた魚や動物を使って)。
- ・おいしい食べ物(名物)があるとよいのではないかな。
 - 例えば、ヒエまんじゅう(アワまんじゅう)。
 - 北海道神宮にある判官饅頭のような名物をつくる(地元の方々にも協力してもらう)。

●情報発信

- ・来てもらうには情報の発信が大切。

●協力

- ・学校教育と連携して子どもたちに来てもらう。

★課題

- ・車がないと来るのがたいへん!!
- ・バス停があればよい。
- ・施設の名称をもっと検討した方がよい。

Cグループの意見

●どんな施設

・まずは知ってもらうことが大切。



- ・レベル感は大事！わかりやすさも大切！
- ・みんなに見てもらえるような遺跡公園にしたい。
- ・単発ではなく、何度も来てもらえるような公園にしたい。
- ・縄文文化に興味がある人が来てくれればよいのではないか。
- ・学校とタイアップして参加できるような施設(単位制)。
- ・遺跡を残す → その場が大事！！
- ・ガイドも必要。学生さんの語り部がいるのが良いのではないかな。
- ・世界遺産との関係、観光資源。
- ・体験発掘に小学生や中学生に参加してほしい。
- ・子どもからお年寄りまで体験できるような施設。縄文文化を理解できる施設。
- ・子どもが興味を湧くような体験型の施設。

●どんな体験発掘

- ・スコップを使って掘ることから始めないと遺跡を発掘調査した気にならない。参加することが大事。
- ・一般の人がもっと参加できる機会を場やしてほしい。
- ・もっと色々な遺物が出ると楽しい。
- ・遺物が出る地層から調査に参加した方がよい。

●どんな体験メニュー

- ・危険な体験は止めた方がよい。
- ・火おこし体験。
- ・縄文をイメージできるような体験。
- ・縄文の食を提供するのはどうか(例えばクルミなど)。
- ・食することやつくることなど、さまざまな体験。
- ・小さな子どもでも参加できるような体験メニュー。親子で参加できるような体験メニュー。
- ・もっとイベントをやれば人が来るのではないかな。

●その他の意見

- ・ロマンが大事！！
- ・もっと話し合いが必要だと思う。
- ・縄文を押しつけるのはどうかと思う。
- ・縄文にこだわる必要性はないと思う。
- ・発掘調査を高いレベルで実施してほしい。

●まとめ

- ・「来て」→「見て」→「どう思わせるか」が大事。
 - 楽しくなってもらうことが大切。
 - 例えば、「食」をテーマにするのがいいのではないかな。

(2) 平成26年度の意見交換会

Aグループの意見

●縄文の学びと体験の公園

○子どもの参加

- ・子どもたちが興味を持つ施設。 ・今と昔の違いを子どもと一緒に考える。
- ・電気やゲーム機など何もない生活を子どもたちと考える。
- ・小学校の総合学習の場を活用してはどうか（体験学習）。
- ・発掘を子どもたちに。 ・子どもの体験は無料にする。

○発掘体験

- ・年次計画をつくり、市民に発掘体験の機会を提供する。
- ・発掘体験を実施してほしい。実際の発掘調査が難しいなら疑似体験を実施する。
- ・やはり発掘調査は経験ですね！

○食文化体験

- ・さとらんどが職業体験交流施設であることを利用した、当時の作物の栽培体験。
- ・料理、食文化の体験。
- ・土器づくり体験や、作製した土器を利用した煮炊き体験の実施。

○その他

- ・縄文時代の生活体験！！
- ・素朴な生活を想像できる体験。

●展示施設

- ・縄文らしい建物。 ・タイムスリップした空間づくり。
- ・縄文遺跡の意味（他との違いをわかりやすく説明してほしい）。
- ・縄文文化の時期の北海道の地図を展示する。
- ・遺物が埋蔵されている様子がよくわかる展示施設の整備。
- ・伝え方や解説の方法に工夫を！ ・わかりやすく展示！
- ・博物館などの施設（埋蔵文化財から見た札幌）。モノを中心に。縄文にこだわらない。
- ・弥生、縄文晩期、丘陵縄文遺跡。
- ・大きな箱物は必要ないと思います。 ・入館無料にする。

●ボランティア

○場所づくり・組織化

→ 継続的な活動・PR方法が重要

- ・参加しやすく楽しめるボランティア。
- ・自費でも楽しめるボランティア。
- ・ボランティア活動の一般化。市民参加を広く告知する。
- ・産・官・学・ボランティア連携必要。
- ・リピーターを増やすことが大切。
- ・遺跡公園の維持管理の補助的業務をボランティアとして行いたい。
- ・地域への働きかけ。
- ・各種体験に参加しやすいよう交通手段を確保（例：直通バス）。
- ・広報・PRに関する活動。
- ・勉強会。
- ・「発掘から整理まで」。
- ・後世への保存活動にも参加したい。
- ・遺跡整備に関する活動。
- ・継続的な取り組み。

Bグループの意見

●体験学習

- ・食の体験料理（ヒエ、チョウザメの卵、鹿肉、サケ、タマネギ：札幌黄）。
- ・当時の食べ物の再現。
- ・当時の環境（衣食住）での越冬体験。
- ・様々な体験（発掘調査・生活）。実際に様子を見せる。 ・見る体験学習。
- ・ヒエの原種と原生種のヒエの進化が分かるような栽培。
- ・縄文と今の食文化の共通点を探り結論を出す。
- ・火おこし、土器づくり、植物を採集し、魚を釣り料理をする。 ・土器の複製。
- ・（発掘体験の際に）雨天時限定の体験で人を集める。 ・発掘の体験をしたい。
- ・単発ではなくストーリーのある体験。
- ・子ども向けと大人向けとを分ける。

●学び

- ・発掘現場をそのまま保存、展示、ふれあい。
- ・公園で表現するもの。
 - ①北海道の生い立ち（地形図・断層）
 - ②札幌の成り立ち（年表・地層）
 - ③丘珠縄文遺跡の成り立ち
 - ④丘珠縄文遺跡の発掘調査の過程
- ・最終的には、間近で現場を見る、ふれることができる。
- ・楽しい学習会。
- ・縄文人をなぞなぞで推理する。
- ・結果の展示ではなく、過程（推理）がおもしろい。
- ・生活していた人はどんな人か？
- ・狩りのための罠とシヤや堅穴住居跡がないことから、丘珠縄文遺跡を推理する。
- ・札幌周辺の他の遺跡との比較から丘珠縄文遺跡を推理するワークショップ。
- ・遺跡の連携。

●ボランティア

- ・ボランティアによるガイド。 ・遺跡のメンテナンスにかかわる（清掃・整理）。
- ・ガイドボランティアの養成とスキルアップ。 ・運営スタッフの一日体験。
- ・運営はボランティア中心で（大学とのコラボ、小中学生の参加）。
- ・地域住民の力を結集する。

●外部への情報発信

- ・発掘場所の年代別環境ムービーの作製。
- ・特徴的な立地の紹介（縄文時代は海岸、粘土質の地層）。
- ・遺物の詳細な調査結果の発信。 ・遺跡の小ネタのアナウンス。
- ・ショートドラマ（PV）の作製。 ・ウケ狙いのPVの作製。
- ・ネットやTVでとりあげられそうな「ゆるキャラ」の作製。
- ・学校教育との連動。
- ・市民（お客様）要望の把握（パブリックコメント、市民アンケート）。
- ・イベントを行う場合、ほかの遺跡と連動して行う（スタンプラリー、同時代体験ツアー）。

●移動手段

- ・さとらんどまでの交通手段の強化。
- ・さとらんどセンターから遺跡公園の施設までの無料園内車の運行。

Cグループの意見

● ボランティアの育成「育てる」

- ・ 新人の発掘調査ボランティアへの講習。
- ・ ライセンスを授ける。

● ボランティアの活動

- ・ 縄文時代の説明など。
- ・ 体験学習での講師。
- ・ 施設の維持・管理。利用者へのガイド。
- ・ 子どもたちと一緒に体験するガイドをしたい。
- ・ 公園ガイド。
- ・ 発掘調査があれば参加したい。
- ・ 発掘体験の下地づくり。
- ・ 整理作業にも携わる。
- ・ 継続的に発掘された遺物の復修に参加したい。
- ・ イベントの企画。
- ・ 主に障がい者に対する企画等での説明ガイド。

● ボランティアを継続するには・・・

- ・ 有償ボランティアにする。
- ・ 有償ボランティアは質の高さが求められる。本来はこちらから働きかけるのがボランティア。
- ・ ボランティアの交通費の負担が大きい。

● 広報活動

- ・ 公園（遺跡）のことを一般の人にチラシなどで知らせていく。
- ・ この遺跡の特徴を伝えていきたい。
- ・ もっと PR に力を入れる。
- ・ 調査の途中経過を広く周知する。
- ・ 興味のある人を集める。
- ・ 愛称（公園名）を公募する。
- ・ テーマに賛同して寄付を募る。

● 学習・体験・展示の企画

- ・ 東区の歴史在近世まで続ける企画をしてみたい。
- ・ 研究過程の紹介。
- ・ 出づくり村から本村を探すことはできないか。
- ・ 食文化を支える精神世界も探りたい。
- ・ 簡単な発掘の体験。
- ・ 深い体験。
- ・ 整理作業の体験。
- ・ 文化財を展示する場所が必要だと思う。
- ・ 専門のセンターを作るべき。
- ・ 4コマ位のたのしい映像で説明する。

Dグループの意見

●理想的な「ボランティア」サークル



●きっかけ作り

- ・さとらんどの埋蔵文化財とは？何をしているところか、わからない市民が多い。
- ・さとらんどの中に遺跡公園があるという立地の優位性を活かす。
- ・展示物の説明。
- ・小学生の団体には、大人数を相手に説明せず、少人数サークルで説明する。

●交通手段の充実化

- ・最寄りの地下鉄駅からのシャトルバスの運行（お迎え）。
- ・遠い地区の人のためのシャトルバスの運行（100円など）。

●ボランティア活動や体験学習の内容

- ・発掘体験のお手伝い。
- ・体験と一緒に参加して見守る。
- ・体験学習の企画。すでに体験した人の経験を活かす。
- ・ボランティアで体験した感動を味わえる参加型のメニューを考える。
- ・発掘された遺物の資料整理を有償ボランティアで行う。
- ・土器の洗いは楽しい。体験学習に取り入れたらどうか。
- ・夏休みイベント。遺跡の体験と天文観察やその他いろいろな学習・体験・イベント。

●人の「心」と「記憶」に残る施設づくり

- ・「行ってみたい」、「また来たい」と思ってもらう。 ・新しい公園にしないと。
- ・市民だけではなく、道外からも来てもらうことができるような、皆さんの「心に残る」ような施設を考えてほしい。
- ・発掘された遺跡から、後世につながる公園、よりよい施設を作ってほしい（発掘体験や発掘された土器等を整備）。
- ・当時の生活様式を再現するコーナーをいくつか作る。

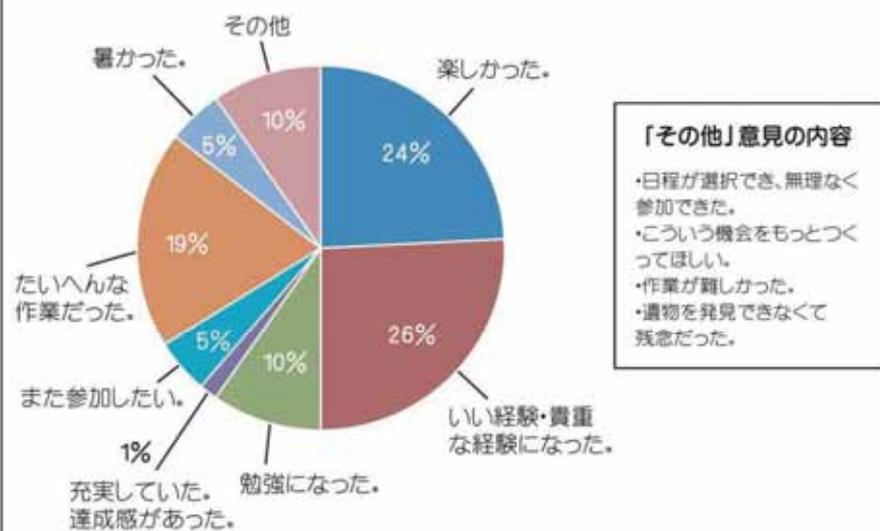
●宣伝方法の拡充

- ・公園名称の公募。
- ・ホームページ設置（インターネットを通して市民に広げる）。
- ・ホームページで発掘調査の状況を日々更新する。
- ・季節に合わせた発信を続ける。
- ・近くの町内会で、通り番でできるボランティアの役割を考えてみる。
- ・近くの中学・高校からボランティアを募集し、学校とのつながりを拡大していく。
- ・ボランティアが資料を整理（面倒だが大切！パソコンの技能が身に付くメリットもある）。
- ・広報活動（ホームページ、フェイスブックの活用）。

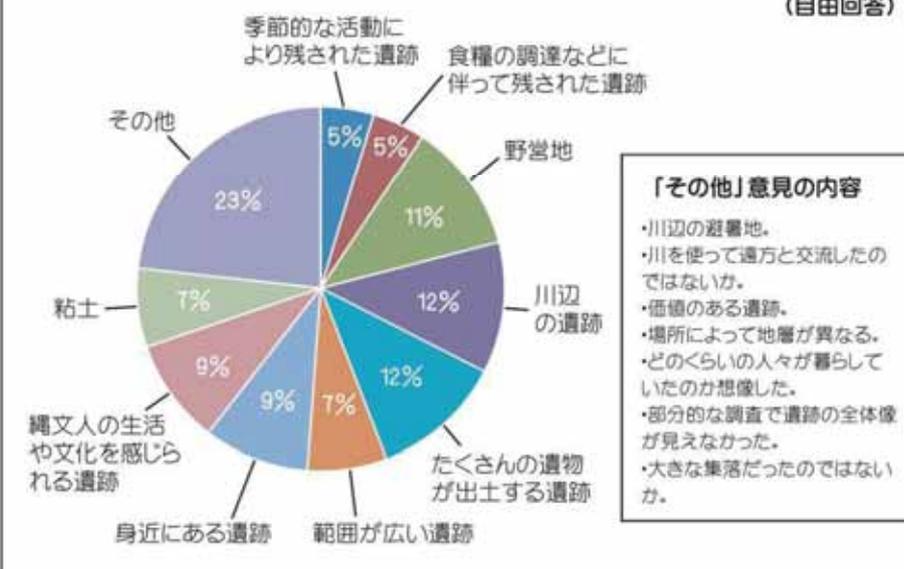
5 アンケートの結果

(1) 平成25年度発掘調査市民ボランティア

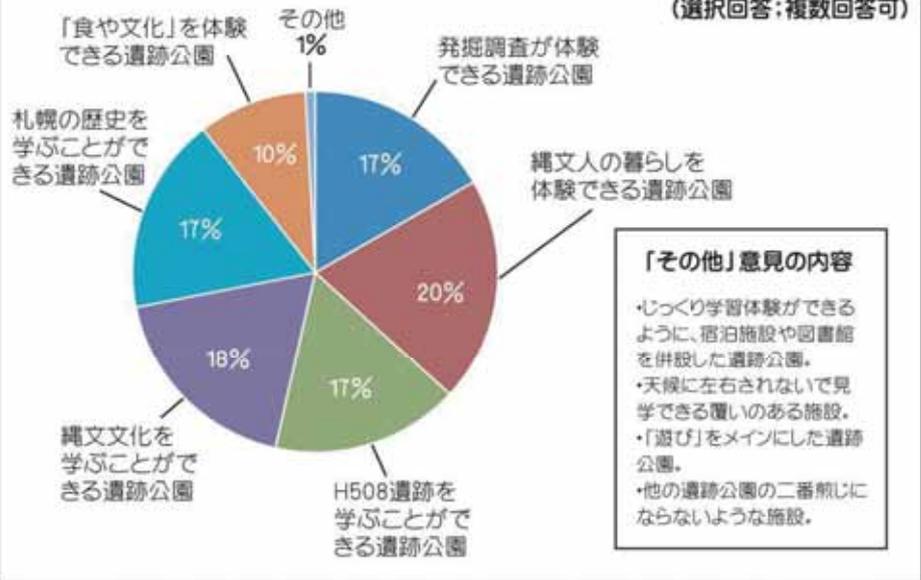
問1 発掘調査に参加された感想をお聞かせください。(自由回答)



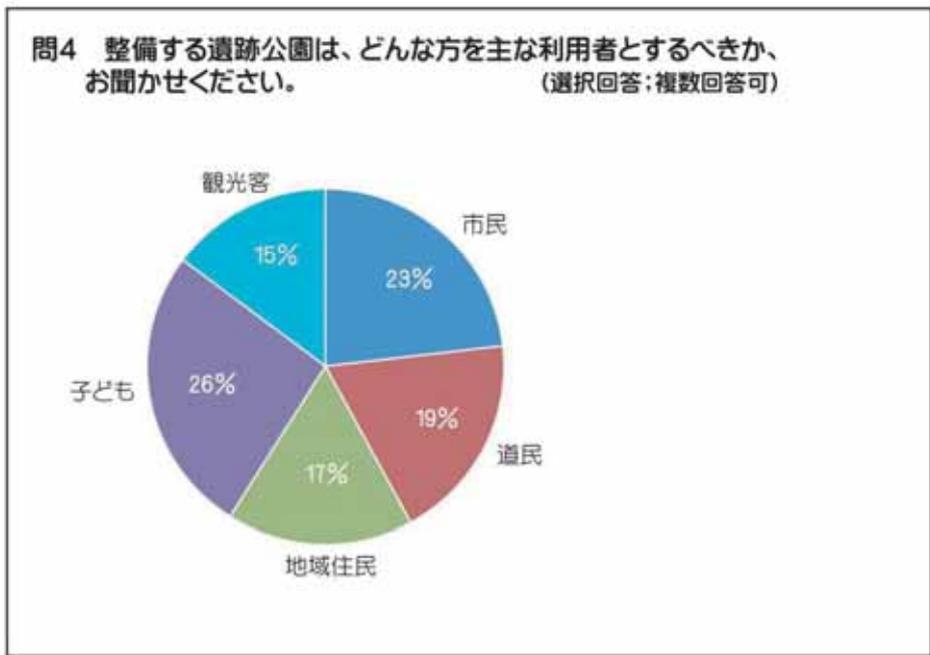
問2 発掘調査を体験して感じたH508遺跡のイメージをお聞かせください。(自由回答)



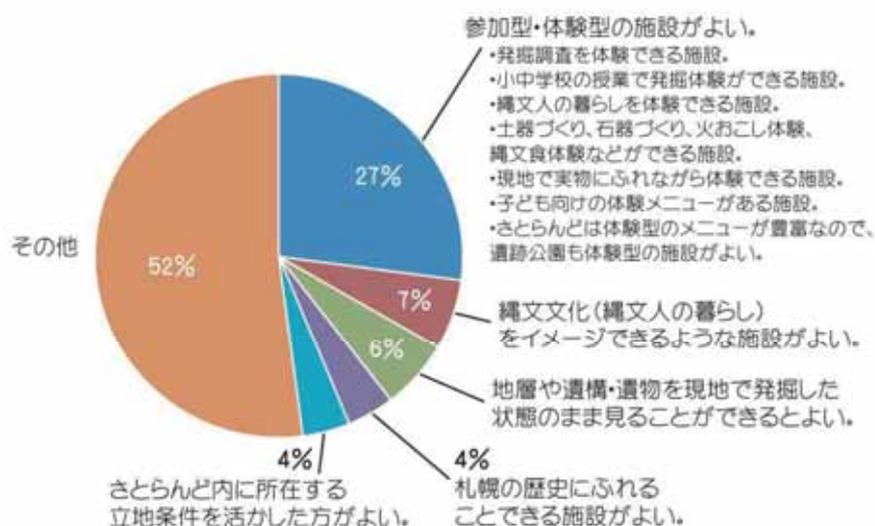
問3 H508遺跡を活用した遺跡公園に求めるイメージをお聞かせください。
(選択回答;複数回答可)



問4 整備する遺跡公園は、どんな方を主な利用者とするべきか、お聞かせください。
(選択回答;複数回答可)



問5 遺跡公園に対するご意見をお聞かせください。(自由回答)

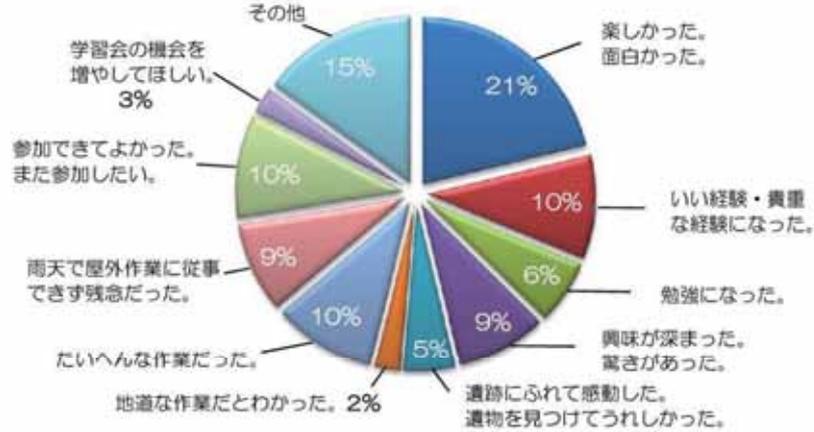


「その他」意見の内容

- ・市民が何度も繰り返し利用したくなるような施設にしてほしい。
- ・本州と北海道の違いを理解できるような施設がよい。
- ・博物館的な機能も有する施設がよい。
- ・実物とじかにふれあうことができるような施設がよい。
- ・「遊び」を通して、遺跡に興味を持ってもらえるような施設がよい。
- ・考古学的な研究方法も学べるような施設にしてほしい。
- ・子どもから大人まで満足できるような施設にしてほしい。
- ・将来的には、観光客や研究者も誘致できるような施設が望ましい。
- ・年間を通して、さまざまな活動をするような施設がよい。
- ・緑豊かな施設がよい。
- ・後世に伝えていける見応えのある施設にしてほしい。
- ・情報の中心地になるとよい。
- ・他の遺跡公園に埋没しないように、ここだけにしかない魅力が必要だと思う。
- ・展示には、動画も取り入れた方がよい。
- ・解説員が常駐することが望ましい。
- ・施設の運営や管理には、ボランティアを活用してほしい。
- ・子どもにも理解しやすい展示にしてほしい。
- ・H508遺跡以外にも、遺跡公園を検討してほしい。
- ・天体観測などもできるとよい。

(2) 平成26年度発掘調査市民ボランティア

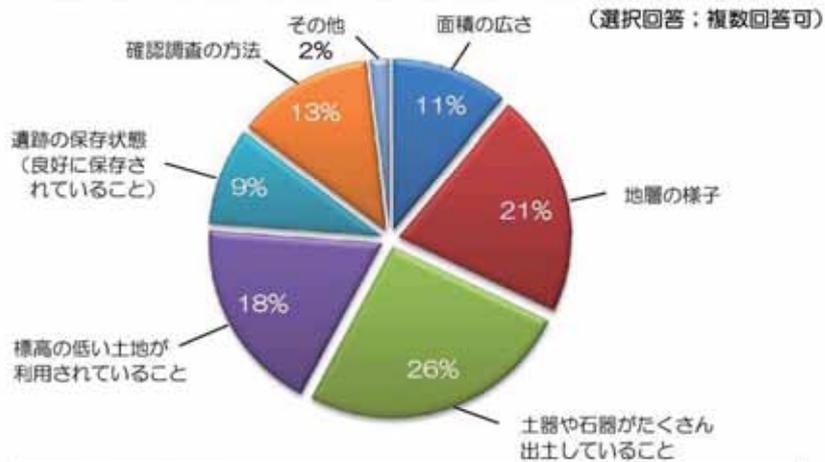
問1 発掘調査に参加された感想をお聞かせください。(自由回答)



「その他」意見の内容

- 暑い中での作業だったが、快適に作業することができた。
- 事前の準備がよく、意欲を持ってスムーズに参加することができた。
- 調査の進捗が丁寧に説明され、自分の作業の意味がわかりやすかった。
- 解説がわかりやすかった。
- 現地説明が開けてよかった。
- 今後どのような発見があるのか楽しみ。
- ベテランの方から道具の使い方を教えてもらった。
- 継続的な作業で緊張した。
- 自分が遺跡を壊してしまっていないか少し不安だった。
- 市内の遺跡ツアーなどにも参加したい。
- 埋蔵文化財センターの収蔵庫も見学してみたい。
- 雨天中止連絡をもう少し早くしてもらえると助かる。

問2 発掘調査を体験して感じた丘珠縄文遺跡の印象をお聞かせください。(選択回答：複数回答可)

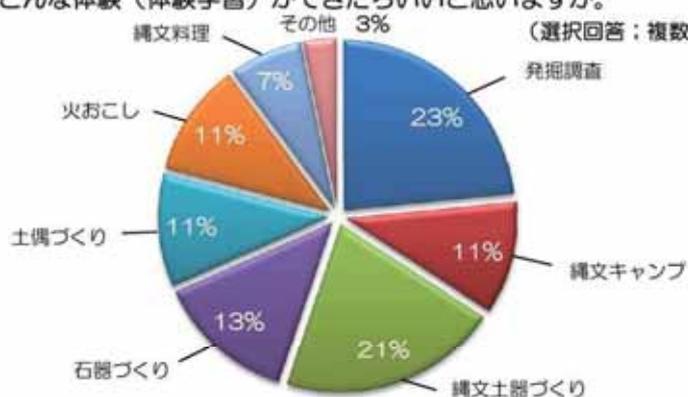


「その他」意見の内容

- 調査員に詳しく説明してもらい、自分の手で遺構・遺物を発掘することで、古代人の生活の様子がわかり、勉強になった。
- 粘土質の土地が生活の場だったことが印象的だった。

問3 「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」は体験型の施設を目指していますが、
どんな体験(体験学習)ができればいいと思いますか。

(選択回答：複数回答可)

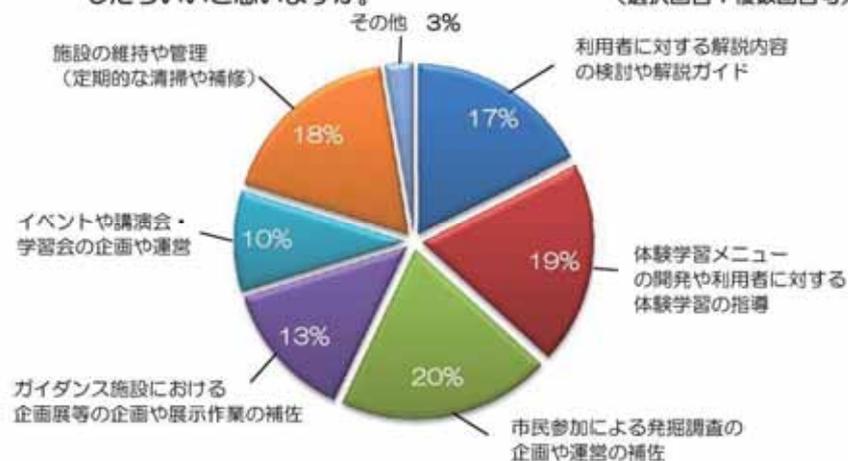


「その他」意見の内容

- ・地面を縄文時代と同じ高さに整備する。
- ・縄文人が眺めた景色を復元する。
- ・竪穴住居づくり体験。
- ・土器を使った現代風の料理作り体験。
- ・整理作業体験。
- ・埴玉づくり体験。

問4 「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」の活用・運営は、市民ボランティアとともに考えていく方針ですが、市民ボランティアはどんな活動をしてほしいと思いますか。

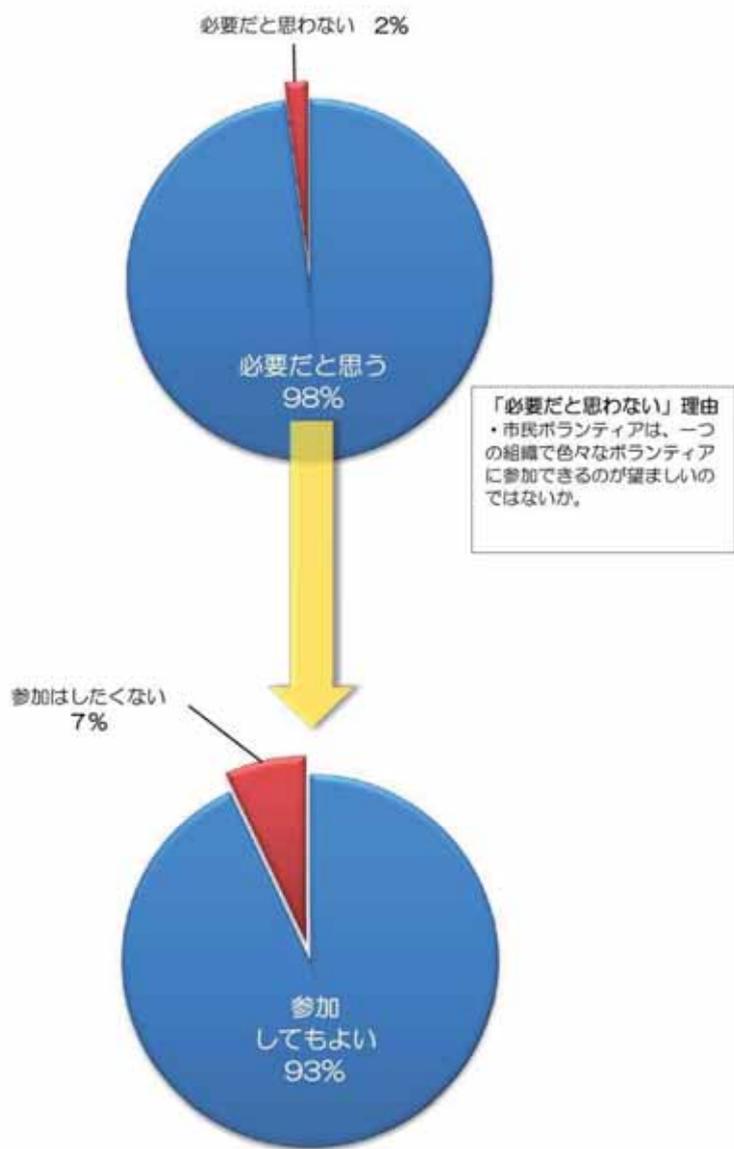
(選択回答：複数回答可)



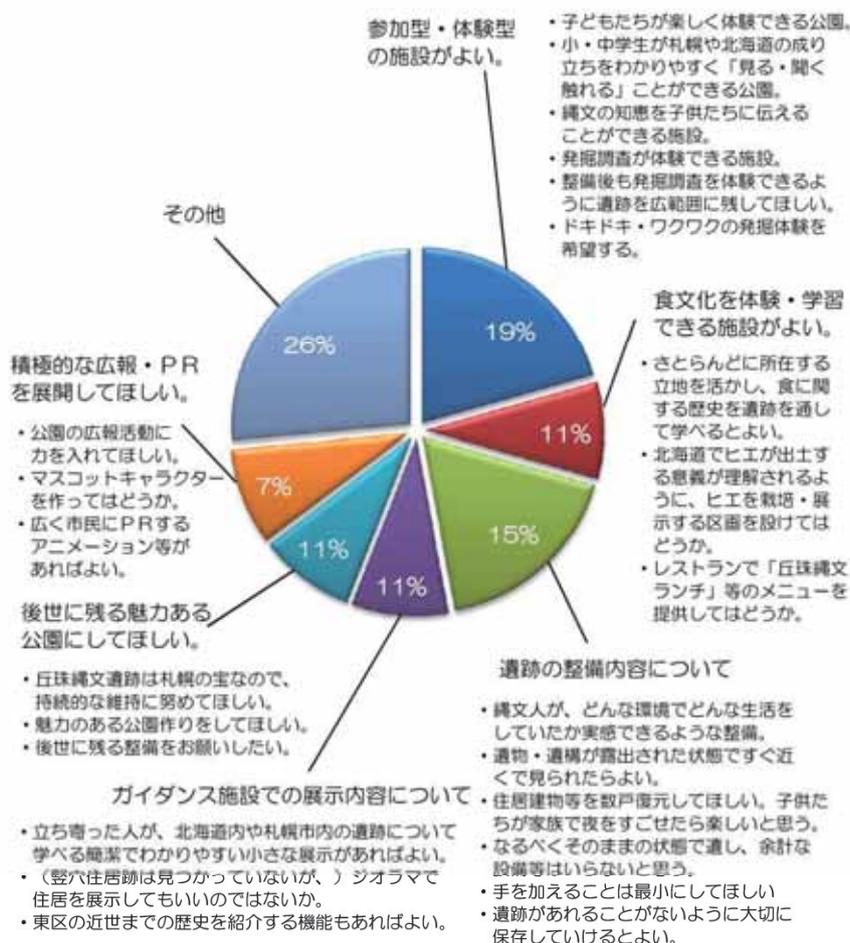
「その他」意見の内容

- ・ホームページの作成・運営。
- ・継続してかかわっていけることが大切。
- ・ボランティアでは利用者に対し専門的な説明が難しいのではないか。
- ・できれば有償ボランティアがよい。

問5 「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」の活用・運営に活躍する
市民ボランティアの団体は、必要だと思いますか。(選択回答)



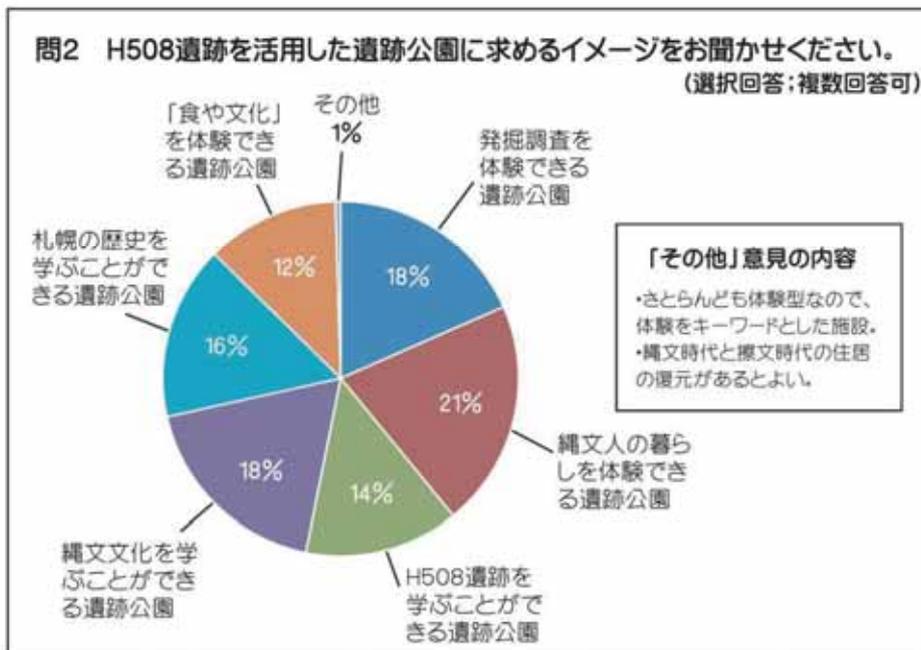
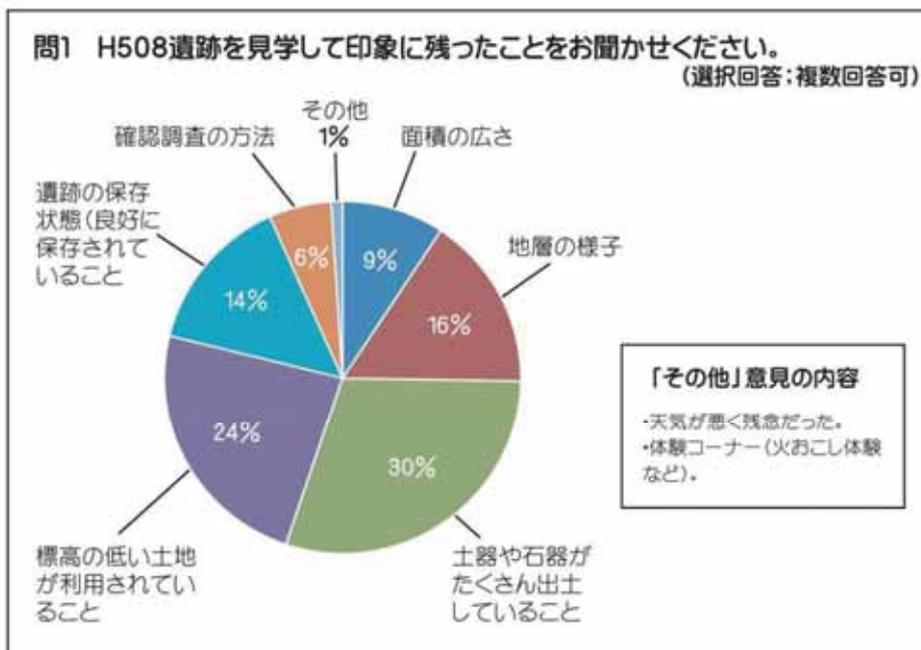
問6 遺跡公園に対するご意見をお聞かせください。(自由回答)



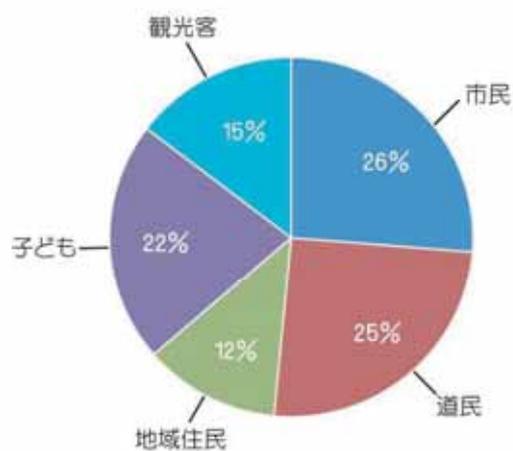
「その他」意見の内容

- 遺跡の特徴を色濃く出せるとよい。
- わかりやすい、おもしろい、ゆっくり楽しめる整備がよい。
- 2度3度と足を運んでもらうために、市の他部署と意見交換をしながら進めてほしい。
- 本当に必要なか、誰をターゲットにするのかなど、よく考えて進めてほしい。市税をかける事業なので、多くの市民に還元されるものであってほしい。
- 地域(住民)が主体となって関わる体制を整備してほしい。
- 車椅子の方もゆっくりのんびる見学できるような配慮と使いやすいトイレが必要だと思う。
- 市民による活用・運営は望ましいが、車がないと行くのが難しい点が少し気になる。
- ボランティアと市の職員との問答集を作成してはどうか。
- 調査で掘ったところをまた埋め戻してしまうのは少し惜しい気がする。

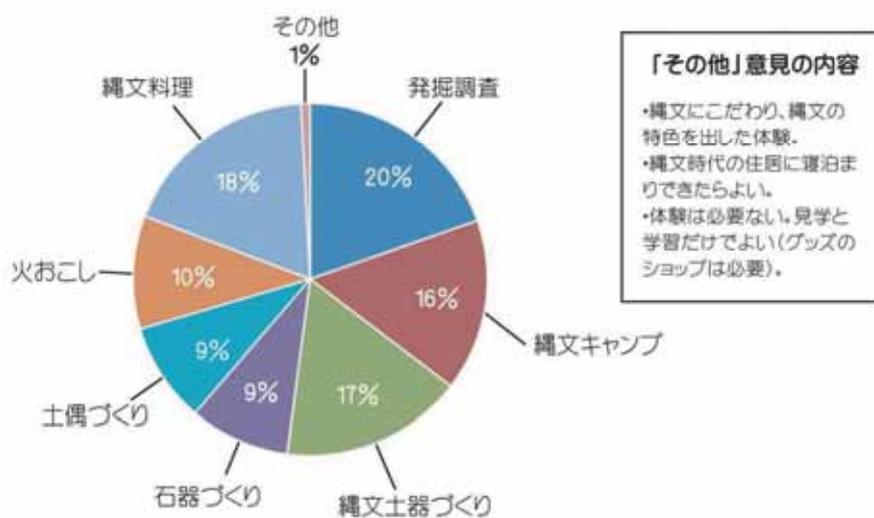
(3) 平成 25 年度遺跡見学会来場者



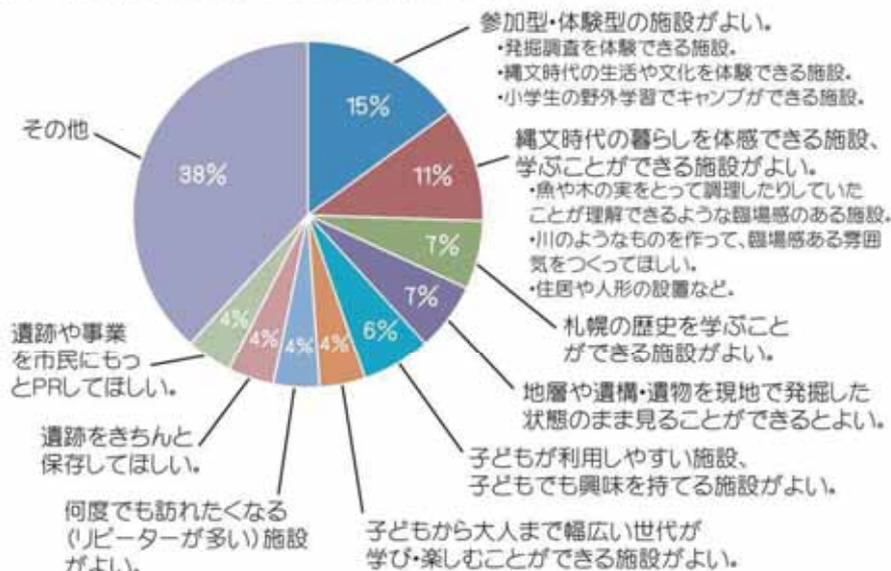
問3 整備する遺跡公園は、どんな方を主な利用者とするべきか、お聞かせください。
(選択回答;複数回答可)



問4 整備する遺跡公園で、どんな体験ができればいいと思いますか。
(選択回答;複数回答可)



問5 遺跡公園に対するご意見をお聞かせください。(自由回答)



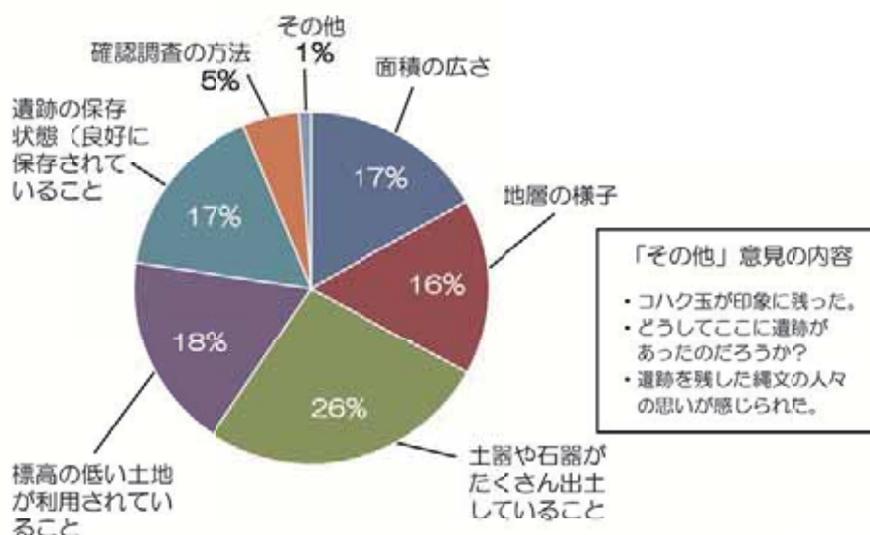
「その他」意見の内容

- ・遺跡公園の整備は、一般市民の古代に対する歴史認識が広がるのでよいことだと思う。
- ・貴重な遺跡なので、歴史の重み・深さを知ってもらえるような施設にしてほしい。
- ・札幌の有史以前の地史学的なことも学べるような施設にしてほしい。
- ・あまり手を加えず、元に近い状態で展示した方がよい。
- ・遺物のレプリカを作って、出土状態を復元し、その地面にふれられるような展示がよい。
- ・観光資源とする程の規模ではないので、市民・小中学生の教育、いこいの場にしてほしい。
- ・「遊び」を通して学ぶことができる施設にしてほしい。
- ・縄文にこだわった遺跡公園がよい。ポイントを絞らないと、他の公園と同じになってしまう。
- ・北海道独自の文化をアピールしてほしい。
- ・遺跡公園の整備を通じて、さとらんどの公園としての価値を高めてほしい。
- ・将来的に、モエシ沼公園と合わせ、海外からの観光客も楽しめるような施設にしてほしい。
- ・観光事業とタイアップして、遺跡公園をアピールすることが必要だと思う。
- ・他の遺跡公園に負けないような施設にしてほしい。
- ・屋外と屋内とで展示内容を分けて整理した方がよい。
- ・出土した遺物を常に展示する施設が必要だと思う。
- ・質問に常に答えられるような専門家が常駐していることが望ましい。
- ・周辺環境整備が必要だと思う。
- ・もっと広い範囲を発掘調査をしたところを見学したい。機会があればまた見学したい。

※問5については、自由に回答いただいた内容を整理し、同種の複数意見をまとめて集計・表示しています。単独意見については、「その他」の項目に一括して集計し、意見内容は個別に表示しています。

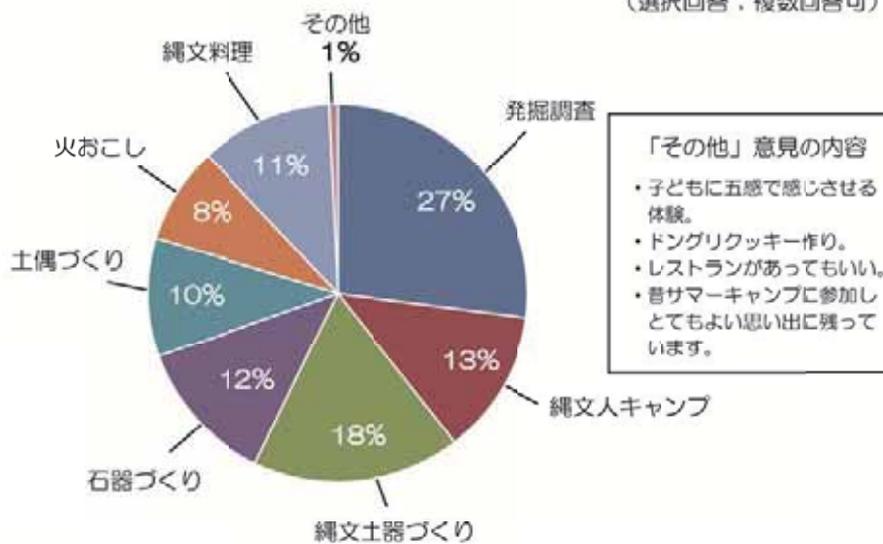
(4) 平成26年度遺跡見学会来場者

問1 丘珠縄文遺跡の印象をお聞かせください。(選択回答：複数回答可)

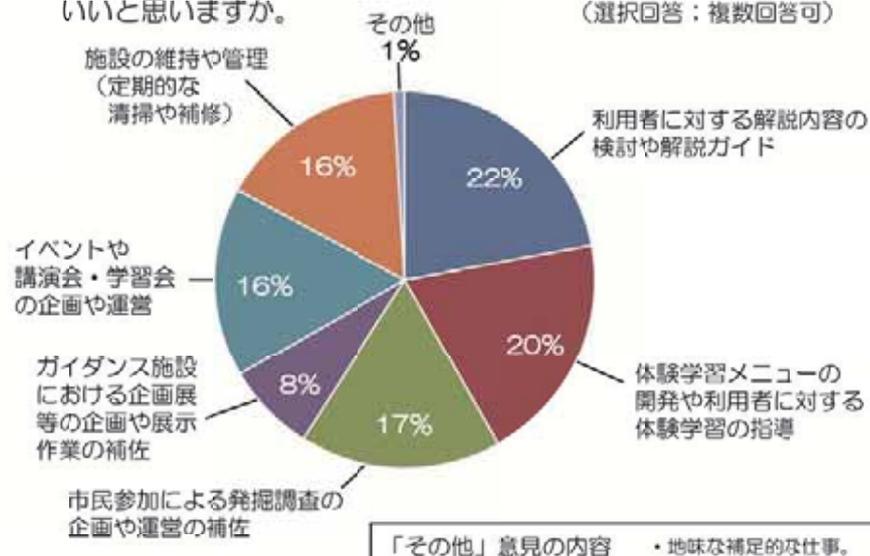


問2 どんな体験(体験学習)ができればいいと思いますか。

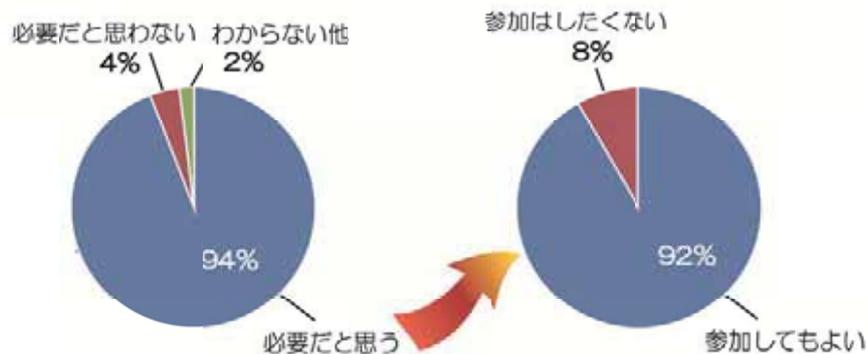
(選択回答：複数回答可)



問3 整備する遺跡公園で、市民ボランティアはどんな活動をしたらいいと思いますか。
(選択回答：複数回答可)



問4 遺跡公園の活用運営に活躍する市民ボランティアの団体は、必要だと思いますか。
(選択回答：複数回答可)



必要だと思わない理由

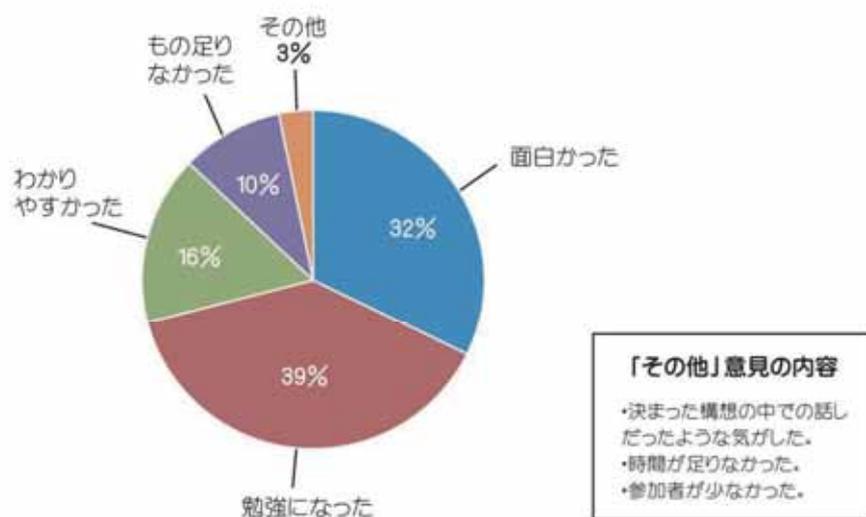
- ・専門家(プロ)の話しを聞きたいため。
- ・専門の方が活動した方がよい。

問5 遺跡公園に対するご意見をお聞かせください。(自由回答)

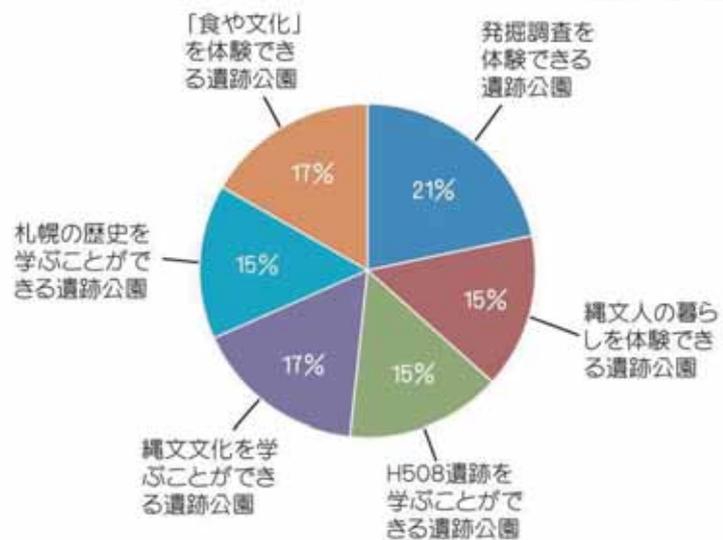
- たくさんの人に、札幌に遺跡があることが広まるような公園になればいい。
- たくさんの方が、自然に縄文文化を感じられる場になってほしい。
- 現在の自分たちと結びつけて、縄文に想いをはせる事は無駄ではないと思う。学術的なことはわからなくても、生命やくらしが受け継がれて来たんだと感じる機会を提供する施設は、あった方がよいと思う。
- 札幌の遺跡を見学したのは初めてで、遺跡公園の構想についても初めて知ったが、すばらしいことだと思う。小学生が、校外学習で見学できるといいと思う。
- このような見学会があることを今回初めて知ったが、参加できて本当によかった。パネル展も、とてもよかった。次回も機会があれば、友人にも教えて参加したい。遺跡の説明がとてもわかりやすかった。
- 子どもたちが、昔の時代に興味を持つような公園ができたらよいと思う。
- 大切に保存してほしい。遺跡を残してほしい。
- 発掘する公園がいいと思う。
- とても感動した。
- 調査員の説明がとてもよかった。遺跡公園の整備に大賛成。
- 説明が大変わかりやすくよかった。もっと大がかりに調査をしたらいいのではないか。
- すごく勉強になった。
- 現代の歴史に通じるストーリーがわかるような公園にしてほしい。
- 原位置主義を守り、自然性を保持した整備を行ってほしい。
- 縄文人の生活がわかればいいと思う。竪穴住居に入ってみよう。縄文文化を体験して、次の世代に伝えたい。市民がみんなで気軽に勉強できる場をつくってほしい。
- 初めてさとらんどに来て、たまたま参加したが、とてもラッキーなEだと思った。職員の説明もわかりやすく、色々な興味を持つことができた。この場所を多くの方々に知ってもらい、小学校などとうまく連携してほしいと思う。貴重な体験を家族でさせてもらい楽しかった。この場所を守ってほしい。
- 活動の主体となるNPO団体を作ることは必要だと思う。そういった団体の意見を取り入れて、公園を作ってほしい。その他に、小中学校の学習支援も必要だと思う。
- 体験型のストーリーのある公園にしてほしい。
- 参加型の施設にしてほしい。
- 歴史の勉強になるようなクイズをつくってはどうか。
- 自然を大切にしながら、公園づくりを進めてほしい。
- もっとPRするとよいのではないかと感じた。
- さとらんどまでの交通アクセスを考えてほしいと思う。
- 九州の吉野ヶ里遺跡や青森の三内丸山遺跡など構築物が主となるが、今のところ構築物が発見されていないようなので、何を目玉にするのか十分な検討が必要だと思う。
- 札幌の広さに比べて、ほとんどないのに驚いた。
- 必要ない。写真だけでよい。

(5) 平成25年度講演会来場者

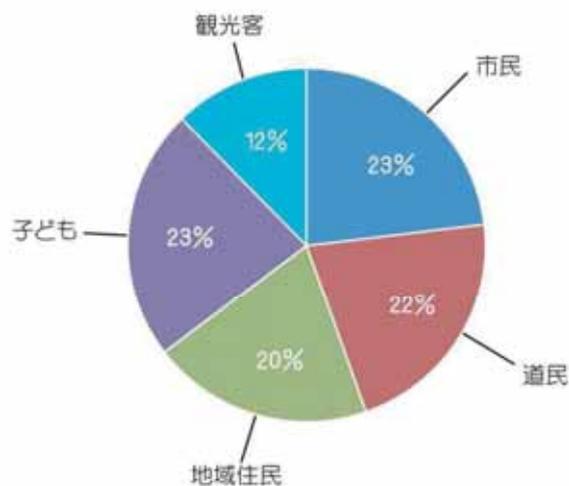
問1 講演会に参加した感想をお聞かせください。(選択回答:複数回答可)



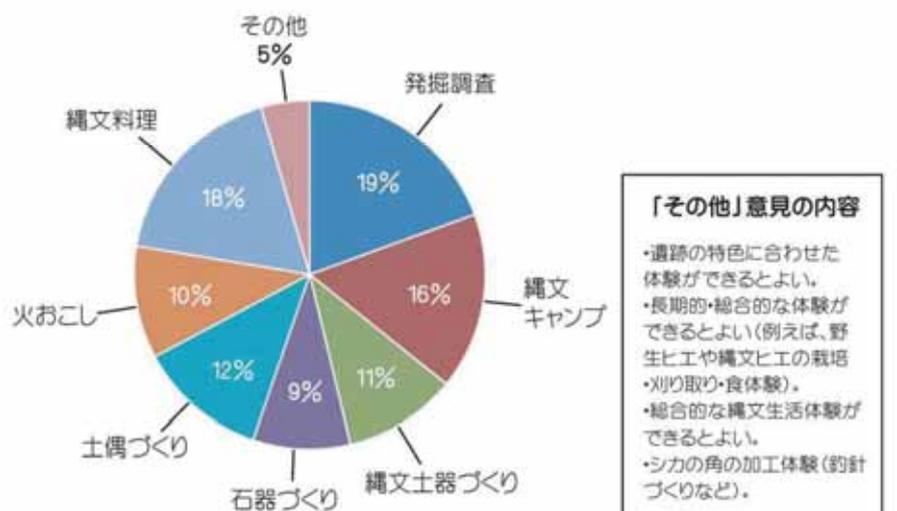
問2 H508遺跡を活用した遺跡公園に求めるイメージをお聞かせください。(選択回答:複数回答可)



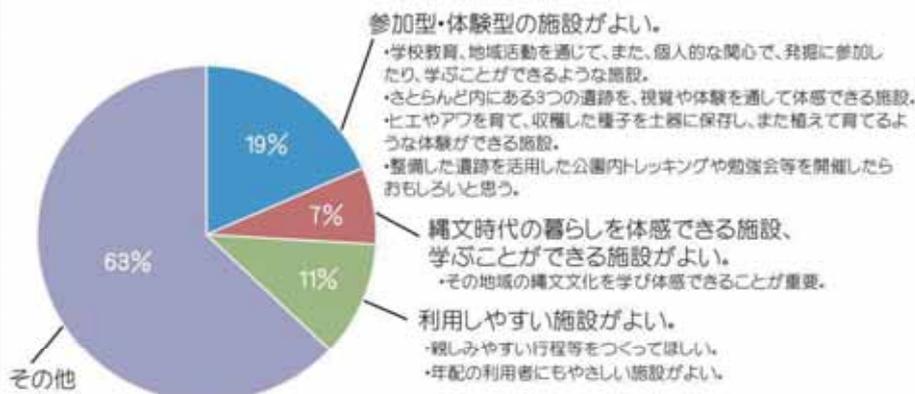
問3 整備する遺跡公園は、どんな方を主な利用者とするべきか、
お聞かせください。(選択回答;複数回答可)



問4 整備する遺跡公園で、どんな体験ができればいいと思いますか。
(選択回答;複数回答可)



問5 遺跡公園に対するご意見をお聞かせください。(自由回答)



「その他」意見の内容

- ・行政と市民との協力のもと、みんなで少しずつ完成させていければ良いと思う。
- ・施設運営に地域住民が継続的に参加できる環境を整備し、地域に根ざした施設にしてほしい。
- ・リピーターが多くなるような工夫が必要だと思う。
- ・H508遺跡の特徴を活かした整備してほしい。
- ・遺跡を保存しつつ、遺構や遺物が出土したままの状態で見学できるように、屋根付きの施設が整備できれば良いと思う。
- ・子どもたちが縄文文化を知るきっかけになるような施設してほしい。
- ・学校教育と連携し、先生が主体的に遺跡の活用に関わることができる体制が大切だと思う。
- ・復元した古環境(河川や森林など)を子どもの遊び場として活用できたらおもしろいと思う。
- ・長い年月が経過しても遺跡を保存できるような整備してほしい。
- ・仙台市の「縄文の森広場」のような施設が、札幌市にもできたら良いと思う。
- ・伊達市の北黄金貝塚や名古屋市の見晴台遺跡の活用例が参考になると感じた。
- ・モエシ沼公園が隣接しているので、さとらんどとモエシ沼公園との直通バスがあるといいと思う(土日には1時間に2~3本運行)。
- ・遺跡公園の存在を広く知ってもらうことが大切だと思う。
- ・「さとらんど」と「遺跡公園」を相対化する中で、「農耕」＝「進歩」、「狩猟」＝「未開」というような固定化されたイメージを超えた整備を期待する。
- ・会場の声をよく聴いてほしい。
- ・「見せかけ」の市民参加にはしないほしい。

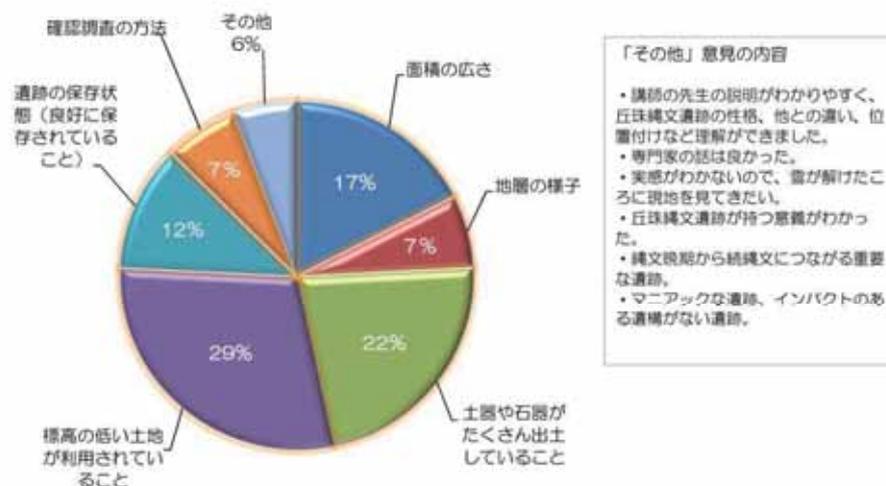
※問5については、自由に回答いただいた内容を整理し、同種の複数意見をまとめて集計・表示しています。単独意見については、「その他」の項目に一括して集計し、意見内容は個別に表示しています。

会場からの発言

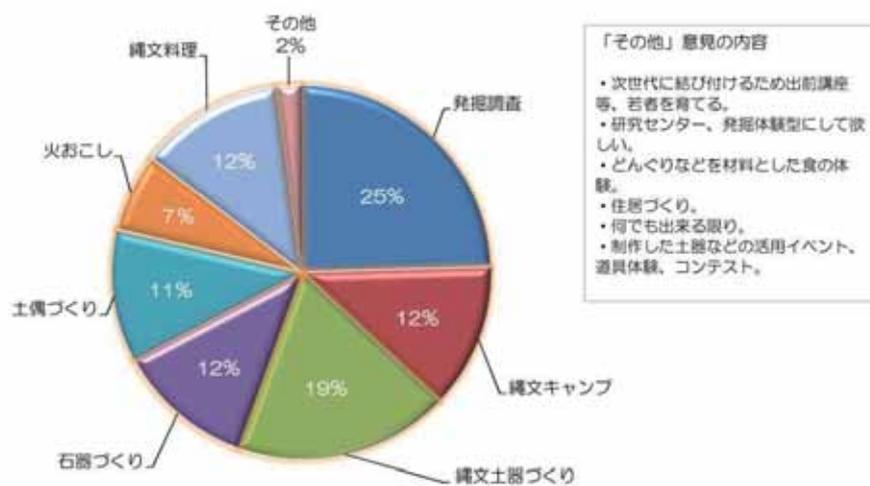
- ・札幌市に博物館がないのはおかしい。
- ・子どもたちが身近な遺跡を知ることができるような施設が必要だと思う。
- ・参加者の人数が少ない。市民の声に耳を傾け、時間をかけて事業を浸透させるべきだと思う。
- ・仙台市の施設のように楽しいものができたら良いと感じた。
- ・サケの解体や調理体験などができたら良いと思う。

(6) 平成26年度公開シンポジウム来場者

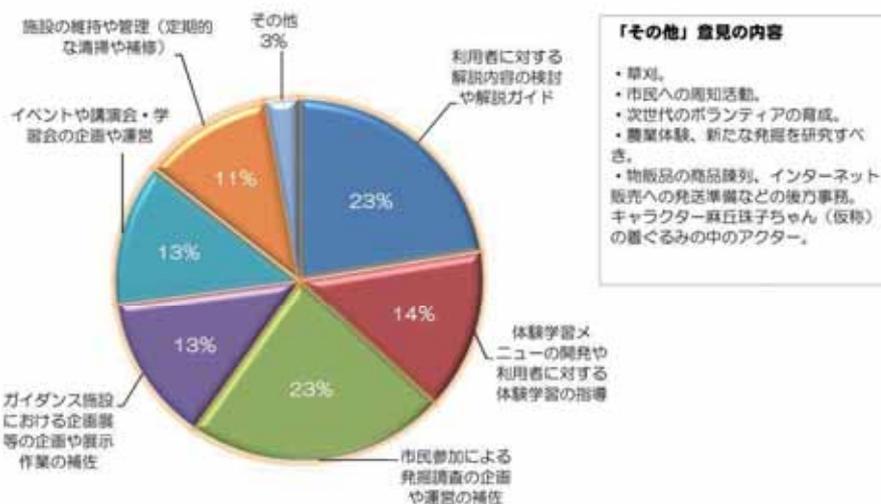
問1 丘珠縄文遺跡の印象をお聞かせください。(選択回答；複数回答可)



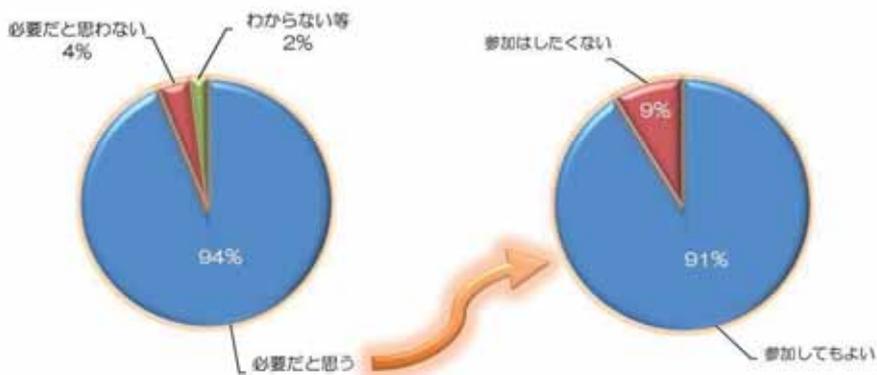
問2 どんな体験(体験学習)ができれば良いと思いますか。(選択回答；複数回答可)



問3 整備する遺跡公園で、市民ボランティアはどんな活動をしたら良いと思いますか。
(選択回答；複数回答可)



問4 遺跡公園の活用運営に活躍する市民ボランティアの団体は、必要だと思いますか。
(選択回答；複数回答可)



必要だと思わない理由

- ・専門家（プロ）の話しを聞きたいため。
- ・特定の人たちだけが、排他的に活動してしまいそうだから。
- ・資金を支払って専門の方がなさる方がよい。

問5 遺跡公園に対するご意見をお聞かせください。（自由回答）

- 札幌のシンボルとなるような公園づくりを。
- 子供から大人まで活用できる公園にしてほしい。
- 市民が親しみを深められるような、解りやすく体感できる遺跡公園にして欲しい。
- 生きてる公園づくりを期待してます。
- 将来あるべき姿を明確にして市民の賛同を得ることが必要です。もっと意見を求めてより良い公園を作って欲しい。
- 長期的なスパンで調査研究していくために、遺物の収蔵・展示に十分な施設が要ると思う。
- 何度もリピートして訪れてもらうため、遺跡だけではなく、近隣に集客力のある施設を複合的に建設してほしい。
- 札幌市縄文早期から続縄文までの移りかわりをわかり易く展示して欲しい。また、居住地が次第に低地まで移ってきたこと、生活様式の移り変わり、地形、地層の移り変わり、道内の他遺跡との共通点・相違点など、丘珠縄文遺跡の意義が明確にわかる展示にして欲しい。
- 出土品の保存・管理が重要なので、市内各所の出土品等の集約的な施設とし、教育・観光面を取り入れた施設を望みます。
- 何回行っても楽しめる（変化のある）資料館のようなものがあって欲しいです。
- オリンピックもあり、お金をかけない施設、運営を期待する。
- 是川縄文館のような博物館になれば良いと思っています。知識をおしつけるのではなく、何度も足を運びたくなる公園施設になる事を希望します。ハード的な建物を作らないのも良いのですが、出土資料を現地で整理、展示できる事を希望します。
- 長期的に継続してゆけるよう、専門職の方を中心に遺跡を大切にしていきたい。屋根をつけて保存するなど、そのままの状態を残して欲しい。
- ボランティアの導入は、遺跡に興味・関心を寄せる人々を集めたり、コストを低くおさえた運営にはなると思うが、ボランティアに対する教育を適正に行わないと、正しく知識が伝わらず、遺跡そのものの質の低下を招くのではと懸念する。今日の講演から、遺物が多く情報をたくさん得られると、正しく時代を振り返れると感じた。これからも大切に掘り続けていけたらよいと思う。
- 発掘調査等があれば大変うれしい。何年もかけて継続的に発掘をするのは新しいイメージ。
- 見に行くのではなく、作業に行く公園は興味深いかもかもしれないと思った。
- 丘珠縄文遺跡には是川遺跡のように、ビジュアルで勝負できるものはありません、しかし、だからこそこの公園整備に関する議論は意味があると思います。今後、長く市民が遺跡公園に関っていくというお話でしたが、考古学の新しい知見・発見を、この遺跡公園を通じて市民が知ることのできる仕組みもあるとよいと思う。
- ボランティア活動を多様化して、ボランティア活動の参加者を増やして欲しい。
- ボランティアに大きな負担をかけない計画にして欲しい。
- 発掘が継続されるのであれば、是非ボランティアとして参加したい。狭い範囲を体験発掘して、それを埋め戻しせずに継ぎあわせるという考え方は感激した。
- はらっぱを活かして、整えすぎない縄文大地のエネルギーが感じられる場所にしてほしい。魅力的でかわいいグッズや書籍などを置くと同時に、その情報を発信することが大事だと思います。
- 周囲とマッチした空間デザインにして欲しい。
- 直通バスがあれば便利。
- 未来を展望するとき、遺跡は必ず大きなヒントになるものと考えてる。
- さとらんどという場で縄文時代の学習ができれば、古代人を感じることができると思う。
- モエレ沼公園、サッポロさとらんととの連携（共同展示、共同イベントの実施）が必要。
- 是川に八戸市埋蔵文化財センターがあるように、丘珠縄文遺跡公園に札幌市の埋蔵文化財センターを移動して独立した建物を作って欲しい。

6 パブリックコメント手続

平成27年2月27日（金）に「（仮称）丘珠縄文遺跡公園」整備基本計画（案）を公表し、平成27年3月29日（日）までの31日間、市民の皆様からのご意見を募集しました。

（1）実施概要

■ 意見募集期間

平成27年2月27日（金）～平成27年3月29日（日）（31日間）

■ 意見提出方法

持参、郵送、FAX、Eメール

■ 資料の配付場所

札幌市埋蔵文化財センター、札幌市役所2階市政刊行物コーナー、札幌市役所4階文化財課、各区役所総務企画課広聴係、サッポロさとらんど、札幌市ホームページ ほか

（2）パブリックコメントの内訳

■ 意見提出者数

28名（個人27名：内子ども5名、匿名1名）

■ 意見数

59件

（3）意見の概要と札幌市の考え方

類似した意見をまとめさせていただいた上で、本市の考え方を示しています。

第5章 基本方針				
No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
1	第5章-1	整備の意義	「縄文文化の魅力」とは具体的に何でしょうか。	<p>丘珠縄文遺跡は、札幌の低地部を利用した狩猟・漁撈・採集等の季節的な生業活動が繰り返されることによって形成された遺跡と考えられ、縄文晩期から続縄文文化、擦文文化へと展開する札幌低地における生業形態の原形を示し、縄文文化から続く札幌の歴史を示す象徴的な遺跡のひとつと評価されます。このように、台地や丘陵地などの標高の高い土地から標高の低い低地部へと豊かな自然環境に適応していったことを示す丘珠縄文遺跡そのものが、札幌の縄文文化の魅力を表しているものと考えています。</p> <p>ご意見を参考に、今後も、丘珠縄文遺跡の魅力を、わかりやすく発信していくことに努めていきます。</p>
2	第5章-1	整備の意義	低地部に立地する縄文遺跡として、高地部と比較すると何の意義があるのでしょうか。	
3	第5章-1	整備の意義	H508遺跡がすばらしい、と当事者としては当然そう思い進めていると思いますが、全く地理的にも不案内の、例えば「道外関心者」をも意識した、すばらしさを理解させる記述の工夫が必要と思いました。	

第6章 整備計画				
No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
4	第6章-1-(1)	ゾーニング全体計画	みどり豊かな札幌市農業体験交流施設(サッポロさとらんど)内にあるのだから、わざわざバッファゾーンなどを設ける必要はない。	サッポロさとらんど内にある施設として、全体の景観との調和をはかるとともに、遺跡を保護するために、緩衝帯として「バッファゾーン」は必要と考えています。
5	第6章-1-(2)	整備の考え方	自然が豊かな方がいい。縄文時代の風景というか、その時代を実際に体験できるような公園がいい。	「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」は、今後の市民の手による調査・研究・検討の積み重ねが、将来的に「札幌の縄文」や「縄文文化のたたずまい」を感じられる空間の創出につながっていく、「市民が育てる成長する遺跡公園」を目指しています。
6	第6章-1-(2)	整備の考え方	遺跡は有限なので、発掘調査体験が不可となった後の対策が必要。遺構平面や遺構の立体剥ぎ取り転写法に基づく施設内への復元等。	遺跡復元展示施設の設置や丘珠縄文遺跡が形成された縄文晩期の地形や植生の復元については、今後の市民との協働による継続的な調査・研究の成果に基づき、長期的な視野に立ち検討を進めていく方針です。
7	第6章-1-(2)	整備の考え方	高齢化・少子化に伴い、将来的に財政が窮迫することが予想される。市民ボランティアの積極的参加、施設的にも既設の活用を積極的に行う。	市民ボランティアに積極的に活動に参加いただくとともに、サッポロさとらんど既存施設の有効活用についても検討していく方針です。
8	第6章-4	体験活動	いろいろ学びながら楽しめる公園にしてほしい。	「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」では、子どもから大人まで楽しみながら参加できる「食文化」をはじめとした縄文体験活動を展開する方針です。 ご意見を参考に、年齢や人数、知識や経験の程度など、利用者の多様なニーズに対応できるように、体験活動の内容を検討していきます。
9	第6章-4	体験活動	丘珠縄文遺跡公園が、子ども達が北海道の歴史を身近に感じ、楽しく学べる施設になるといいなと思います。	
10	第6章-4	体験活動	体験学習を入口に、小さな子供も歴史に興味を持つきっかけとなる様な施設になれば良いと思います。小さな子どもも親子で参加できるプログラムがあれば良いなと思いました。	
11	第6章-4	体験活動	縄文時代にも四季があったはずですので、「体験活動」での住生活体験上必要と思われる、縄文時代の模擬住居棟を設け、季節に応じた生活体験ができるようご配慮願えればと思います。	
12	第6章-4	体験活動	ヒエ属の種子が発見されているが、栽培して食卓にあげてほしい。味付けは素朴で良い。	
13	第6章-4	体験活動	実際に狩猟したものを、縄文風に料理して食べるような体験ができるといいと思う。	
14	第6章-4	体験活動	自分で木の実を採集し、狩りをして過ごすような、縄文生活を体験できるといいと思う。	
15	第6章-4	体験活動	竪穴住居や土器のミニチュアを作る体験ができるといいと思う。	
16	第6章-4	体験活動	竪穴住居のしくみを知るために模型作りを体験できるといいと思う。	
17	第6章-4	体験活動	実際の大きさと同じくらいの竪穴住居の中に入る体験ができるといいと思う。	
18	第6章-4	体験活動	縄文時代の服を着用する体験ができるといいと思う。	
19	第6章-4	体験活動	体験活動の「食文化の体験」をもう少し詳しく説明してほしい。	

No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
20	第6章-4	体験活動	宿泊を伴う体験については、宿泊施設を建設するのではなく、費用や管理の面で実現可能な方法を検討していただきたい。例えば、キャンプ場の設置や堅穴式住居作り体験・宿泊。40ページにある活動例は良いと思うが、今一つ魅力に欠けると思う。	宿泊施設を整備する予定はありませんが、宿泊を伴う体験活動については、参加者の安全面や施設の管理面等の諸条件の整理を進めるとともに、市内の他団体との連携の可能性についても検討していきます。
21	第6章-4、8-(4)	体験活動、情報計画	体験学習機能では、模擬発掘のデジタルでの体験を考えてみてはどうでしょうか(公立はこだて未来大学で、研究中と聞いています)。	体験活動では、年齢や人数、知識や経験の程度など、利用者の多様なニーズに対応できるように、階層的なメニューづくりを進めていく方針です。 ご意見を参考に、今後、IT技術を活用した効果的な手法について検討していきます。
22	第6章-4、8-(1)	体験活動、展示計画	縄文時代の家、服、食べ物を展示し、家の中に入ることができ、服は着用することができ、食べ物も食べられるようにしてほしい。	丘珠縄文遺跡と市内の他の縄文遺跡のこれまでの発掘調査の成果を活用した縄文体験活動や展示等とおして、縄文の食文化やくらしをわかりやすく発信していく方針です。 ご意見を参考に、今後、体験活動メニューやガイド施設の展示内容の詳細について検討していきます。
23	第6章-5-(1)～(4)	ガイド施設	札幌に遺跡があることを知り、丘珠の縄文遺跡公園で、実際に発掘調査を体験できること、そこで発掘された土器や石器がどんなふうに使われていたのか、どんなものを食べていたのかを知ることができるガイド施設があれば、先人の暮らしが学習できるのではないかと大変楽しみにしています。	
24	第6章-5-(1)～(4)	ガイド施設	遺跡公園のイメージがよく湧かないのですが、万人が楽しめる所であれば、表現は悪いのですが、遊園地化するのはないかと危惧しています。個人的には、研究者とか興味のある方が、レポートで何回も来られる公園にして欲しいと思います。	
25	第6章-5-(1)～(4)、8-(1)	ガイド施設、展示計画	ガイド施設の展示内容については、あまり子供向けにならないようお願いしたい。大人が見ても十分に満足できる内容にしていただきたい。小学校高学年の児童に理解が難しいと思われるところは、音声ガイドやパンフレット、ボランティアガイドの説明で補うのが望ましい。また、一緒に来た幼児のためのコーナーがあると良い。	子どもから大人まで幅広い世代や立場の方々が利用しやすい遺跡公園を目指しています。 市民ボランティアが発掘調査と整理作業・研究活動を継続し、また、遺跡公園を訪れた方が、丘珠縄文遺跡の発掘調査の成果を見学し、縄文のくらしを学び・体験できるガイド施設を、遺跡を臨む空間に整備する方針です。 ご意見を参考に、今後も、幅広い世代や立場の方々が利用しやすい施設となるように検討を進めていきます。
26	第6章-5-(1)～(4)	ガイド施設	誰もが先人達の遺してくれた遺物と出合える事ができるのであれば、とても嬉しく喜ばしい限りです。さくらんどにそのような施設ができます事を期待しています。	
27	第6章-5-(1)～(4)	ガイド施設	どうか、古代のロマンを現代及び未来永劫に継承しうる立派な施設となるよう期待しています。	
28	第6章-5-(1)～(4)	ガイド施設	皆様が気軽に入場して楽しんで体験できる建物にしてください。	

No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
29	第6章-5-(4)	ガイド ランス施 設	施設の規模は小さくても、セキュリティはしっかりして頂きたいと思います。	ご意見を参考に、今後、貴重な文化財を取り扱う施設として、防火・防犯等の安全対策について、具体的に検討していきます。
30	第6章-8-(1)	展示 計画	札幌市が関係する遺跡は他にもあるが、展示物については、丘珠縄文遺跡の発掘物等をメインとする。その他の市内遺跡からの発掘物等は、定期的にする程度にとどめてほしい(⇒北海道埋蔵文化財センターとの差別化)。	丘珠縄文遺跡の特徴や価値を発信するとともに、これまで蓄積してきた発掘調査の成果を活用して、市内の他の縄文遺跡についてガイドランス展示を行う方針です。 ご意見を参考に、今後、展示の詳細について検討していきます。
31	第6章-8-(1)	展示 計画	H317 遺跡からは竪穴住居跡が12軒も出ている。H508 遺跡はこれより古いので住居跡などはないのでしょうか。住居跡のインパクトが強いので、ガイドランス施設でH508 遺跡にこだわらず紹介してもらいたい。	
32	第6章-8-(1)	展示 計画	実際に土から出てくる様子をビデオで見られるのも楽しいと思う。	ご意見を参考に、今後、グラフィック機器などの効果的な導入について検討していきます。
33	第6章-8-(3)	活用 計画	研究機能では丘珠縄文遺跡を中心に周辺2km以内に3つの公立高校があります(丘珠高校、東豊高校、東陵高校)。各校に、郷土研究のサークル活動について、ボランティア活動を含めて考えて頂いてはどうでしょうか。	本計画では、市内外の小中学生の校外学習や高校生・大学生の学習等に利用できる遺跡公園を目指しています。 ご意見を参考に、今後、高校生が縄文文化を学びながら遺跡公園に関わることができるような活動について検討していきます。
34	第6章-8-(4)	情報 計画	適時・適切な広報活動の重要性についても付言しておきます。	多くの市民や観光客などに利用していただくためには、効果的な広報が必要であると認識しています。 ご意見を参考に、今後、広報活動の内容について検討していきます。
35	第6章-8-(5)	学びの ネット ワーク 計画	丘珠以外の遺跡も研修として見学に行く機会があれば、有料でも、ぜひ参加したいと思います。	ご意見を参考に、埋蔵文化財センターと連携し、札幌の遺跡を学ぶことができる学習メニューの提供を検討していきます。
36	第6章-9-(1)～(3)	管理・ 運営 計画	札幌市農業体験交流施設(サッポロさとらんど)は、地方自治法(昭和22年法律第67号)及び札幌市公の施設に係る指定管理者の指定手続に関する条例(平成15年条例第33号)に基づき、指定管理者を公募し、指定管理者により運営されているが、遺跡公園も包括して同一の指定管理者により運営せざるを得ない立地状況である。 55ページからの管理・運営計画において、運営管理のあり方について検討していくとあるが、現時点で決めるべき事柄である。指定管理者の指定手続と費用の分担が困難であることが予想されるが、計画段階で曖昧にするのは望ましくない。	ご意見を踏まえ、市民サービスの向上、遺跡公園としての継続性や専門性など、多角的な観点から、指定管理者の導入について総合的に検討していくとともに、サッポロさとらんどとの一体的な管理運営についても検討していきます。

No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
37	第6章-9-(1)～(3)	管理・運営計画	管理・運営計画については、市民ボランティア支援を計画していますが、地域との連携が第一と思います。この地域は丘珠、北丘珠、東苗穂、東雁来などの町内会があります。各町内会への声掛けも良いのではと思います。さっぽろ雪まつりつどーむ会場でボランティアを実行している『竹スキーを楽しもう会』などに協力をお願いするのも一つでは。	<p>「市民が育てる成長する遺跡公園」として、市民ボランティアや地域の方々に、遺跡公園の運営に携わっていただくことが大切だと考えています。</p> <p>ご意見を参考に、今後も、市民ボランティアや地域の方々との様々な連携手法について検討していきます。</p>
38	第6章-9-(1)～(3)	管理・運営計画	ボランティアとしてかかわれる場がたくさんありそうなので、楽しみにしています。	
39	第6章-9-(1)～(3)	管理・運営計画	「丘珠縄文遺跡公園」の応援はいたしますが、税金ですので、しっかりと管理して頂きたいと思います。	
40		事業全般	総体的に大いに賛成です。期待しています。	<p>ご意見を踏まえ、今後も、指定管理者制度の導入やサッポロさとらんどとの一体的な管理など、効果的・効率的な管理のあり方について検討していきます。</p> <p>今回いただいたご意見を踏まえながら、今後も、遺跡公園の整備事業を進めていきます。</p>
41		事業全般	遺跡公園の整備によって期待される効果は小さくないと思っています。専門の方々や市民ボランティアの意見を集約し、ぜひ、良い物を作ってください。	
42		事業全般	「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本計画(案)は大変わかりやすくまとめられており、このような施設群は、青少年の教育、市民の生涯教育にとって、新たな機会・方法を与えるものとして大変期待できるものと思います。	
43		事業全般	計画を拝見させていただきました。とても楽しい計画ですね。先人が残した遺物を是非後世に伝える公園を整備して下さい。	
44		事業全般	丘珠縄文遺跡公園、大いに期待しております。全面的に賛同致しますので推進して頂きたいと思います。	
45		事業全般	地域の歴史を知るには良いことだと思います。	
46		事業全般	東区の住民として、遺跡公園ができる事は大歓迎です。楽しみにしております。	
47		事業全般	長期的な総合計画ですね。応援しております。	
48		事業全般	世に「賢者は歴史を学び、愚者は経験に学ぶ」と言われます。埋蔵文化財という歴史的遺産を未来に活かすことが必要です。これまで長きにわたる遺跡・遺構等の発掘調査・研究の集積により得られた埋蔵文化財を適正に保存するとともに、広く一般市民等(観光客を含む)に公開・活用することに重点を置いた施策を図る観点から、慎重に検討が重ねられて来たものと思います。この上は、必要かつ十分な人員配置を含む所要の予算措置をされ、計画通り、「丘珠縄文遺跡公園(仮称)」の実現を図られるよう希望します。	
49		事業全般	特に意見はありません。	

No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
50		事業全般	利用が開始されれば、想定していない利用方法等も出てくるものと思いますが、そういったことにも広く対応可能なものとして計画されているものと感じました。	「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」では、行政、市民、指定管理者が連携しながら、施設の管理運営を目指しており、いただいたご意見を踏まえて、今後、市民などとの協働により、活用方法について検討していきます。
51		事業全般	問題は、この施設の整備費用と完成後の維持管理・運営費用がどの程度かかるのかということです。インターネットで公開されている札幌市の資料によれば、さとらんど自体、約20年前に約290億円を投じ建設され、その後も平成16～18年度には整備事業費として3億6千万円が支出されています。また年間の運営費として指定管理費2億円が経常的に支出されています。新たな施設に係る費用対効果を計画策定者はどのように評価しているのかということは、パブリックコメントを募集するにあたり重要な情報であると考えますが、計画案には提示されていませんでした。その点が残念です。	サッポロさとらんど内にある遺跡公園として、さとらんどの既存の園路や設備等を最大限活かした整備を進めるとともに、既存施設の有効活用についても検討していく方針です。 また、指定管理者制度の導入やさとらんどとの一体的な管理運営など、できる限りコストを抑えた管理運営のあり方についても検討していきます。 ご意見を参考に、今後も、効果的・効率的な整備・運営手法について検討していきます。
52		その他	環境としては、東側に続くモエレ沼公園との一体化した施設と考え整備されてはと思います。行き来しやすい安全な遊歩道を企画する、夏期間はさとらんどで運行されている周遊乗り物のモエレ沼への延長など。交通ではバスのさとらんど経由モエレ沼公園や双方を周回する手段を考えてはと思います。	
53		その他	サッポロさとらんど、モエレ沼公園、丘珠縄文遺跡公園のどれかに訪れた人が、他の公園にも気軽に足を運べる交通手段があると良い。たとえば、三つの公園を結ぶ無料、もしくは低料金の循環バス。また、現在、サッポロさとらんど、モエレ沼公園へは公共交通機関を利用することを想定していないように思える。自家用車でなければとても不便だと感じる。大通公園からシャトルバスがあるが、所要時間が三十分というのは、ちょっと乗る気がしない。地下鉄東豊線の駅からシャトルバスがあれば良いと思う。	サッポロさとらんど内にある遺跡公園として、たくさんの人々が訪れるサッポロさとらんどの他施設やモエレ沼公園と連携し、この地区の更なる魅力アップを図っていくことが大切だと考えています。ご意見を参考に、今後も、サッポロさとらんどやモエレ沼公園との連携について検討していきます。 また、ご意見として、いくつかの解決案をいただいた交通アクセスの利便性については、札幌市全体として取り組まなければならない大きな課題として認識しております。
54		その他	現在もアクセスが悪いので、フットパスのルートを検討してはいかがか。	
55		その他	黒曜石の包丁の販売。	丘珠縄文遺跡を活かした関連グッズの販売については、他都市の類似施設の事例なども踏まえながら、今後、検討していきます。
56		その他	縄文時代に生きていた動物とふれあえるスペースがほしい。	遺跡公園として、頂いたご意見の実現は困難と考えていますが、今後、展示等における当時の動物に関する情報の発信について検討していきます。

No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
57		その他	園内にスターボックスなどの少しおしゃれな休むところがあるとうれしい。展示品などをもう一度くわしく見てみたりしやすくなると思う。	さとらんどセンターや手づくり工房まきば館に設置されている食堂・売店や休憩スペース等、サッポロさとらんど全体の施設配置を踏まえ、効果的な休憩スペースの配置について検討していきます。
58		その他	私の先祖は近くに明治中期に入植したので、特に伏古川については、水路として使用された時代があったと聞いている。そちらとの関係も結んでいる歴史にもつなげて欲しい。	丘珠縄文遺跡を活用した遺跡公園として、土器や石器などの考古学資料を展示し、縄文文化の魅力を発信していく方針ですが、札幌の歴史のつながりがわかるように、年表や地質・地形に関する情報の発信についても検討していきます。
59		その他	丘珠縄文遺跡は、本物の遺跡だと信用してよいのか。何を根拠に本物の遺跡として扱っているのか根拠を示してほしい。	丘珠縄文遺跡（H508 遺跡）は、文化財保護法に基づき埋蔵文化財包蔵地として登録されている縄文文化の遺跡です。

「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本計画【概要版①】

第1章 事業の目的

- 歴史や文化を尊重し、環境に配慮した生活空間を希求する社会的要請
- 「埋蔵文化財行政の推進による地域づくり・ひとづくり」という新たな方向性（文化庁）
- 札幌の特色ある文化財を積極的に活用していく方針（札幌市）

サッポロさとらんど内に保存されている縄文文化の遺跡（H508遺跡：通称「丘珠縄文遺跡」）を活用して、市内初の遺跡公園を整備する

札幌の縄文文化の魅力を発信するために、遺跡を適切に保存し、地域の歴史資源・文化資源・教育資源として、その価値を将来へと伝えていく

第2章 事業の位置付けと計画策定の経緯

まちづくりの長期計画「札幌市まちづくり戦略ビジョン」（平成25～34年度）

中期実施計画「第3次札幌新まちづくり計画」（平成23～26年度）

政策目標5「市民が創る自治と文化の街」
重点課題2「多彩な文化芸術とスポーツを楽しむ健康づくりを推進するまちづくり」
施策「市民が多彩な文化芸術に親しむとともに、**「(仮称)古代の里」の整備**
自ら作り上げる文化活動の振興」

「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本構想（平成26年8月策定）

「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本計画

第3章 周辺地域の環境

1 札幌の縄文遺跡

札幌市内では、これまでの調査で500カ所以上の遺跡が発見されています。そのうち265カ所の遺跡で、縄文文化の早期から晩期にかけての遺構や遺物が発見されています。縄文遺跡は、標高の高い東部の台地や丘陵地に多く分布します。

2 遺跡の位置と周辺の環境

(1) 地理的環境

丘珠縄文遺跡：札幌市の北部に広がる沖積平野に立地。
縄文晩期の旧地表面の標高は3m前後と、低い土地に残された遺跡。

(2) 歴史的環境

北海道には、25000年前頃には北東アジアや東アジアから人々が渡来。
15000年前頃からはじまる気候の温暖化に伴い、北海道も本州と同じように、狩猟・漁撈・採集を生業とし竪穴住居で生活する縄文文化へと移り変わります。

(3) 社会的環境

サッポロさとらんど：「人と農業・自然とのふれあい」、「都市と農業の共存」をテーマとする農業体験交流施設。
サッポロさとらんど周辺には、モエシ沼公園をはじめとして、丘珠緑地、丘珠空港緑地、札幌コミュニティドーム「つどーむ」など、文化施設や緑地が多く整備されています。

第4章 丘珠縄文遺跡の概要

- 平成4・5年に実施した遺跡の有無を調べる予備的な調査（試掘調査）で、市内有数の広がりを持つ縄文文化の遺跡であることが明らかに
- ▶ 盛土されて地下に保存（平成5年～）
- ▶ 平成25・26年度に、遺跡公園の整備に向けて、遺跡の具体的な内容を把握するための確認調査を実施

【遺跡の特徴】市内の他の縄文文化の遺跡との比較に基づき丘珠縄文遺跡の特徴を4つのキーワードに整理

「広い」 市内最大級の約25,000㎡の広さを有する縄文晩期(約2300年前)の遺跡

「低い」 市内では数少ない沖積平野の低地部に立地する縄文遺跡

「多い」 縄文晩期の複数の地層から、炉跡26カ所や土器・石器等6,800点程が出土

「貴重」 市内の縄文遺跡で唯一ヒ工属の種子発見

その他にも、炉跡周囲の土壌からサケ科等の魚骨片、チョウザメ科の鱗板片、動物(哺乳綱)の骨片、クルミ属の内果皮片等の生業や食生活に関する貴重な資料を発見



第5章 基本方針

1 整備の意義

丘珠縄文遺跡は、札幌の低地部を利用した狩猟・漁撈・採集等の季節的な生業活動が繰り返されることによって形成された遺跡と考えられ、縄文晩期から続縄文文化、擦文文化へと展開する**札幌低地における生業形態の原形を示し、縄文文化から続く札幌の歴史を示す象徴的な遺跡のひとつ**と評価されます。

この遺跡を活用して、**豊かな地形環境に適応していった札幌の縄文文化の魅力を発信し、「食文化」をはじめとする縄文文化を体感できる場を創出**します。

2 遺跡公園の位置付け

丘珠縄文遺跡を活かして札幌の縄文遺跡の魅力を発信する活用機能に特化した体験型の施設
主な利用者像：市民、市内外の小中学生（校外学習等）、観光客

3 遺跡公園のテーマ 『川辺に広がる札幌の縄文、その「食文化」をはじめとする縄文の体感』

4 整備の基本方針

方針1 札幌の縄文遺跡の魅力発信に向けた
丘珠縄文遺跡の整備

5 整備の方向性

方向性① 「札幌の縄文」を発信します
方向性② 縄文遺跡である丘珠縄文遺跡を適切に保存するとともに、遺跡の価値を継続的に探求・発信します

方針2 縄文文化の体験と学びの展開

方向性① 縄文文化を体験できる活動を展開します
方向性② 縄文文化の学びの導入としてガイダンス施設を設置します

方針3 市民との協働による遺跡の活用

方向性① 遺跡の整備と活用・運営を市民との協働で進めます
方向性② 地域に根ざした施設づくりを目指します

方針4 「学び」のネットワークづくりと
市民交流の場の創出

方向性① 「学び」のネットワークづくりを進めます
方向性② 市民交流の場を創出します

第6章 整備計画

整備の考え方

「市民が育てる
成長する遺跡公園」

市民の手による調査・研究・検討の積み重ねが、将来的に「札幌の縄文」や「縄文文化のたたまい」を感じられる空間の創出につながっていく。

▼遺跡の復元整備（遺跡復元展示施設の設置、地形復元、植生復元等）は、市民との協働による継続的な調査・研究の成果に基づき、長期的な視野に立ち検討を進めていく方針とします。

▼サッポロさとらんどと連携した活用・運営をとおして、教育・文化・観光資源として、さとらんど全体の魅力を高めていくことも目指しています。

⇒ サッポロさとらんど全体の空間利用との調和を図るとともに、さとらんど現在の機能や利便性を損なわないように、既存の園路・樹木・設備等を最大限活かした整備を進める方針とします。さらに、さとらんど既存施設の有効活用についても検討していく方針とします。

「調査・研究」、「展示・公開」、「体験活動」という3つの機能を展開

地下に眠る縄文の息吹にふれ、
縄文の暮らしを学び、体感する 『札幌の縄文の体感』



市民参加の発掘調査



展示解説

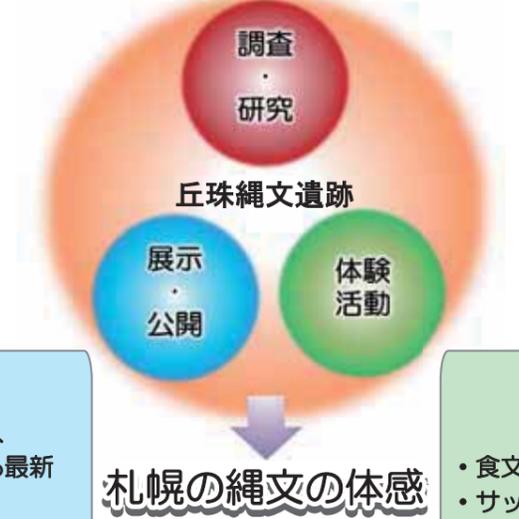
**市民参加による
継続的な発掘調査**
「地下をのぞき、遺跡を体感する」機会を広く市民に提供していくことにより、復元整備やレプリカ等の展示では伝えきれない「本物の魅力」を発信。



市民参加の発掘調査



土器づくり



展示機能の充実

- ・縄文文化の「学び」の導入
- ・継続的な調査・研究による最新成果の発信
- ・見学者を惹き付ける展示解説

体験活動
メニューの充実

- ・食文化をはじめとした縄文体験
- ・サッポロさとらんどとの連携
- ・市民と協働でのメニュー開発

ゾーニング ～4つのゾーンから構成～

①保存整備ゾーン

発掘調査ゾーン

市民参加による継続的な発掘調査を実施する空間、市民が多目的に利用できる空間として、現状の景観を活かしつつ、必要に応じて、地表面を整地するとともに、復旧しやすい芝張り整備を行う。

遺跡保全ゾーン

既存の盛土を活かし、遺跡を恒久的に保存するとともに、バッファゾーンと一体的に、既存の樹木を活かした緩衝帯として位置付ける。

②ガイダンス施設・体験施設ゾーン

ガイダンス施設ゾーン

体験学習機能を備えたガイダンス施設を整備する。

屋外体験学習ゾーン

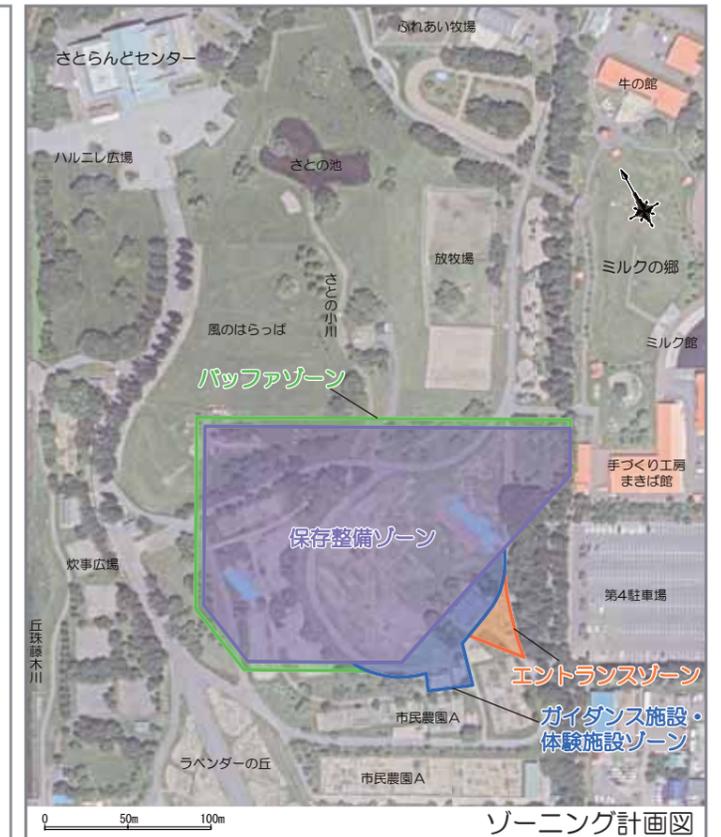
体験広場を整備（火おこし体験や土器の野焼きなど）

③エントランスゾーン

エントランス空間を演出する修景。案内サイン等を整備。

④バッファゾーン

遺跡を保護する緩衝帯として、可能な限り現状を維持。



ゾーニング計画図



整備対象面積約30,000㎡（バッファゾーン含む）
ゾーニング施設配置図

第6章 整備計画

調査研究

- 市民参加による継続的な発掘調査
- 市民参加による整理作業・研究活動
- 市民との協働による発掘調査成果の発信

体験活動

■ 縄文体験活動

- 食文化の体験
素材：サケ、ウグイ、チョウザメ、クルミ、ヒエなど
活動例：栽培体験、収穫体験、調理体験など
- 暮らしの体験
素材：炉跡、土器、石器、土製品、装飾品など
活動例：火おこし、土器づくり、石器づくりなど



火おこし体験



石器づくり体験

■ 調査体験活動

- 発掘調査の体験
発掘調査の見学、発掘調査の体験
- 整理作業の体験
整理作業の見学、遺物洗い体験、接合体験、拓本体験など



発掘調査の体験



土器の復元体験

管理・運営計画

- 市民ボランティアや地域の方々との密接な連携
- 学術的な研究成果に基づいた継続性
- 教育資源や観光資源としての活用
- ⇒ 行政が主体的に関わり、市民と連携した管理・運営体制を構築することが必要となります。
- ⇒ 行政は、市民ボランティアや地域の方々を恒常的に支援していくとともに、市民から市民に発展的に活動が継承されていく体制の円滑な組織化をサポートしていきます。

ガイダンス施設

■ 位置付け

調査・研究により得られた最新の成果を常に展示と体験活動に活かし、地下に眠る遺跡を直接感じることができる場所で、遺跡のガイダンスと体験活動を一つのセットとして展開していくことが、丘珠縄文遺跡に対する深い理解と縄文文化の効果的な学びに繋がっていく

市民ボランティアが発掘調査と整理作業・研究活動を継続し、また、遺跡公園を訪れた方が、丘珠縄文遺跡の発掘調査の成果を見学し、縄文の暮らしを学び・体験できる施設を、遺跡を臨む空間に整備する

■ 機能

ガイダンス施設は、下記の6つの機能を有する施設を想定します。なお、一部の機能については、サッポロさとらんの既存施設の有効活用を念頭に検討していきます。

- | | |
|--------------|------------|
| 1) 展示・情報発信機能 | 2) 体験学習機能 |
| 3) 整理・研究機能 | 4) 管理・運営機能 |
| 5) 収蔵・保管機能 | 6) 便益機能 |

■ 規模

ガイダンス施設については、サッポロさとらんの既存施設の有効活用や多目的な空間利用など、費用対効果を考慮し、必要な規模を検討していきます。

■ 構造

文化財の展示・収蔵・保管施設として、耐火性・耐震性を有する構造と適切な防火設備・防犯設備の設置が求められます。

多様な市民ニーズにより効果的・効率的に対応
⇒ 民間の自由な発想・能力を活用していくことが求められている
⇒ 施設の管理・運営に、指定管理者制度の導入を検討

◎サッポロさとらんととの一体的な管理運営など、できる限りコストを抑えた管理運営のあり方についても、検討していきます。

公開・活用計画

■ 公開方法

- 開園日・開園時間：さとらんどに準じる
- 利用料金：ガイダンス施設入館無料、体験活動有料

■ 活用計画

- ガイダンス施設を学びの導入とし、札幌の縄文文化と丘珠縄文遺跡を発信
- 市民参加の継続的な発掘調査をとおして、「地下をのぞき、遺跡を体感する」機会を提供し、「本物の魅力」を広く市民に伝えていく
- 学校教育と連携した小中学校の校外学習としての活用
実物にふれ、体験を行うことによって、縄文文化の知恵や技術に気づき、現代の暮らしと縄文文化を比較することができるようなプログラムを検討。
- 観光資源としての活用
例えば、体験型の観光ツアーなど、観光客の集客に向けた取組を、サッポロさとらんと連携し検討。

※活用においては、利用者の中から市民ボランティアとして、丘珠縄文遺跡の継続的な調査・研究や体験活動に主体的に取り組んでいく人材が育成できるような取組についても検討。

活用計画（参考）

項目	内容	対象※			
		ボランティア	市民	小中学生団体	観光客
ガイダンス	札幌の縄文文化と丘珠縄文遺跡の発信 施設情報・イベント情報等の発信	◎	●	●	●
発掘調査	市民参加による継続的な発掘調査 遺跡見学会などイベントの開催	◎	●	●	●
整理作業	遺物の基礎整理 調査情報の基礎整理	◎	●		
研究活動	ボランティア研修会、学習会の開催 講座、講演会の開催	●	●	●	●
縄文体験活動	食文化の体験 暮らしの体験	◎	●	●	●
調査体験活動	発掘調査の体験 整理作業の体験、バックヤードツアー	◎	●	●	●
活動成果の発信	学習・研究成果の発表 展示の更新、企画展の開催	◎	●	●	●

※「対象」欄の「◎」は、ガイドや発表者としての参加を意味する。

⇒ サッポロさとらんど内にある施設として、全体の魅力を高めていくことにより、年間およそ60,000人の方々が遺跡公園を訪れることを想定。



展示見学



遺跡見学会



土器づくり

第7章 事業スケジュール

平成26年度 基本計画の検討

平成27～29年度 公開・活用及び管理・運営に関する検討、基本・実施設計、施設建築等

平成30年度 オープン予定

編集・発行

札幌市観光文化局文化部文化財課埋蔵文化財係

札幌市埋蔵文化財センター

〒064-0922 札幌市中央区南 22 条西 13 丁目

TEL 011-512-5430 / FAX 011-512-5467

<http://www.city.sapporo.jp/kankobunka/maibun/>

市政等資料番号 01-J02-15-417

この冊子は再生紙を使用しています